

# 栃木県障害のある方の生活実態調査結果

令和6(2024)年3月

栃木県

# 栃木県障害のある方の生活実態調査結果

## 1 調査の目的

次期「栃木県障害者計画」の策定や今後の障害保健福祉施策の推進に役立てるため、障害者の日常生活や困り事等を調査した。

## 2 調査の内容

### (1) 調査対象者

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病患者（特定医療費（指定難病）受給者証所持者）の中から抽出した1,200人にアンケート用紙を送付した。

身体障害者手帳所持者：690人

療育手帳所持者：190人

精神障害者保健福祉手帳所持者：170人

特定医療費（指定難病）受給者証所持者：150人

※調査対象者数は、障害の程度・種類及び年齢の割合を勘案して抽出した。

(2) 回答数 401人（回答率33.4%）

(3) 実施期間 令和5（2023）年7月1日～7月21日

### (4) 調査内容

- ・ 基本情報（記入者、年齢、性別、居住地、障害の内容等）※無記名式
- ・ 相談について
- ・ 老化・高齢化について
- ・ 障害者差別解消について
- ・ 情報アクセシビリティについて
- ・ コミュニケーションについて
- ・ 暮らしについて
- ・ 療育について
- ・ 就労について
- ・ スポーツについて
- ・ 文化芸術活動について
- ・ 災害対策について 等

## 3 調査結果の見方

- ・ 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。  
このために、百分率の合計が100.0%にならないことがある。
- ・ 設問や選択肢の内容を令和2年度調査時から大きく変更した項目は、令和5年度の調査結果と比較していない。

## 目 次

### 1 単純集計結果

●基本情報について	1
(1) 記入方法	
(2) 年齢	
(3) 性別	
(4) 居住地	
(5) 手帳等の種類（障害種別）	
① 身体障害者手帳の障害の程度	
② 療育手帳の障害の程度	
③ 精神障害者保健福祉手帳の障害の程度	
●相談について	5
問1 悩み事	
問2 相談支援体制へ希望すること	
●老化・高齢化について	7
問3 老化・高齢化に伴う身体等の機能低下	
問4 認知症を予防するための取組	
●障害者差別解消について	8
問5 差別の有無	
問6 差別を感じた時	
問7 差別に関する相談先	
問8 差別に関する相談をしない理由	
問9 差別の改善	
問10 共生社会に必要なこと	
問11 ヘルプマークの利用の有無	
●情報アクセシビリティについて	12
問12 日常的な情報収集先	
●コミュニケーションについて	13
問13 コミュニケーションの手段	
問14 コミュニケーション時に困ったこと	
●暮らしについて	15
問16 どのように暮らしているか	
問17 今後の暮らし	
問18 希望する暮らしを送るために必要な支援	
●療育について	17
問19 保育・療育・教育環境について希望すること	
●就労について	18
問20 仕事をしたことの有無	
問21 仕事を続けるために必要な配慮	
問22 雇用する側に求める合理的配慮	
●スポーツについて	20
問23 スポーツを行っているか	
問24 スポーツを行わない理由	
問25 今後行ってみたいスポーツ	
問26 スポーツを行うために必要な支援	
●文化芸術活動について	23
問27 行っている文化芸術活動	
問28 文化芸術活動を行っていない理由	
問30 文化芸術活動を行う際の課題	
●災害対策について	25
問31 自治会への加入の有無	
問32 災害時にひとりで避難できるか	
問33 災害時に近所に助けてくれる人はいるか	
問34 災害時の不安	

## 2 クロス集計結果

### ア) 障害種別 (区分: 身体、知的、精神、複合、難病)

●相談について	27
問1 悩み事	
問2 相談支援体制へ希望すること	
●老化・高齢化について	29
問3 老化・高齢化に伴う身体等の機能低下	
問4 認知症を予防するための取組	
●障害者差別解消について	30
問5 差別の有無	
問6 差別を感じた時	
問7 差別に関する相談先	
問8 差別に関する相談をしない理由	
問9 差別の改善	
問10 共生社会に必要なこと	
問11 ヘルプマークの利用の有無	
●情報アクセシビリティについて	33
問12 日常的な情報収集先	
●コミュニケーションについて	34
問13 コミュニケーションの手段	
問14 コミュニケーション時に困ったこと	
●暮らしについて	35
問16 どのように暮らしているか	
問17 今後の暮らし	
問18 希望する暮らしを送るために必要な支援	
●療育について	37
問19 保育・療育・教育環境について希望すること	
●就労について	38
問20 仕事をしたことの有無	
問21 仕事を続けるために必要な配慮	
問22 雇用する側に求める合理的配慮	
●スポーツについて	40
問23 スポーツを行っているか	
問24 スポーツを行わない理由	
問25 今後行ってみたいスポーツ	
問26 スポーツを行うために必要な支援	
●文化芸術活動について	43
問27 行っている文化芸術活動	
問28 文化芸術活動を行っていない理由	
問30 文化芸術活動を行う際の課題	
●災害対策について	45
問31 自治会への加入の有無	
問32 災害時にひとりで避難できるか	
問33 災害時に近所に助けてくれる人はいるか	
問34 災害時の不安	

### イ) 年齢 (区分: 17歳以下、18~39歳、40~64歳、65歳以上)

●相談について	47
問1 悩み事	
問2 相談支援体制へ希望すること	
●老化・高齢化について	49
問3 老化・高齢化に伴う身体等の機能低下	
問4 認知症を予防するための取組	

●障害者差別解消について・・・・・・・・・・・・・・・・	51
問 5 差別の有無	
問 10 共生社会に必要なこと	
●暮らしについて・・・・・・・・・・・・・・・・	52
問 16 どのように暮らしているか	
問 17 今後の暮らし	
問 18 希望する暮らしを送るために必要な支援	
●療育について・・・・・・・・・・・・・・・・	54
問 19 保育・療育・教育環境について希望すること	
●スポーツについて・・・・・・・・・・・・・・・・	55
問 23 スポーツを行っているか	
問 24 スポーツを行わない理由	
問 26 スポーツを行うための支援	
●文化芸術活動について・・・・・・・・・・・・・・・・	57
問 27 行っている文化芸術活動	
問 28 文化芸術活動を行わない理由	
問 30 文化芸術活動を行う際の課題	
●災害対策について・・・・・・・・・・・・・・・・	59
問 32 災害時に一人で避難できるか	
問 34 災害時の不安	
ウ) 障害保健福祉圏域 (区分: 居住市町により 6 つの圏域別)	
●相談について・・・・・・・・・・・・・・・・	60
問 1 悩み事	
問 2 相談支援体制へ希望すること	
●暮らしについて・・・・・・・・・・・・・・・・	62
問 18 希望する暮らしを送るために必要な支援	
3 その他 (自由記述欄) の内容のまとめ・・・・・・・・	63
(資料) 栃木県障害のある方の生活実態調査 調査票・・・・・・・・	77

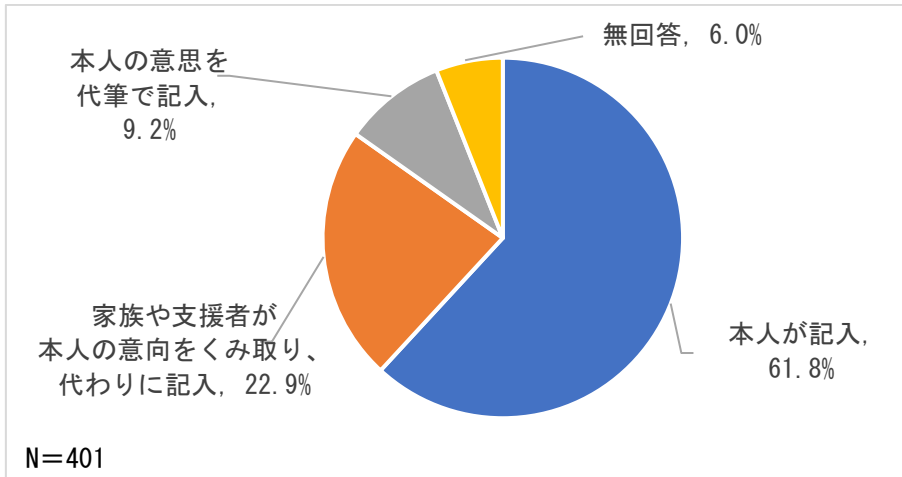
## 1 単純集計結果

### ●基本情報について

#### (1) 記入方法

問 この調査の回答方法について、教えてください

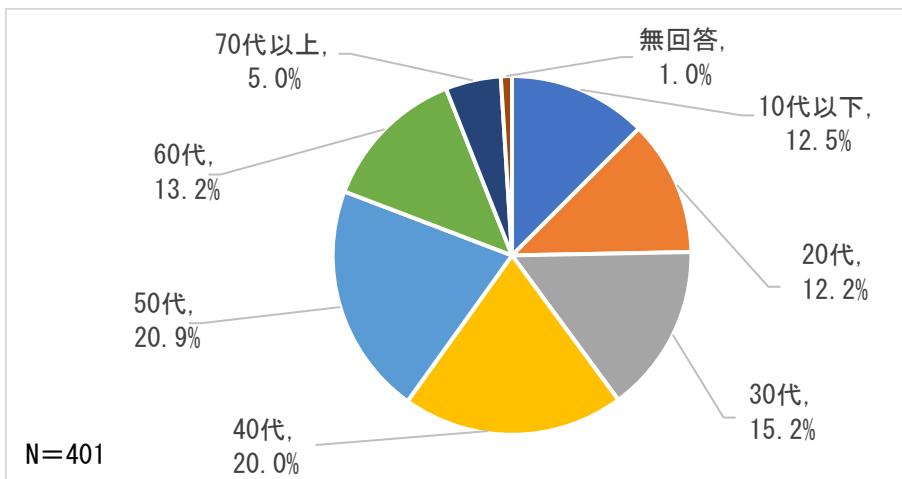
記入者は、「本人が記入」が 61.8%で最も高く、次いで「家族や支援者が本人の意向をくみ取り、代わりに記入」が 22.9%、「本人の意思を代筆で記入」が 9.2%となっています。



問 御本人の現在の状況について、教えてください

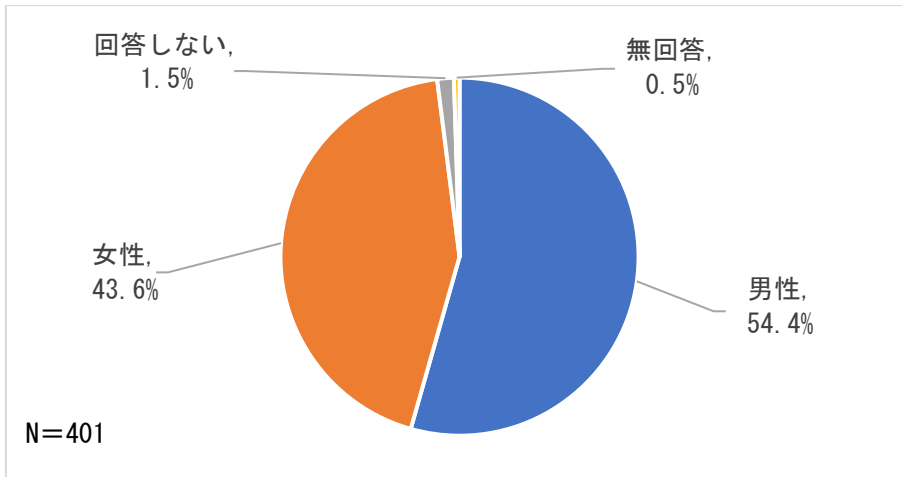
#### (2) 年齢

回答者の年齢層は「50代」が 20.9%で最も高くなっています。次いで「40代」が 20.0%、「30代」が 15.2%となっています。



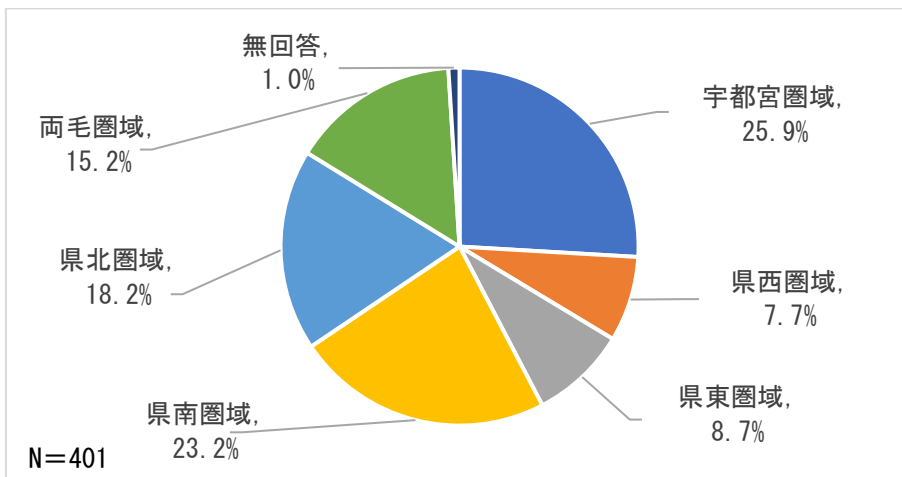
### (3) 性別

回答者の性別は「男性」が54.4%、「女性」が43.6%となっています。



### (4) 居住地

回答者の居住地は「宇都宮圏域」が25.9%で最も高くなっています。次いで「県南圏域」の23.2%、「県北圏域」の18.2%、「両毛圏域」の15.2%となっています。

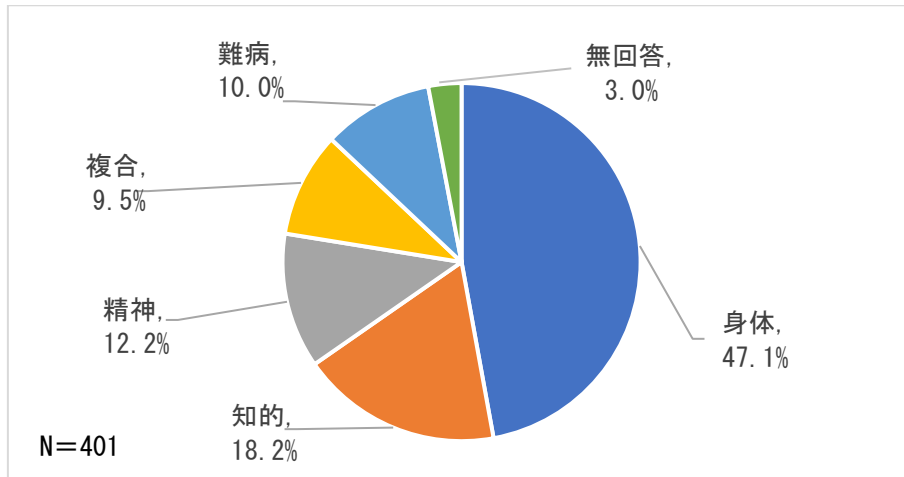


#### ※障害保健福祉圏域

圏域名	構成市町名
宇都宮	宇都宮市
県西	鹿沼市、日光市
県東	真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町
県南	栃木市、小山市、下野市、上三川町、壬生町、野木町
県北	大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町
両毛	足利市、佐野市

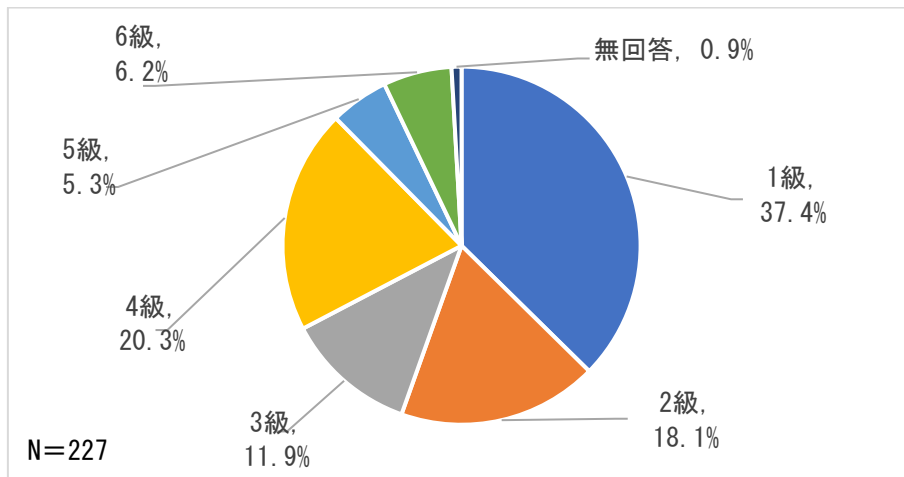
### (5) 手帳等の種類（障害種別）

回答者が所持している手帳は、「身体障害者手帳」のみ所持している方（身体）が47.1%で最も高くなっています。次いで「療育手帳」のみ所持している方（知的）が18.2%、「精神障害者保健福祉手帳」のみ所持している方（精神）が12.2%、「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」のいずれか2つ以上を所持している方（複合）は9.5%となっています。一方、「特定医療費（指定難病）受給者証」を所持しているがいずれの手帳も所持していない方（難病）は10.0%となっています。



### ① 身体障害者手帳の障害の程度

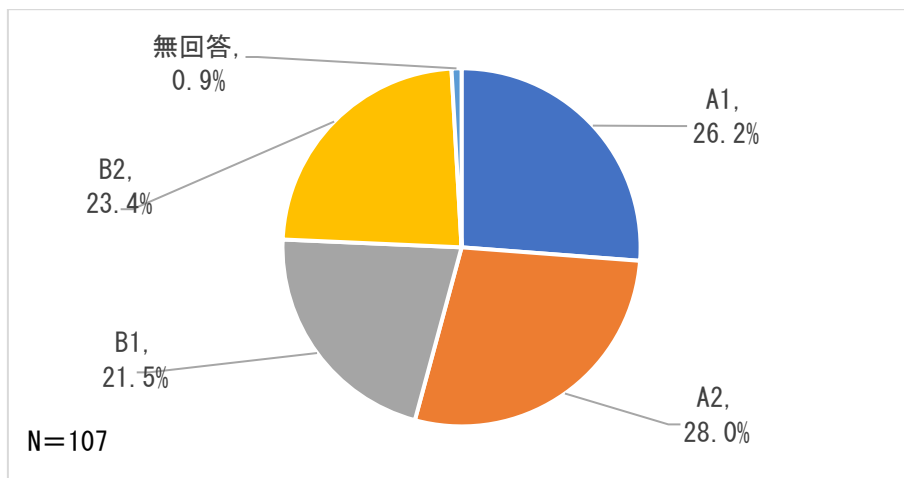
身体障害者手帳の障害の程度は、「1級」が37.4%で最も高くなっています。次いで「4級」の20.3%、「2級」の18.1%となっています。





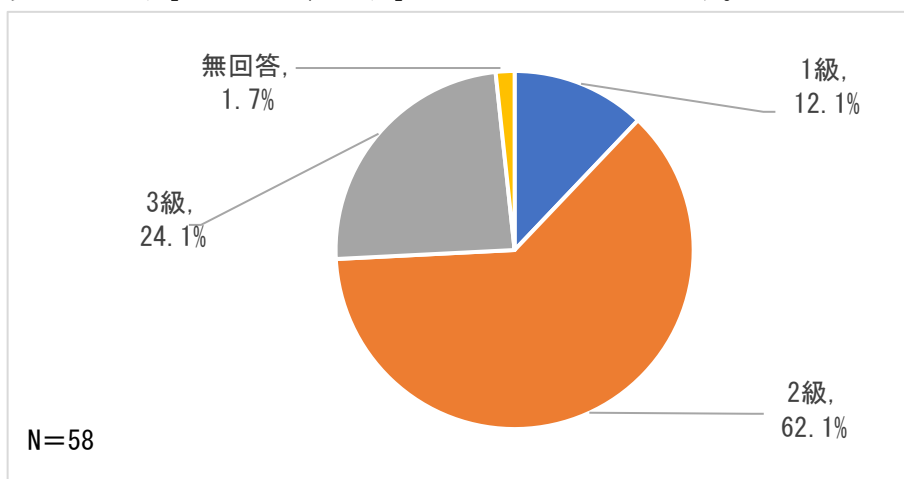
## ②療育手帳の障害の程度

療育手帳の障害の程度は、「A2」が 28.0%で最も高くなっています。次いで「A1」の 26.2%、「B2」の 23.4%となっています。



## ③精神障害者保健福祉手帳の障害の程度

精神障害者保健福祉手帳の障害の程度は、「2級」が 62.1%で最も高くなっています。次いで「3級」の 24.1%、「1級」の 12.1%となっています。

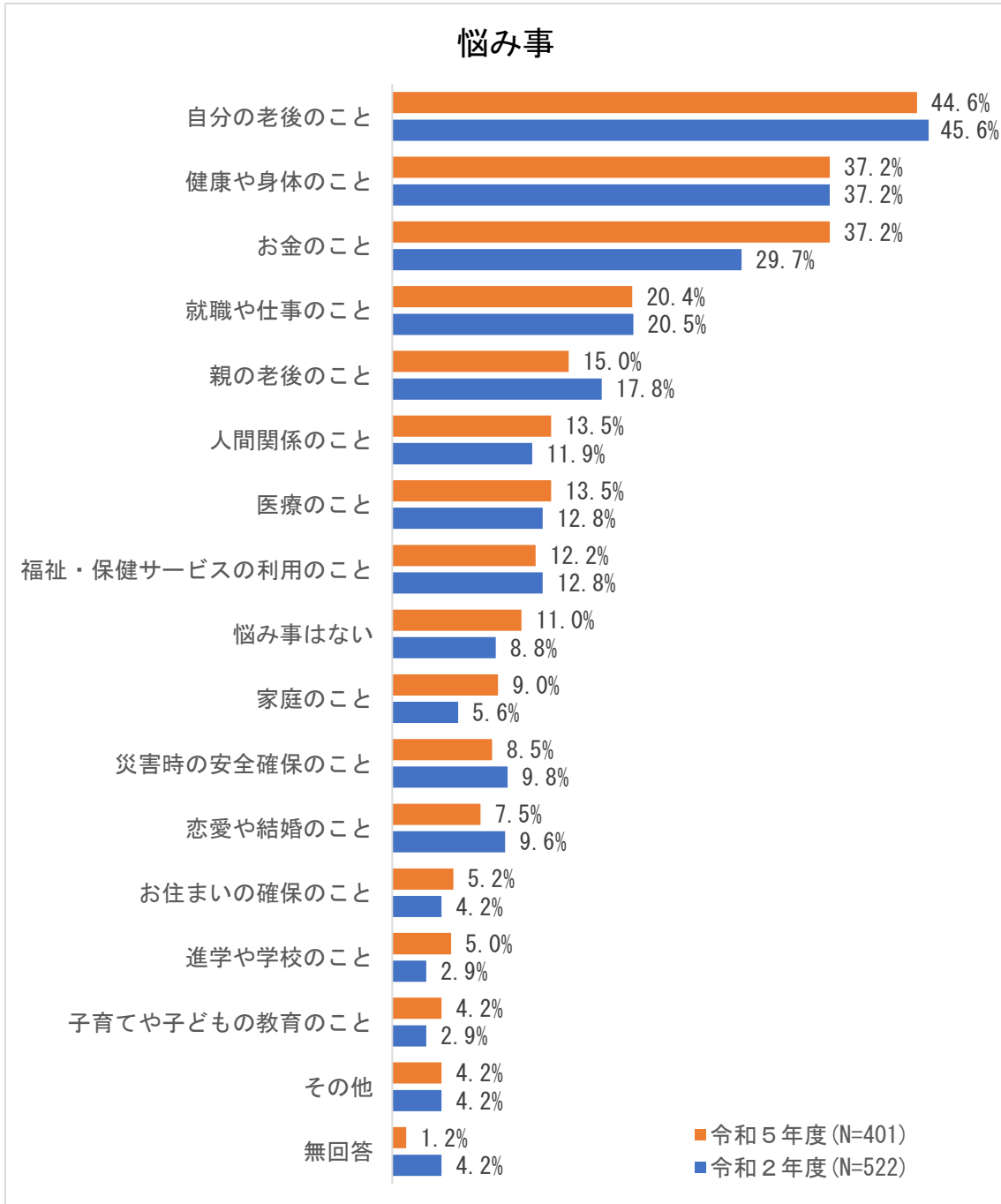


●相談について

問1 現在、悩み事がありますか。 <3つまで○をつける>

現在の悩み事については、「自分の老後のこと」が44.6%で最も高くなっています。次いで「健康や身体のこと」「お金のこと」の37.2%、「就職や仕事のこと」の20.4%と続いています。

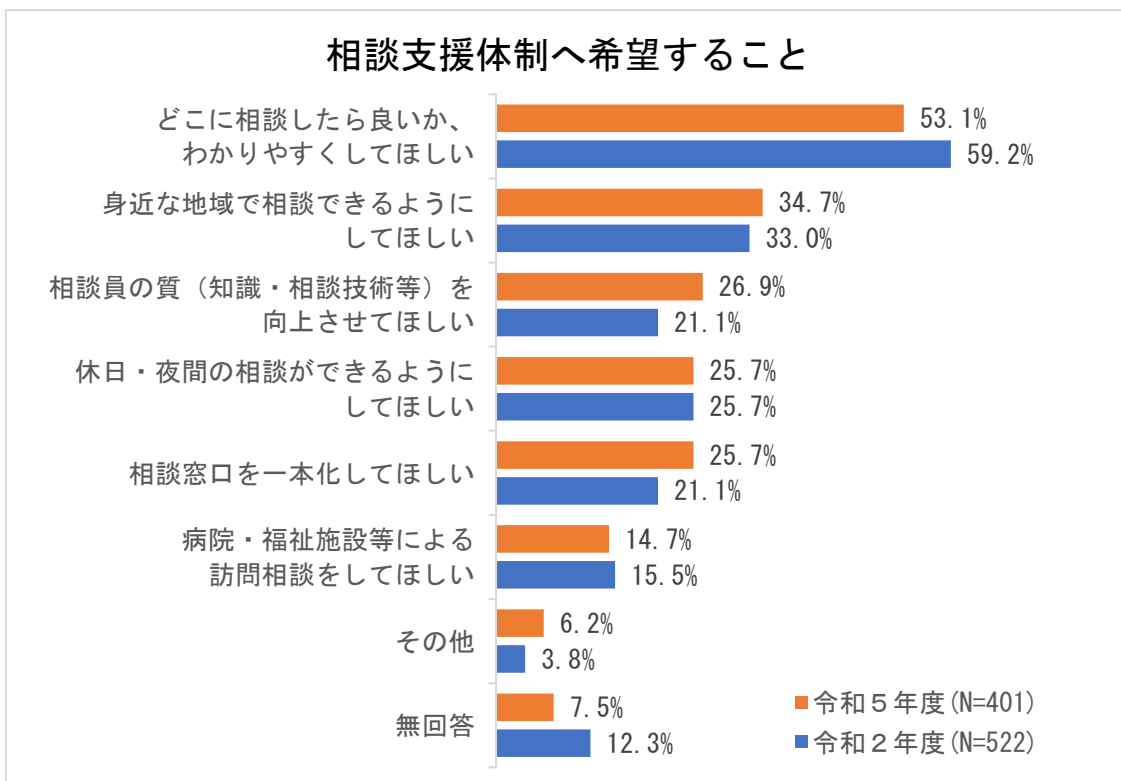
令和2年度の調査と比較すると、「お金のこと」の割合が上昇しています。



問2 今後、福祉や生活に関する相談支援体制として、どのようなことを希望しますか。＜3つまで○をつける＞

相談支援体制として希望することについては、「どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい」が53.1%で最も高くなっています。次いで、「身近な地域で相談できるようにしてほしい」の34.7%、「相談員の質（知識・相談技術等）を向上させてほしい」の26.9%と続いています。

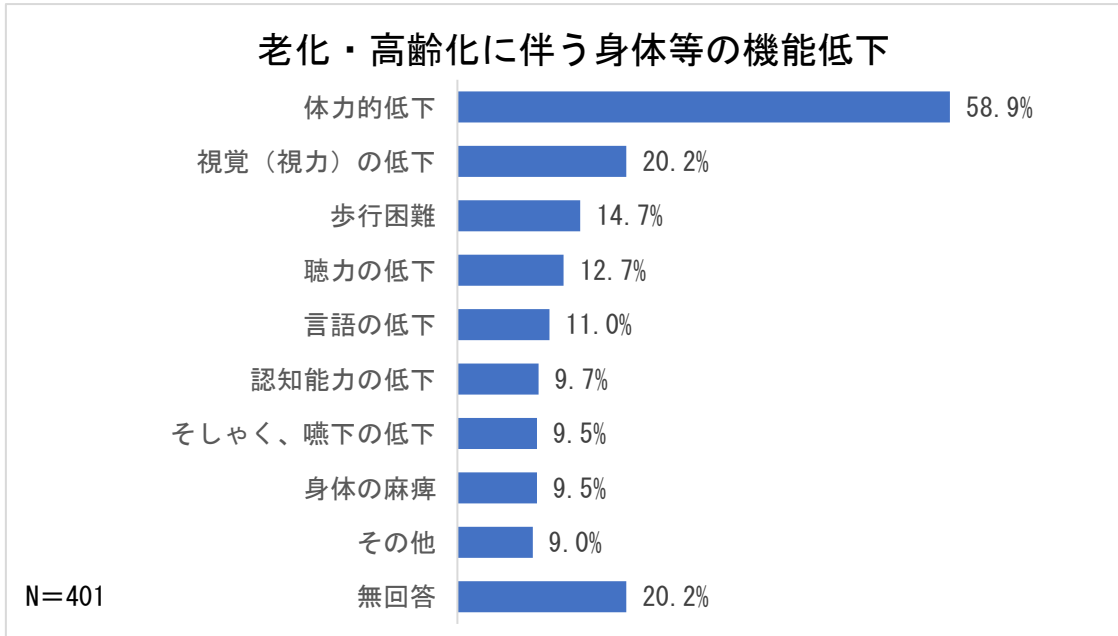
令和2年度の調査と比較すると、「相談員の質（知識・相談技術等）を向上させてほしい」「相談窓口を一本化してほしい」の割合が上昇し、「どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい」の割合は低下しています。



●老化・高齢化について

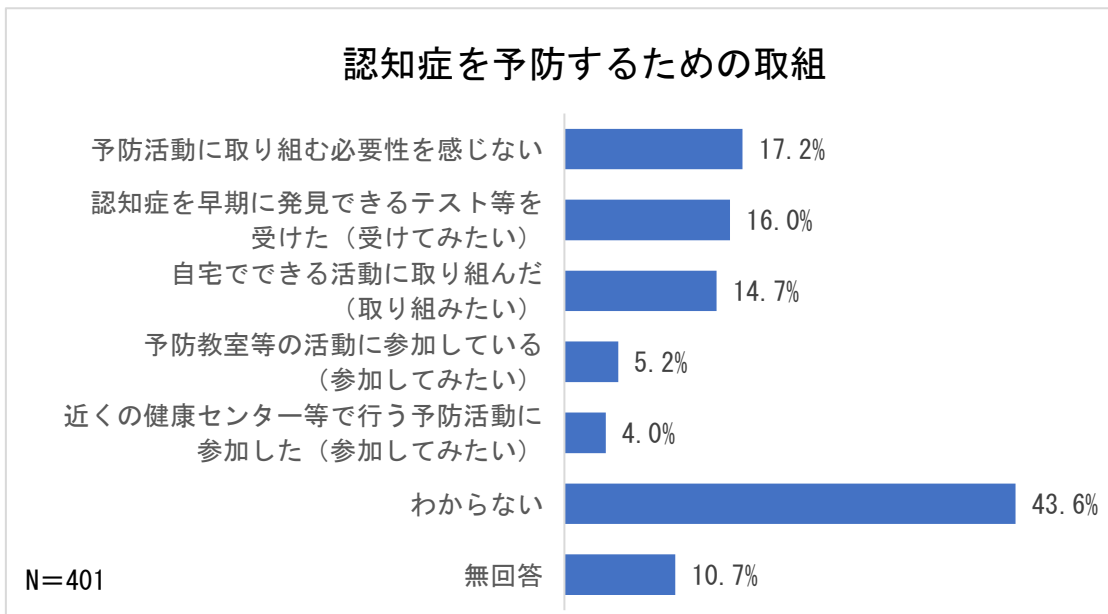
問3 あなたは、老化・高齢化に伴う身体等の機能低下を感じていますか。  
 <あてはまるものすべてに○をつける>

老化・高齢化に伴う身体等の機能低下を感じることは、「体力的低下」が58.9%と最も高くなっています。次いで「視覚（視力）の低下」の20.2%、「歩行困難」の14.7%と続いています。



問4 あなたは、認知症を予防するための活動に取り組んでいますか、もしくは取り組んでみたいと思いますか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

認知症を予防するための活動については、「わからない」「無回答」を除くと、「予防活動に取り組む必要性を感じない」が17.2%と最も高くなっています。次いで「認知症を早期に発見できるテスト等を受けた（受けてみたい）」の16.0%と続いています。

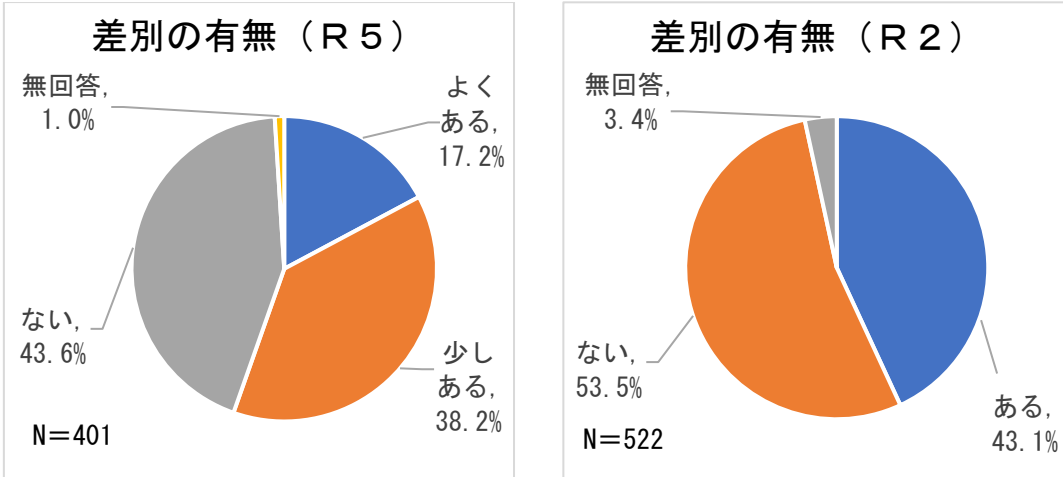


●障害者差別解消について

問5 あなたは障害があることで、差別されたり、嫌な思いをする（した）ことがありますか。

差別の有無については、「ない」が43.6%と最も高くなっていますが、「よくある」と「少しある」の割合を合計すると55.4%となり、「差別がある」が過半数を占めました。

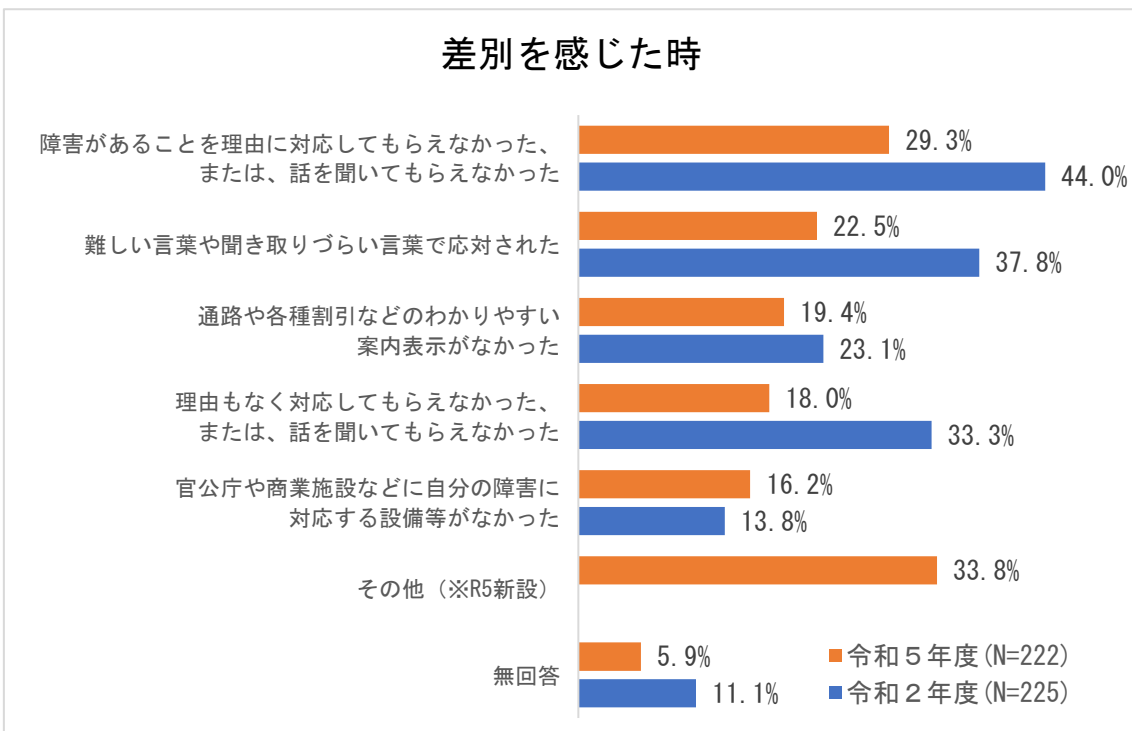
※令和5年度調査では、「少しある」の選択肢を追加しました。



問6 【問5で「1 よくある」、「2 少しある」と回答した方のみ】  
それは、どのような時に感じましたか。 <3つまで○をつける>

問5で差別されたことがあると回答した方がどのような時に差別を感じたかについては、「その他」の33.8%の方が自由記載の回答をしています。具体的な項目では、「障害があることを理由に対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった」の29.3%、次いで「難しい言葉や聞き取りづらい言葉で対応された」の22.5%と続いています。

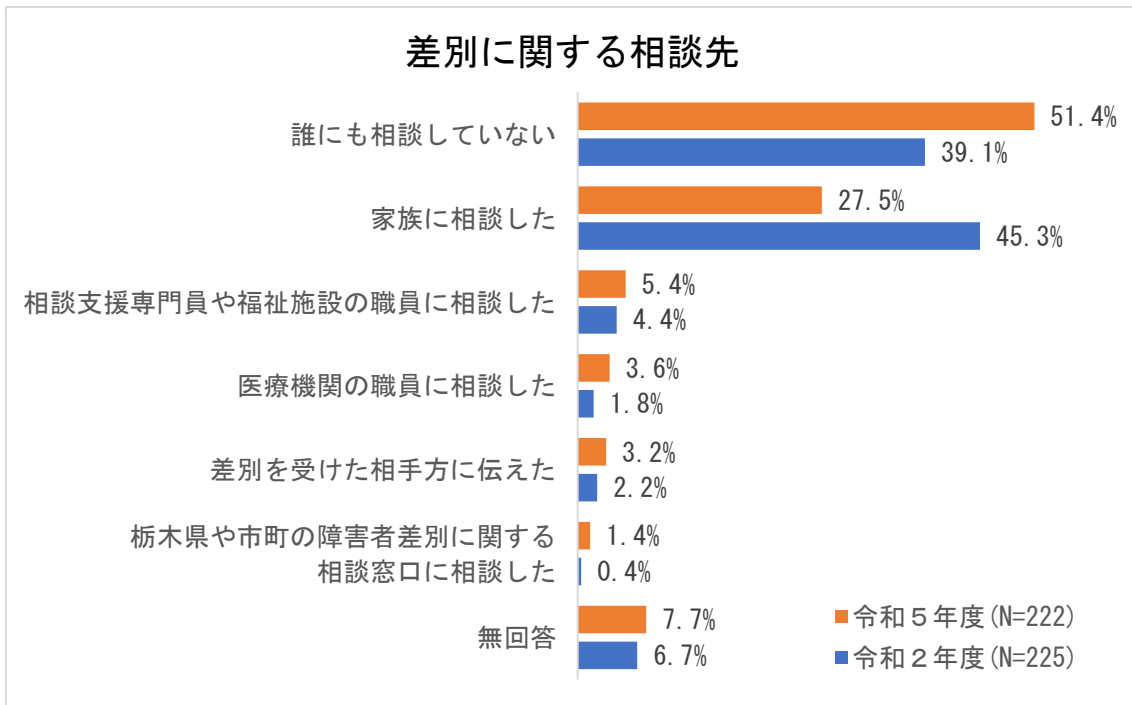
※令和5年度は、「その他」の自由記載の項目を追加しました。



問7 【問5で「1 よくある」、「2 少しある」と回答した方のみ】  
その時、誰かに相談しましたか。

問5で差別されたことがあると回答した方の相談先については、「誰にも相談していない」が51.4%で最も高くなっています。次いで「家族に相談した」の27.5%と続いています。

令和2年度の調査と比較すると、「家族に相談した」の割合が大きく低下し、「誰にも相談していない」の割合が大きく上昇しています。

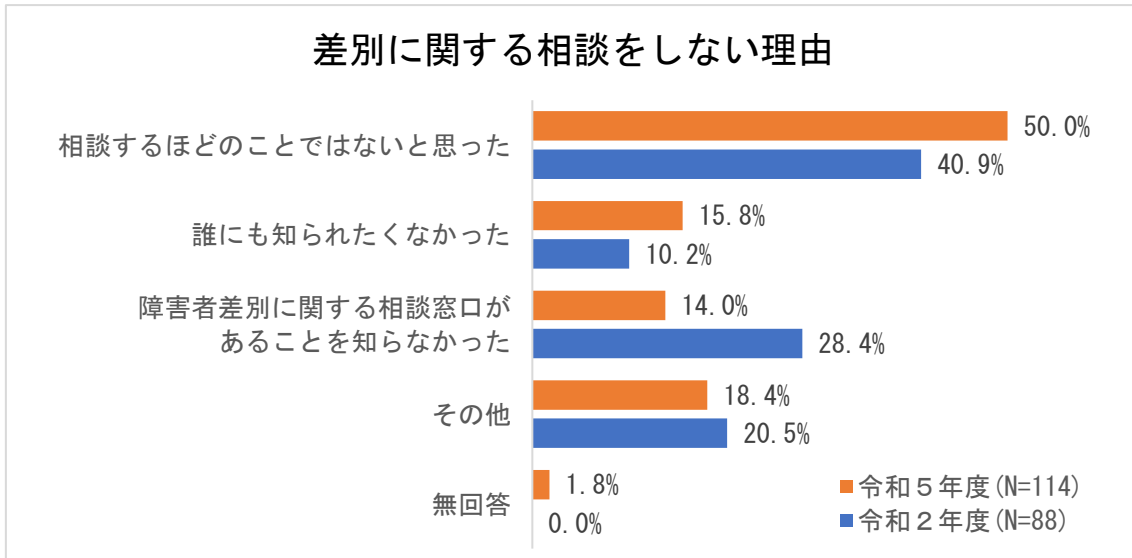


問8 【問7で「6 誰にも相談していない」と回答した方のみ】

それは、なぜですか。

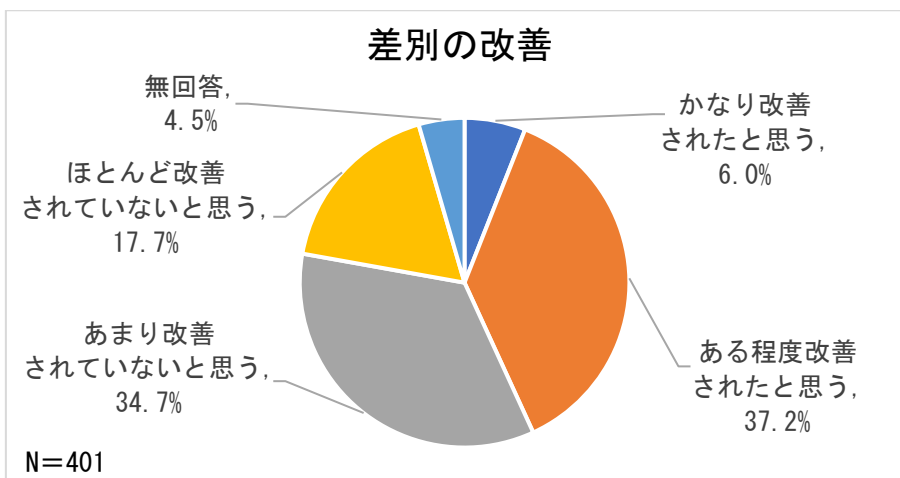
問7で誰にも相談していないと回答した方の相談しない理由については、「相談するほどのことではないと思った」が50.0%で最も高くなっています。次いで「その他」の18.4%、「誰にも知られなくなかった」の15.8%と続いています。

令和2年度の調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思った」の割合が大きく上昇しています。なお、「障害者差別に関する相談窓口があることを知らなかった」の割合は大きく低下しました。



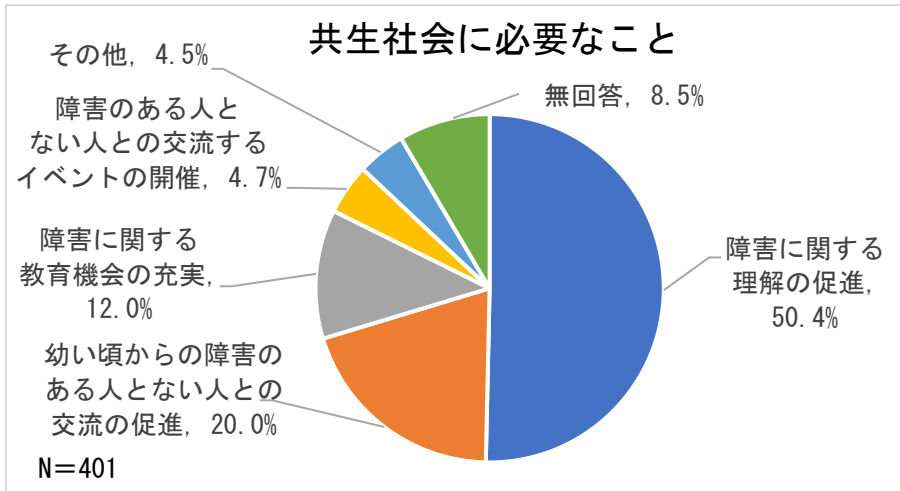
問9 今から3年前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。(障害のある人への理解は進んだと思いますか。)

今から3年前と比べた差別や偏見の改善については、「ある程度改善されたと思う」が37.2%で最も高くなっていますが、「あまり改善されていないと思う」の34.7%、「ほとんど改善されていないと思う」の17.7%と続いております。過半数の方は改善されていないと回答しています。



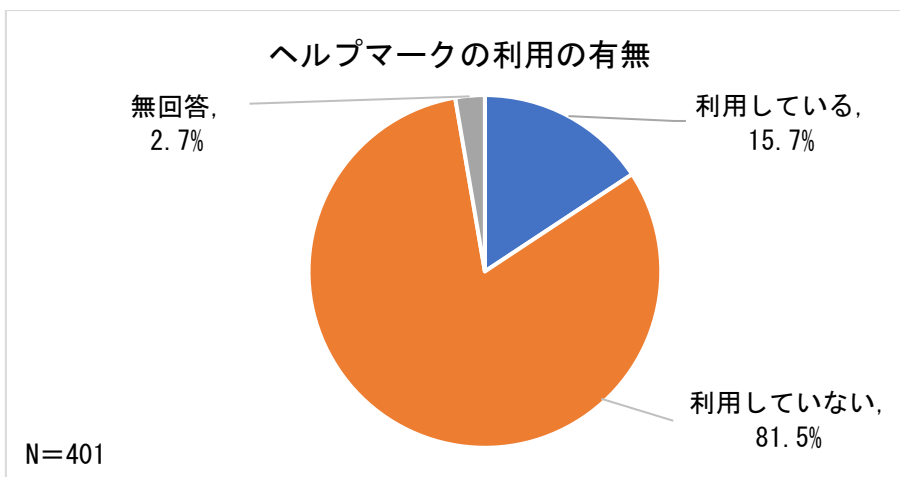
問 10 障害のある人とない人が同じように生活するためには、さまざまな配慮や工夫が必要になることがあります。特に力を入れるべき事は何だと思えますか。

障害のある人とない人が同じように生活するために必要なことについては、「障害に関する理解の促進」が 50.4%で最も高くなっています。次いで「幼い頃からの障害のある人とない人との交流の促進」の 20.0%、「障害に関する教育機会の充実」の 12.0%と続いています。



問 11 あなたは、ヘルプマーク、ヘルプカードを利用していますか。

ヘルプマーク、ヘルプカードの利用については、「利用している」方は 15.7%であり、「利用していない」方は 81.5%となっています。

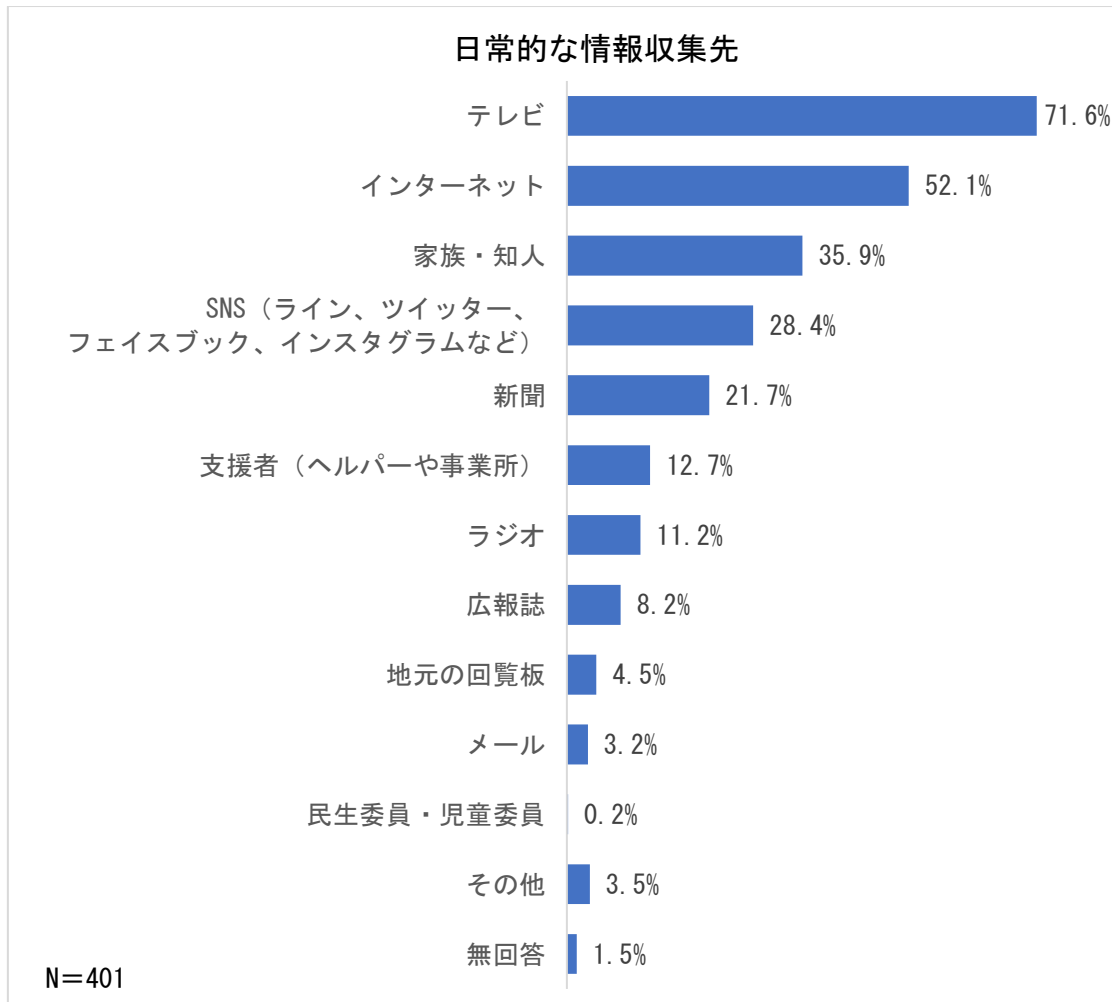




●情報アクセシビリティについて

問12 あなたは日常的にどのような方法により情報を入手していますか。  
< 3つまで○をつける >

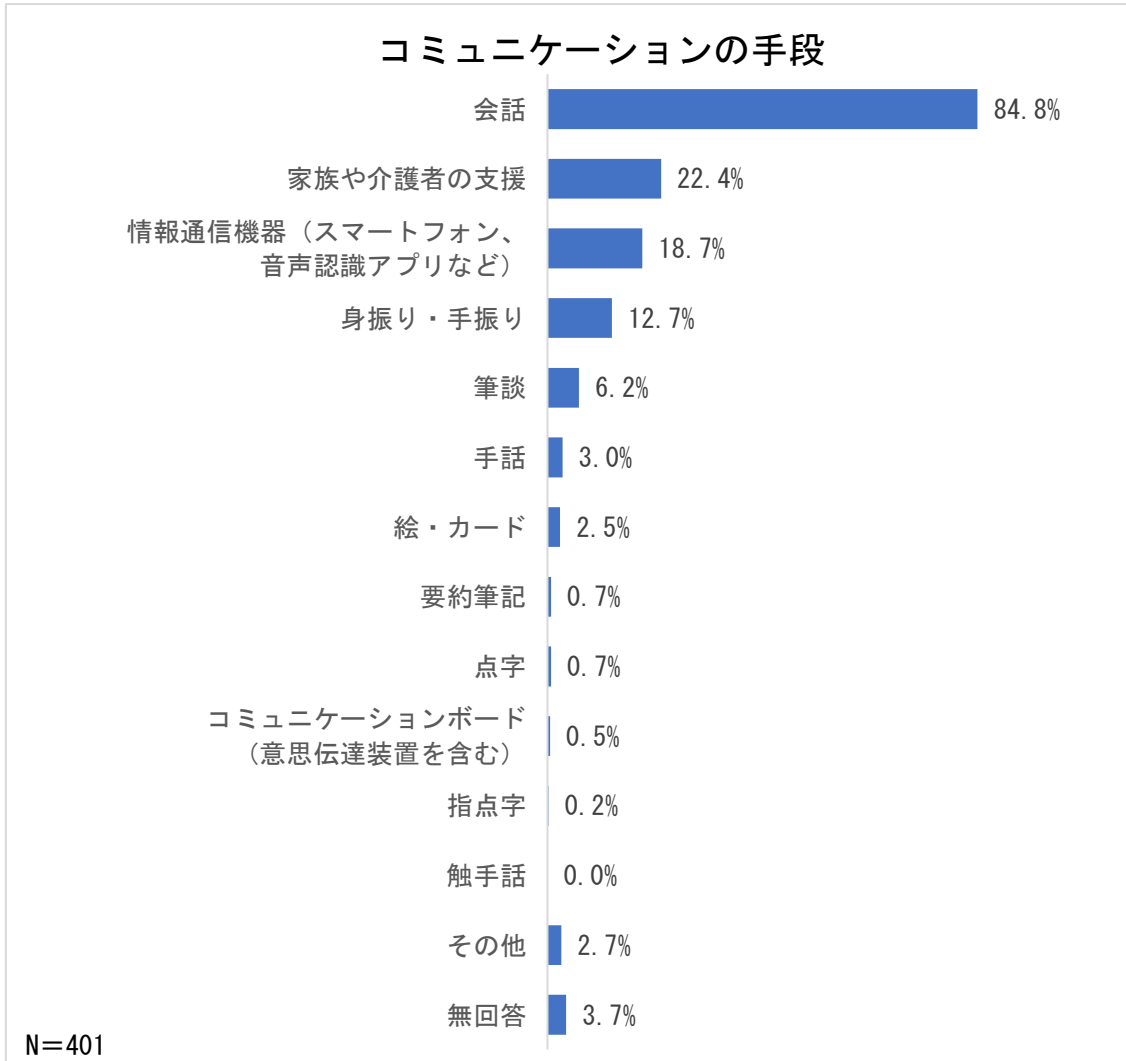
日常的な情報収集先については、「テレビ」が 71.6%と最も高くなっています。次いで「インターネット」の 52.1%、「家族・知人」の 35.9%と続いています。



●コミュニケーションについて

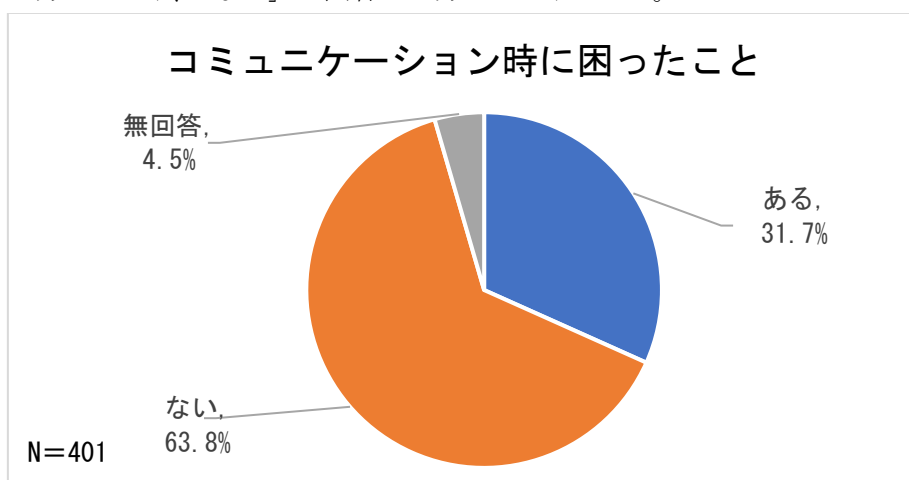
問13 あなたはどのような方法で、他者とコミュニケーションしていますか。  
<あてはまるものすべてに○をつける>

他者とのコミュニケーションの手段については、「会話」が 84.8%と最も高くなっています。次いで「家族や介護者の支援」の 22.4%、「情報通信機器（スマートフォン、音声認識アプリなど）」の 18.7%と続いています。



問 14 あなたは、他者とコミュニケーションする際、困ったことはありますか。

他者とのコミュニケーション時に困ったことがあるかについては、「ある」と回答した方が 31.7%、「ない」と回答した方が 63.8%でした。

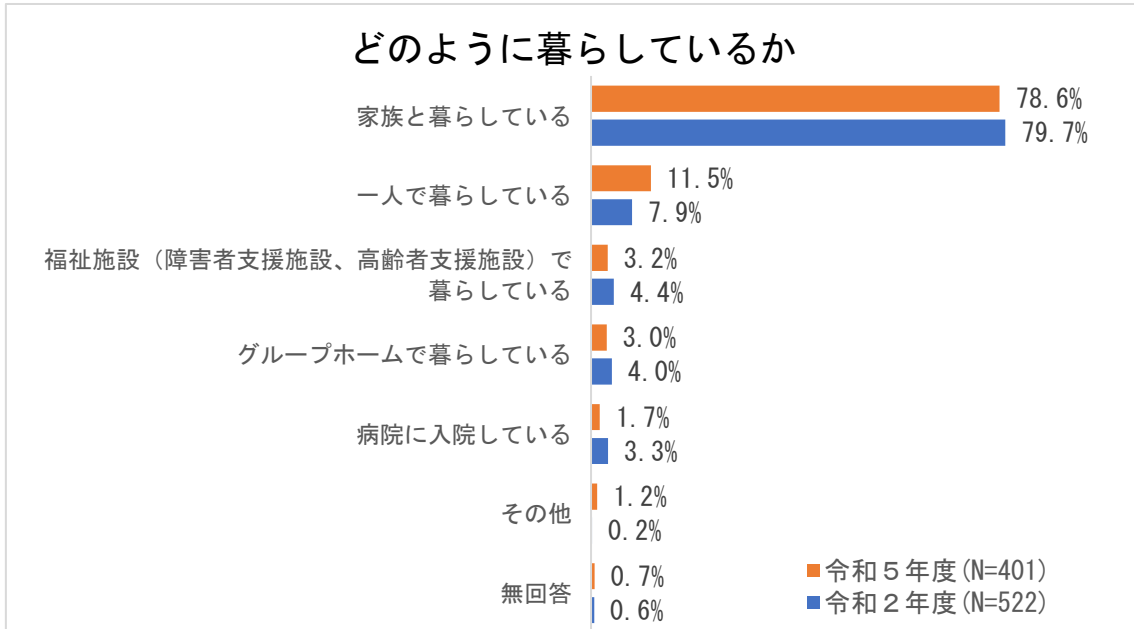


●暮らしについて

問16 現在、あなたはどのように暮らしていますか。

どのように暮らしているかについては、「家族と暮らしている」が78.6%と最も高くなっています。次いで「一人で暮らしている」が11.5%と続いています。

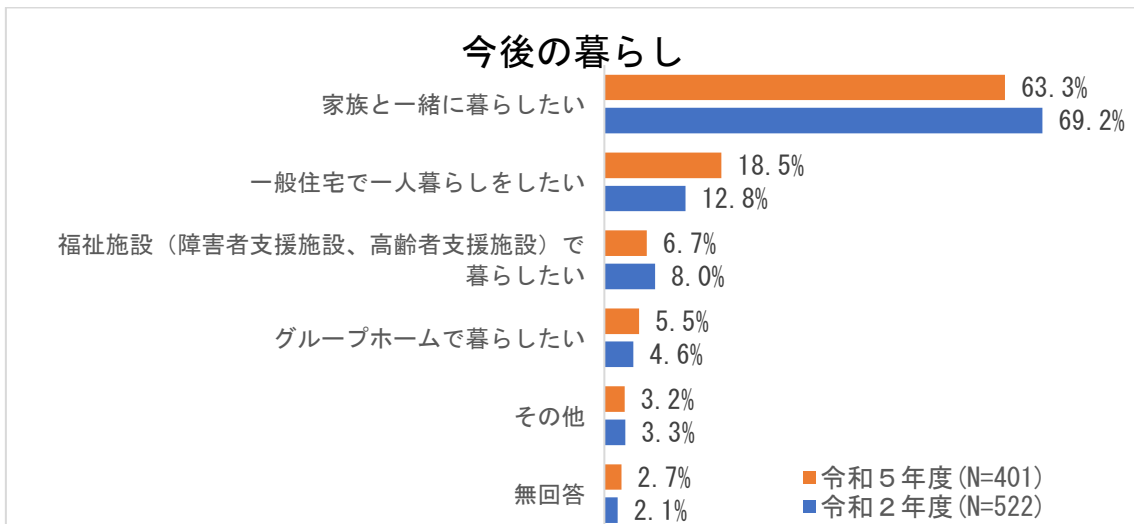
令和2年度の調査と比較すると、「一人で暮らしている」の割合が上昇しています。



問17 あなたは今後どのように暮らしたいですか。

今後どのように暮らしたいかについては、「家族と一緒に暮らしたい」が63.3%と最も高くなっています。次いで「一般住宅で一人暮らしをしたい」の18.5%、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」の6.7%、「グループホームで暮らしたい」の5.5%と続いています。

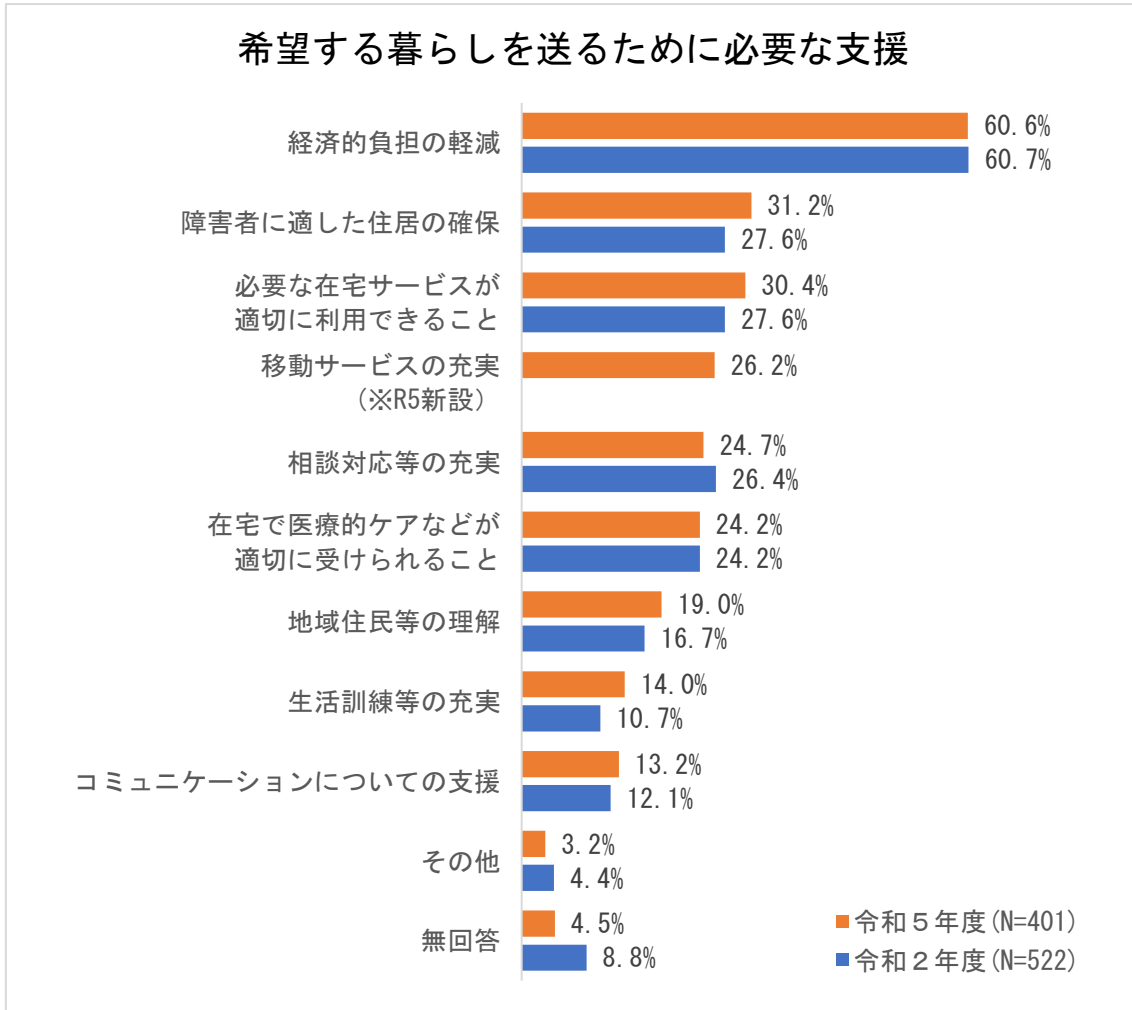
令和2年度の調査と比較すると、「家族と一緒に暮らしたい」「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」の割合は低下し、「一般住宅で一人暮らしをしたい」「グループホームで暮らしたい」の割合が上昇しています。



問18 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。〈あてはまるものすべてに○をつける〉

希望する暮らしを送るために必要な支援については、「経済的負担の軽減」が 60.6%と最も高くなっています。次いで「障害者に適した住居の確保」の 31.2%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の 30.4%と続いています。

※令和 5 年度調査では、「移動サービスの充実」の選択肢を追加しました。



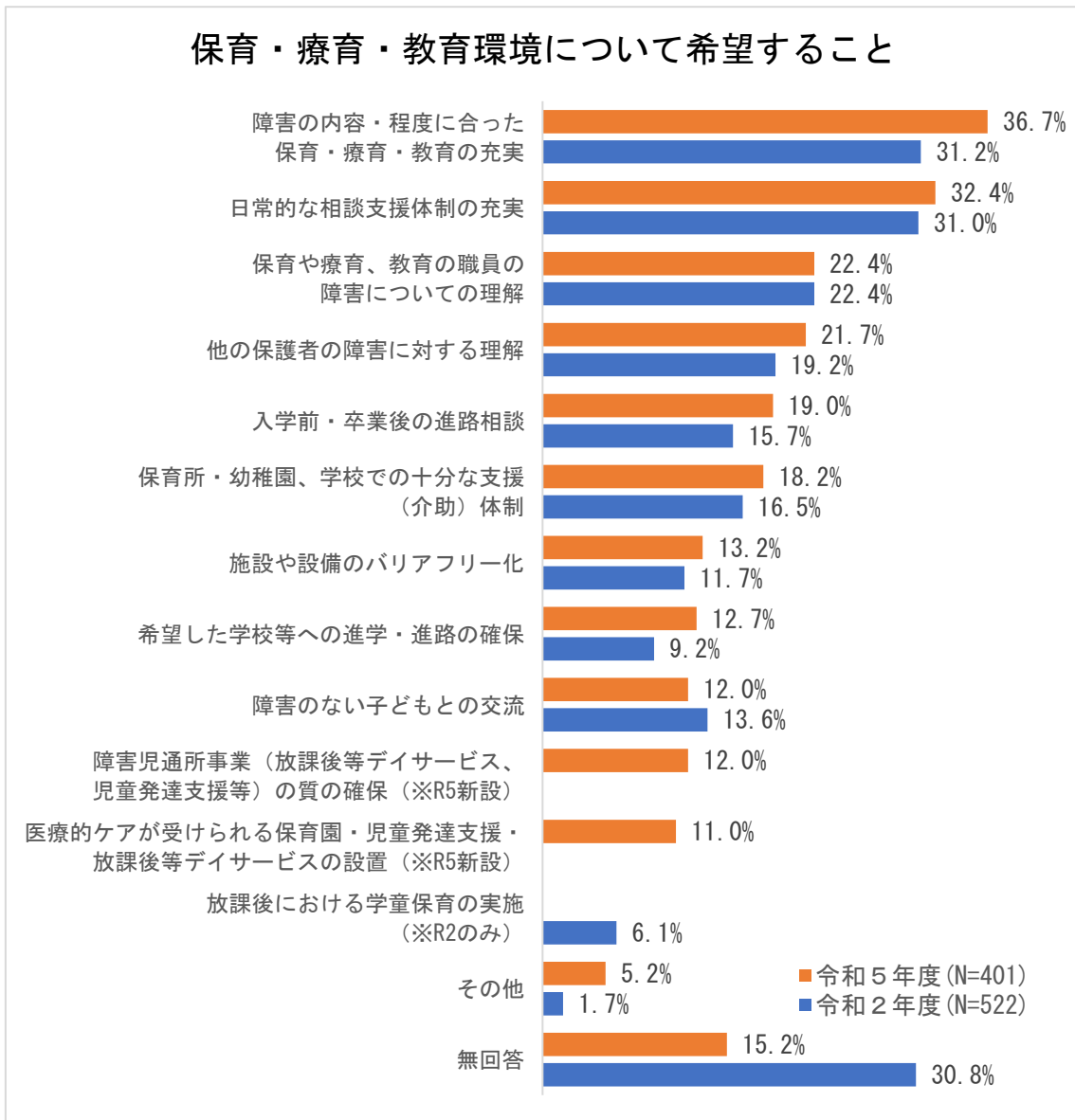
●療育について

問19 障害のある子どもの保育・療育・教育環境について、今後希望することは何ですか。 <3つまで○をつける>

障害のある子どもの保育・療育・教育環境について今後希望することについては、「障害の内容・程度に合った保育・療育・教育の充実」が36.7%と最も高くなっています。次いで「日常的な相談支援体制の充実」の32.4%、「保育や療育、教育の職員の障害についての理解」の22.4%と続いています。

令和2年度の調査と比較すると、「障害の内容・程度に合った保育・療育・教育の充実」の割合が上昇しています。

※令和5年度調査では、令和2年度調査の「放課後における学童保育の実施」の選択肢を変更し、「障害児通所事業（放課後等デイサービス、児童発達支援等）の質の確保」「医療的ケアが受けられる保育園・児童発達支援・放課後等デイサービスの設置」の選択肢を追加しました。

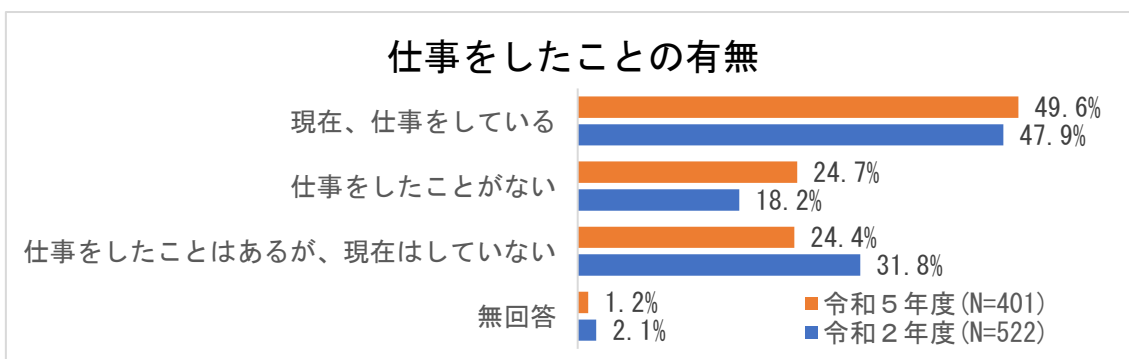


●就労について

問20 これまでに仕事（福祉的就労を含む）をしたことがありますか。

これまでに仕事をしたことがあるかについては、「現在、仕事をしている」が 49.6%と最も高くなっています。次いで「仕事をしたことがない」の 24.7%、「仕事をしたことはあるが、現在はしていない」の 24.4%となっています。

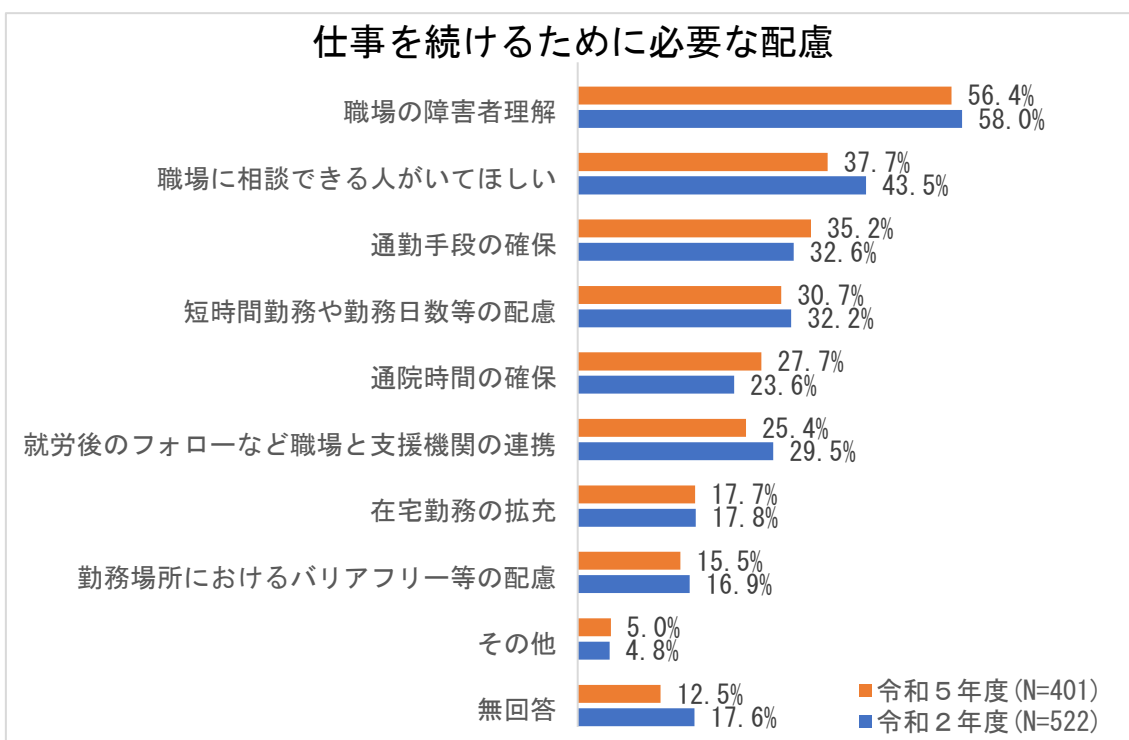
令和2年度の調査と比較すると、「仕事をしたことがない」の割合が上昇し、「仕事をしたことはあるが、現在はしていない」の割合は低下しています。



問21 あなたは、仕事をする、または仕事を継続するためには、どのような配慮が必要だと思いますか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

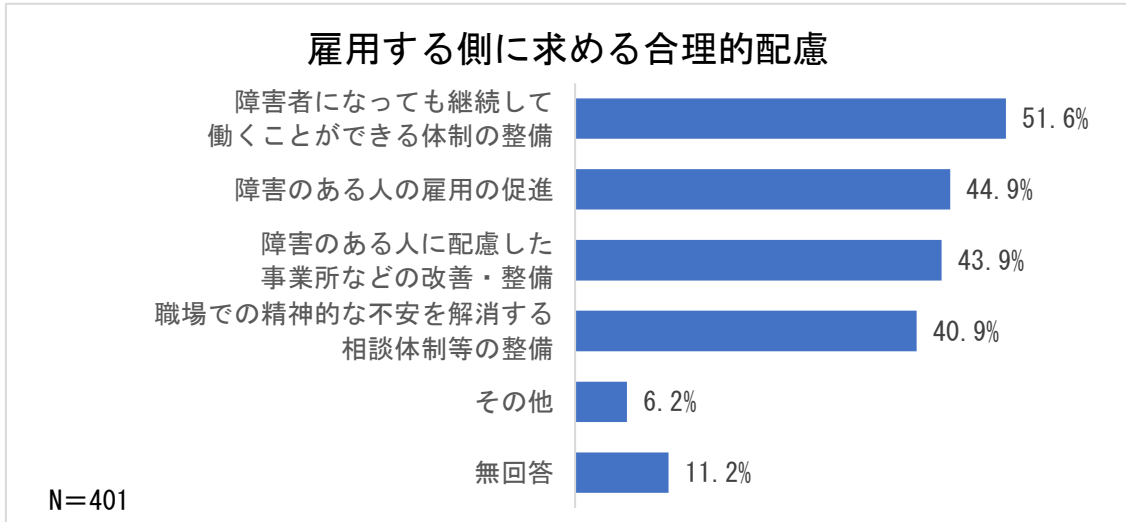
仕事を続けるために必要な配慮については、「職場の障害者理解」が 56.4%と最も高くなっています。次いで「職場に相談できる人がいてほしい」の 37.7%、「通勤手段の確保」の 35.2%、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」の 30.7%と続いています。

令和2年度の調査と比較すると、「職場に相談できる人がいてほしい」「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」の割合は低下し、「通院時間の確保」「通勤手段の確保」の割合が上昇しています。



問22 あなたは働くために、雇用する側にどのような取組や合理的配慮を希望しますか。〈あてはまるものすべてに○をつける〉

雇用する側に求める合理的配慮については、「障害者になっても継続して働くことができる体制の整備」が51.6%と最も高くなっています。次いで「障害のある人の雇用の促進」の44.9%、「障害のある人に配慮した事業所などの改善・整備」の43.9%と続いています。





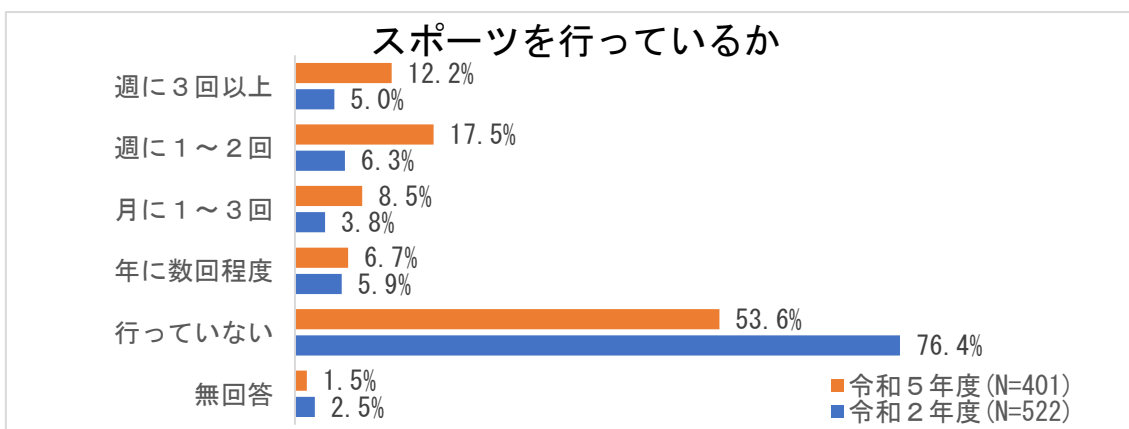
●スポーツについて

問23 あなたはスポーツや運動を行っていますか。

スポーツや運動を行っているかについては、「行っていない」が53.6%と最も高くなっており、次いで「週に1～2回」の17.5%、「週に3回以上」の12.2%と続いています。

令和2年度の調査と比較すると、「行っていない」の割合が大きく低下し、「週に3回以上」「週に1～2回」の割合は上昇しています。

※令和2年度調査の「過去に行っていたがやめた」「行っていない」の選択肢は、令和5年度調査では「行っていない」に集約しました。そのため、令和2年度の「過去に行っていたがやめた」を選択した方は、「行っていない」を選択した方に含めています。

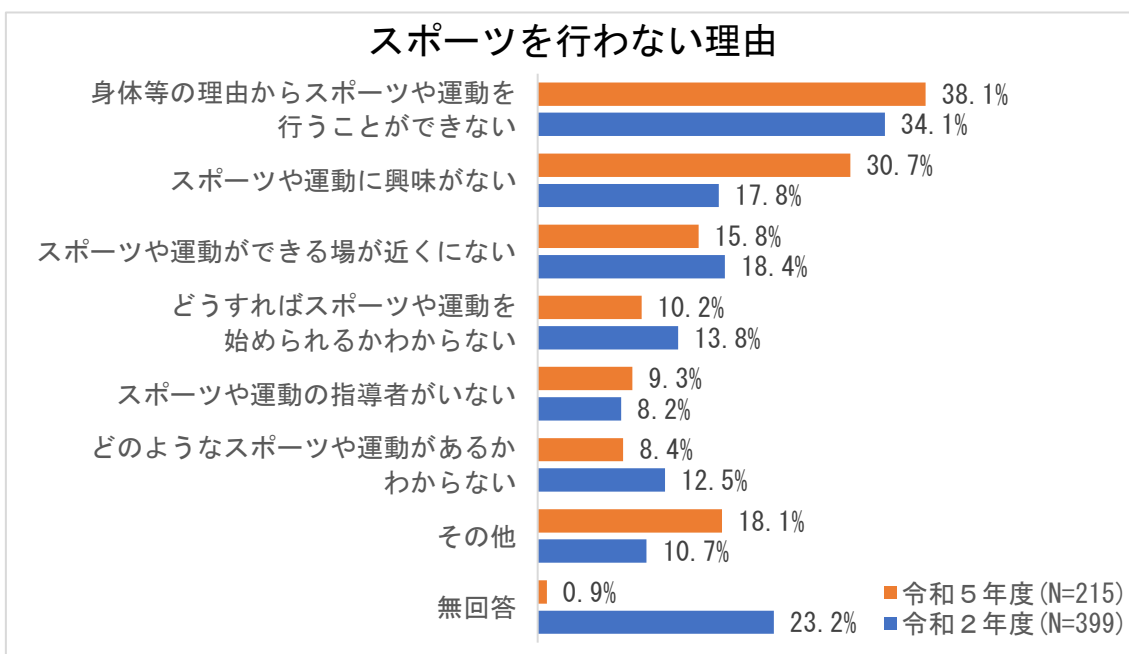


問24 【問23で「5 行っていない」と回答した方のみ】

スポーツや運動を行っていない理由は何ですか。＜3つまで○をつける＞

スポーツや運動を行っていない理由については、「身体等の理由からスポーツや運動を行うことができない」が38.1%と最も高くなっています。次いで「スポーツや運動に興味がない」の30.7%と続いています。

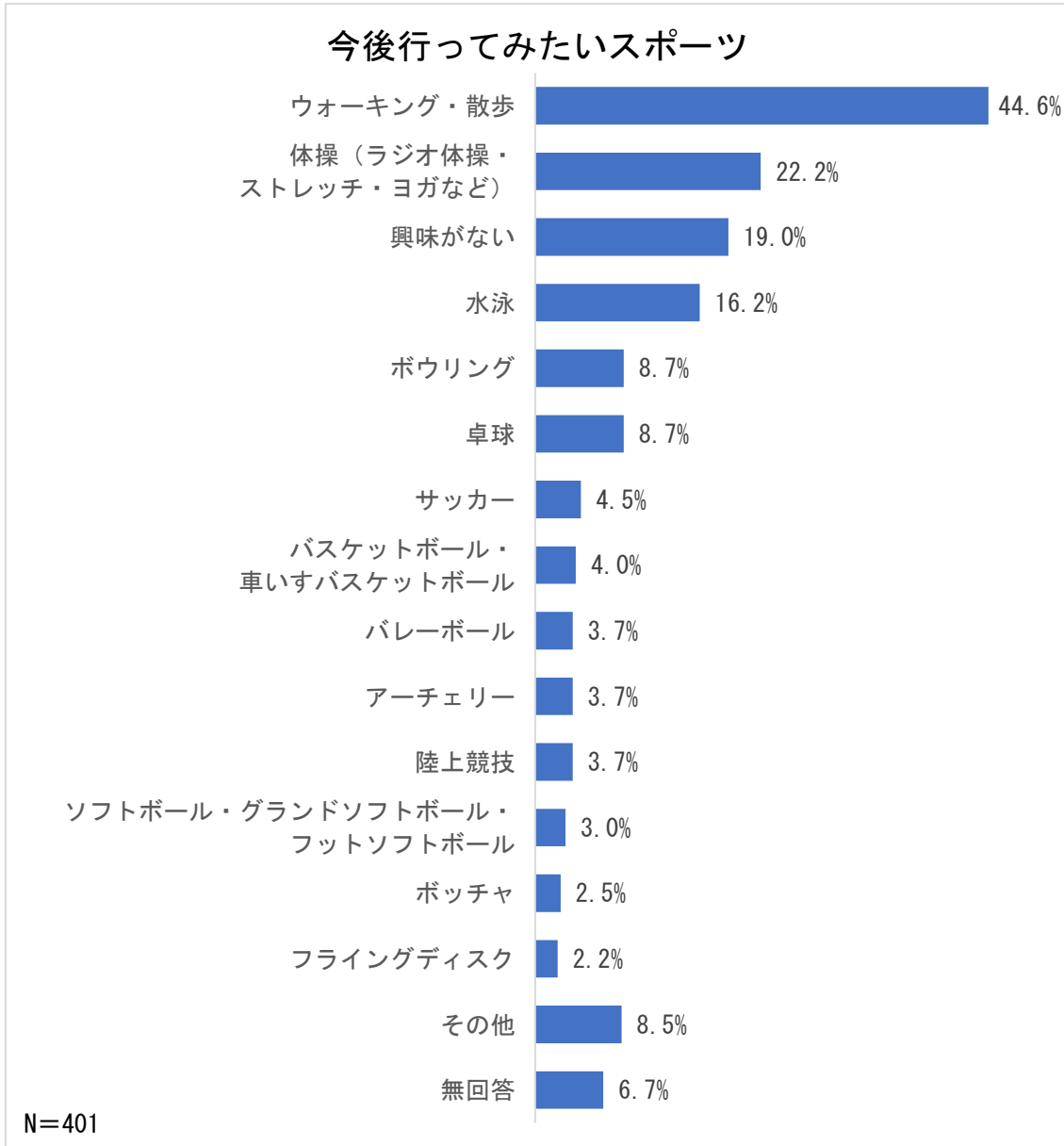
令和2年度の調査と比較すると、「スポーツや運動に興味がない」の割合が大きく上昇しています。



問25 今後行ってみたいスポーツや運動は何ですか。

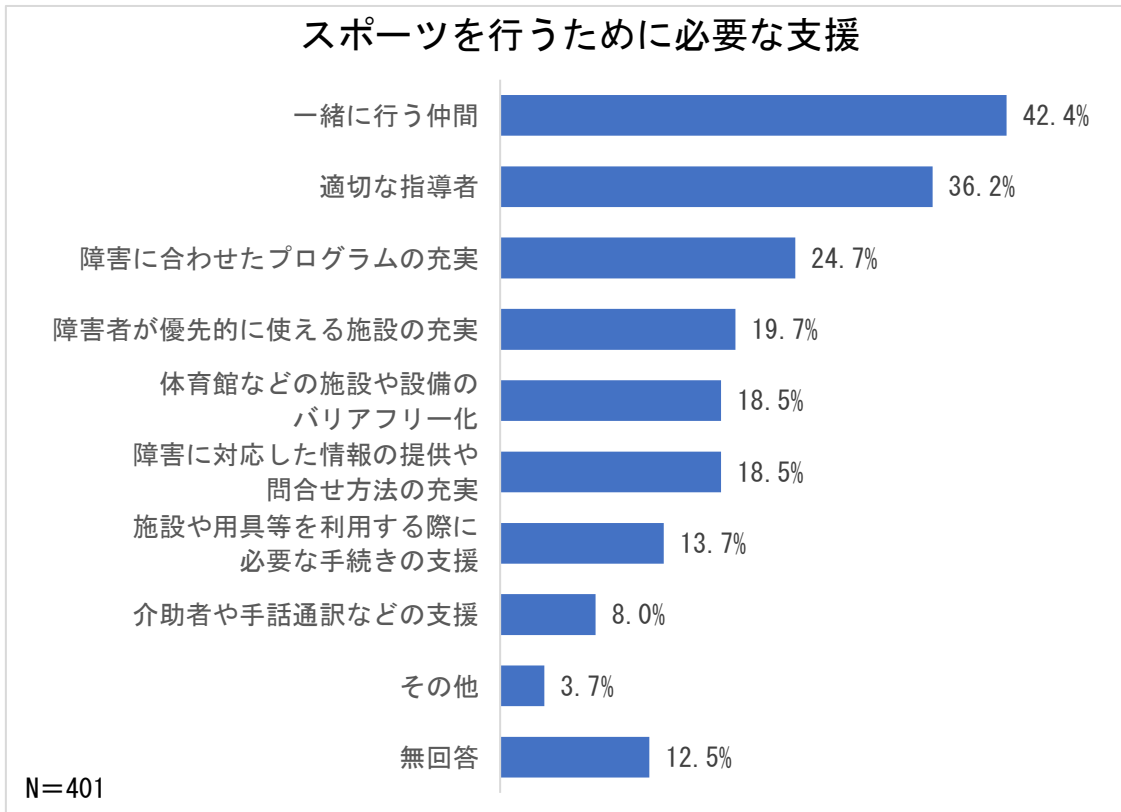
<あてはまるものすべてに○をつける>

今後行ってみたいスポーツや運動については、「ウォーキング・散歩」が 44.6%と最も高くなっています。次いで「体操（ラジオ体操・ストレッチ・ヨガなど）」が 22.2%と続く一方、「興味がない」が 19.0%となっています。



問26 スポーツや運動を行う際に必要な支援は何ですか。＜3つまで○をつける＞

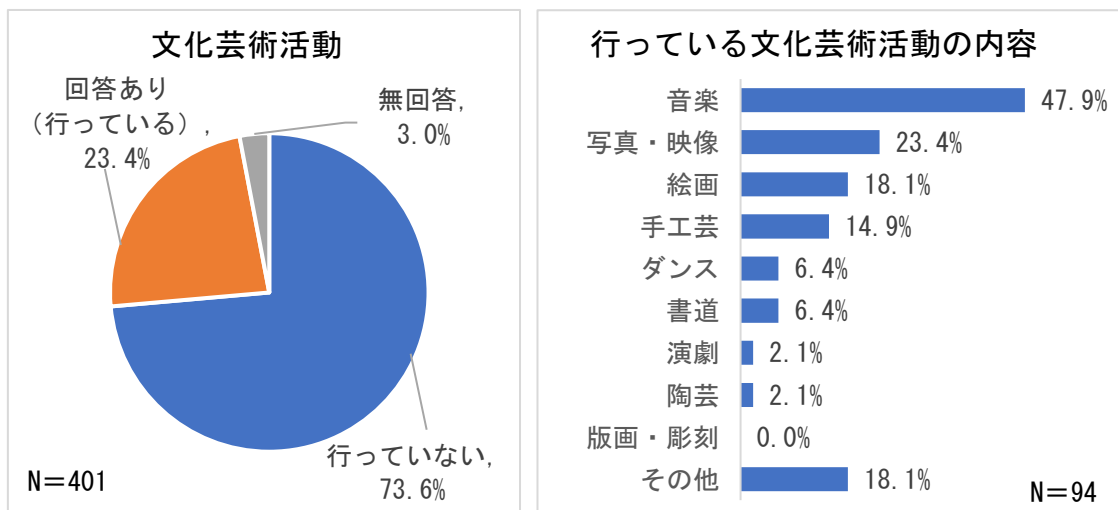
スポーツや運動を行うために必要な支援については、「一緒に行く仲間」が42.4%と最も高くなっています。次いで「適切な指導者」の36.2%、「障害に合わせたプログラムの充実」の24.7%と続いています。



●文化芸術活動について

問27 あなたは文化芸術活動を行っていますか。 <3つまで○をつける>

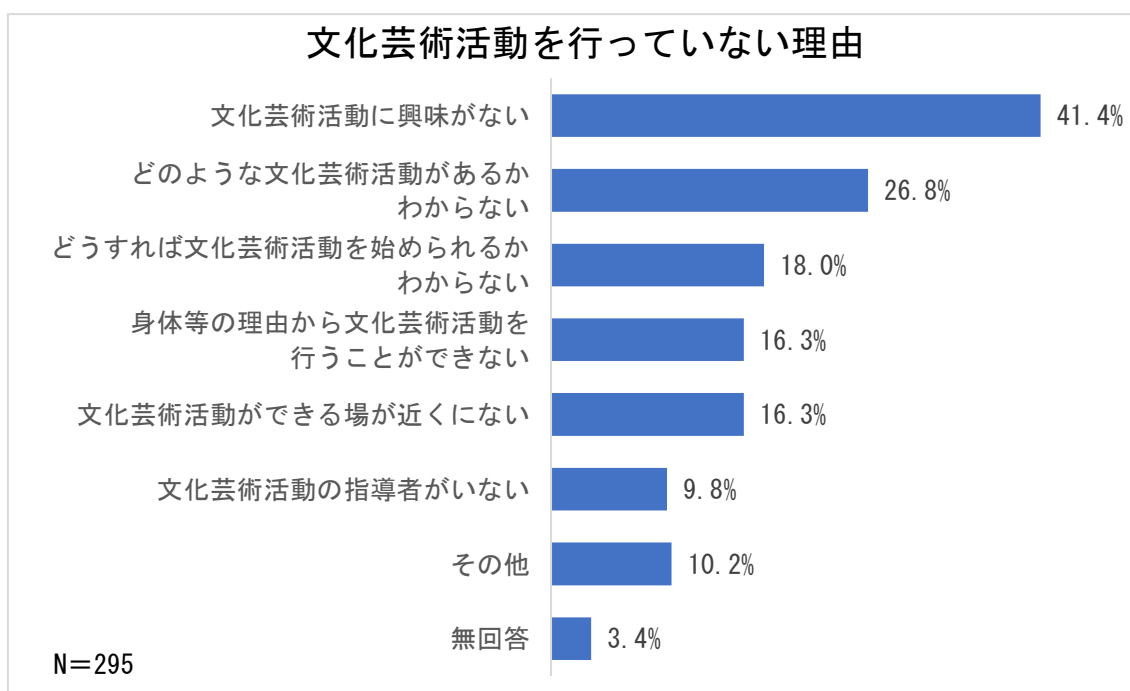
文化芸術活動については、「行っていない」と回答した方が73.6%と過半数を占めています。行っていると回答された方の活動内容については、「音楽」が47.9%と最も高くなっており、次いで「写真・映像」の23.4%、「絵画」の18.1%と続いています。



問28 【問27で「行っていない」と回答した方のみ】

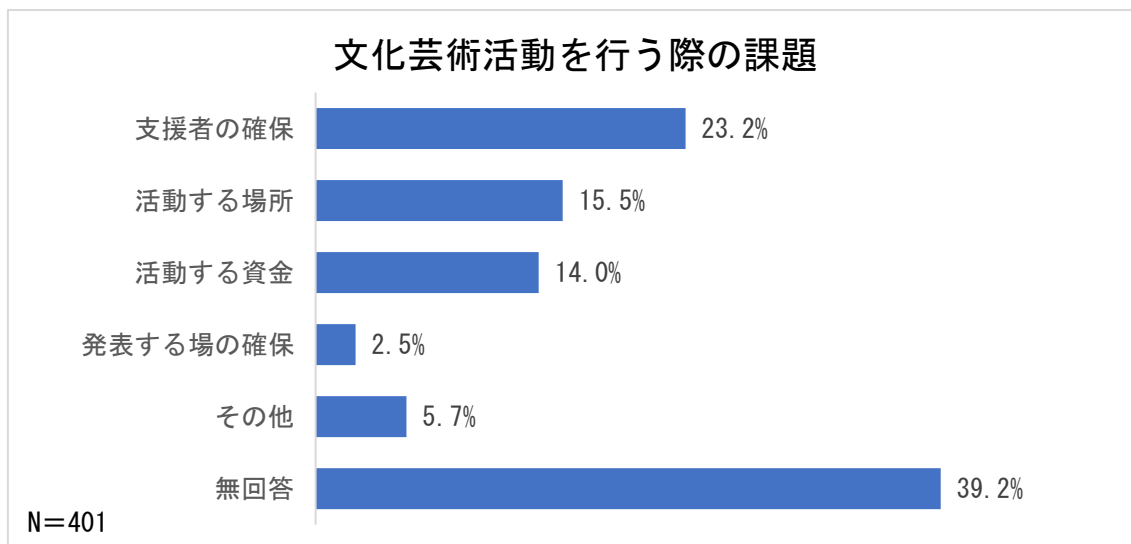
文化芸術活動を行っていない理由は何ですか。 <3つまで○をつける>

問27で行っていないと回答した方の文化芸術活動を行っていない理由については、「文化芸術活動に興味がない」が41.4%と最も高くなっています。次いで「どのような文化芸術活動があるかわからない」の26.8%、「どうすれば文化芸術活動を始められるかわからない」の18.0%と続いています。



問30 文化芸術活動を行う際の課題や必要としていることがあれば教えてください。

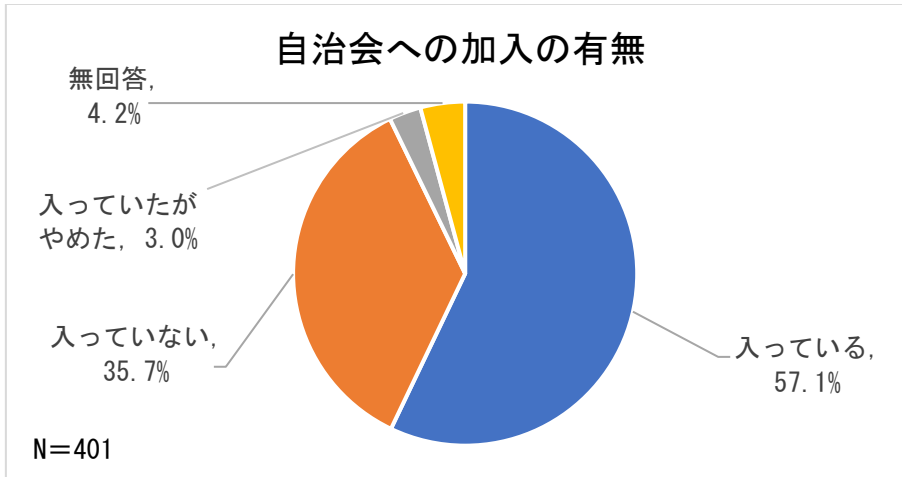
文化芸術活動を行う際の課題や必要な支援については、「無回答」を除くと、「支援者の確保」が23.2%と最も高くなっています。次いで「活動する場所」の15.5%、「活動する資金」の14.0%と続いています。



●災害対策について

問 31 あなたは、地域の自治会などに入っていますか。

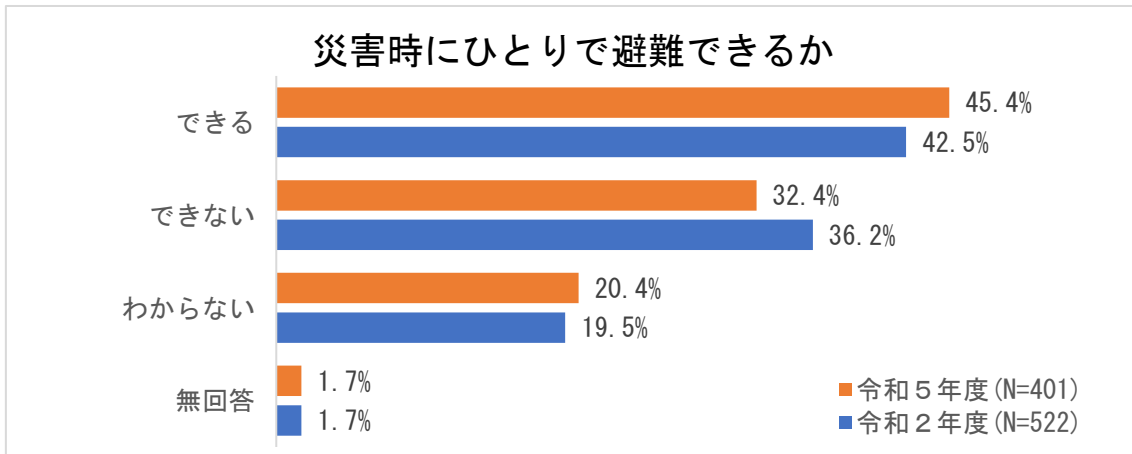
地域の自治会への加入については、「入っている」が 57.1%と過半数を占めています。「入っていない」は 35.7%、「入っていたがやめた」は 3.0%となっています。



問 32 あなたは、地震や台風などの災害時に、ひとりで避難できますか。

災害時にひとりで避難できるかについては、「できる」が 45.4%と最も高くなっています。次いで「できない」の 32.4%、「わからない」の 20.4%と続いています。

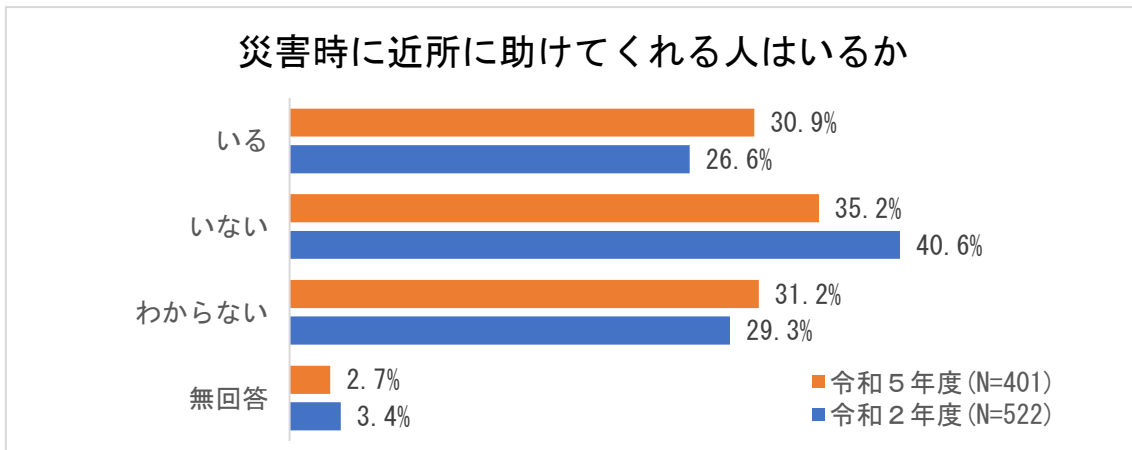
令和 2 年度の調査と比較すると、「できない」の割合は低下し、「できる」の割合が上昇しています。



問 33 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

災害時に近所に助けてくれる人がいるかについては、「いない」が 35.2%と最も高くなっています。次いで「わからない」の 31.2%、「いる」の 30.9%と続いています。

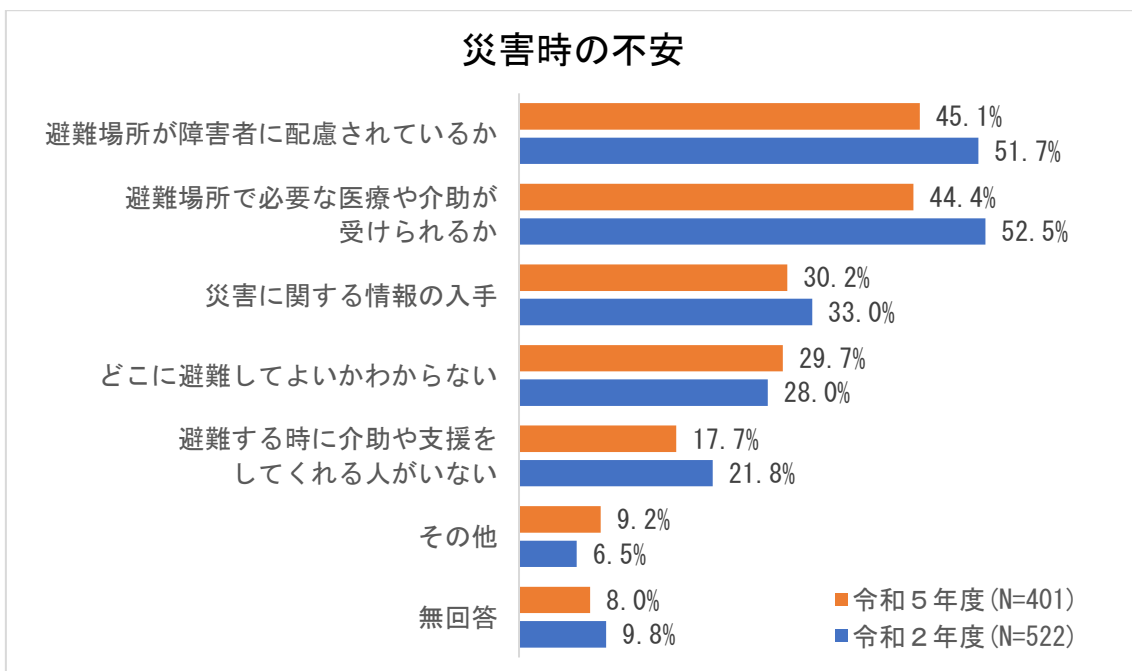
令和 2 年度の調査と比較すると、「いない」の割合は低下し、「いる」の割合が上昇しています。



問34 地震や台風などの災害時に、どのようなことに心配や不安がありますか。  
< 3つまで○をつける >

災害時における心配事や不安については、「避難場所が障害者に配慮されているか」が 45.1%と最も高くなっています。次いで「避難場所で必要な医療や介助が受けられるか」の 44.4%、「災害に関する情報の入手」の 30.2%と続いています。

令和 2 年度の調査と比較すると、「避難場所が障害者に配慮されているか」、「避難場所で必要な医療や介助が受けられるか」の割合が低下している一方、「どこに避難してよいかかわからない」の割合が上昇しています。



## 2 クロス集計結果

### ア) 障害種別（区分：身体、知的、精神、複合、難病）

#### ●相談について

問1 現在、悩み事がありますか。 <3つまで○をつける>









































現在の悩み事については、身体・精神の障害種別では「お金のこと」、複合・難病の障害種別では「健康や身体のこと」、知的の障害種別では「自分の老後のこと」の割合が最も高くなっています。次いで知的以外の障害種別では「自分の老後のこと」、知的の障害種別では「健康や身体のこと」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
自分の老後のこと	41.3%	38.4%	59.2%	52.6%	47.5%
健康や身体のこと	34.4%	28.8%	30.6%	55.3%	62.5%
お金のこと	41.8%	20.5%	61.2%	18.4%	35.0%
就職や仕事のこと	21.2%	15.1%	36.7%	13.2%	12.5%
親の老後のこと	13.8%	12.3%	22.4%	28.9%	5.0%
人間関係のこと	11.1%	19.2%	26.5%	10.5%	2.5%
医療のこと	14.8%	8.2%	4.1%	10.5%	30.0%
福祉・保健サービスの利用のこと	8.5%	15.1%	6.1%	34.2%	7.5%
悩み事はない	11.6%	17.8%	4.1%	2.6%	10.0%
家庭のこと	8.5%	8.2%	16.3%	2.6%	12.5%
災害時の安全確保のこと	9.0%	4.1%	2.0%	21.1%	10.0%
恋愛や結婚のこと	8.5%	5.5%	10.2%	10.5%	2.5%
お住まいの確保のこと	3.2%	12.3%	2.0%	10.5%	2.5%
進学や学校のこと	6.3%	4.1%	4.1%	5.3%	0.0%
子育てや子どもの教育のこと	4.8%	1.4%	6.1%	0.0%	7.5%
その他	5.3%	1.4%	2.0%	10.5%	0.0%
無回答	1.1%	1.4%	0.0%	2.6%	0.0%



問2 今後、福祉や生活に関する相談支援体制として、どのようなことを希望しますか。〈3つまで○をつける〉

相談支援体制について希望することについては、全ての障害種別で「どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい」の割合が最も高くなっています。次いで、複合以外の障害種別では「身近な地域で相談できるようにしてほしい」、複合の障害種別では「相談窓口を一本化してほしい」が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい	 52.4%	 53.4%	 55.1%	 50.0%	 57.5%
身近な地域で相談できるようにしてほしい	 36.0%	 37.0%	 40.8%	 28.9%	 22.5%
相談員の質(知識・相談技術等)を向上させてほしい	 27.5%	 21.9%	 36.7%	 28.9%	 20.0%
休日・夜間の相談ができるようにしてほしい	 27.5%	 28.8%	 32.7%	 13.2%	 17.5%
相談窓口を一本化してほしい	 25.4%	 27.4%	 22.4%	 31.6%	 20.0%
病院・福祉施設等による訪問相談をしてほしい	 12.2%	 13.7%	 32.7%	 15.8%	 2.5%
その他	 6.3%	 8.2%	 8.2%	 7.9%	 0.0%
無回答	 6.9%	 5.5%	 2.0%	 7.9%	 15.0%

●老化・高齢化について

問3 あなたは、老化・高齢化に伴う身体等の機能低下を感じていますか。  
 <あてはまるものすべてに○をつける>

老化・高齢化に伴う身体等の機能低下を感じることは、「その他」「無回答」を除くと、全ての障害種別で「体力的低下」の割合が最も高くなっています。次いで、身体・難病の障害種別では「視覚（視力）の低下」、知的・精神の障害種別では「認知能力の低下」、複合の障害種別では「そしゃく、嚥下の低下」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
体力的低下	62.4%	26.0%	67.3%	65.8%	85.0%
視覚（視力）の低下	23.8%	9.6%	16.3%	18.4%	35.0%
歩行困難	17.5%	4.1%	12.2%	26.3%	10.0%
聴力の低下	16.9%	5.5%	8.2%	10.5%	12.5%
言語の低下	7.9%	12.3%	14.3%	10.5%	17.5%
認知能力の低下	3.7%	16.4%	24.5%	7.9%	10.0%
そしゃく、嚥下の低下	6.9%	2.7%	12.2%	28.9%	15.0%
身体の麻痺	13.8%	0.0%	2.0%	15.8%	10.0%
その他	5.3%	19.2%	10.2%	7.9%	7.5%
無回答	15.9%	38.4%	16.3%	21.1%	7.5%

問4 あなたは、認知症を予防するための活動に取り組んでいますか、もしくは取り組んでみたいと思いますか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

認知症を予防するための活動については、「わからない」「無回答」を除くと、身体・知的・複合の障害種別で「予防活動に取り組む必要性を感じない」、精神・難病の障害種別では「認知症を早期に発見できるテスト等を受けた（受けてみたい）」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
予防活動に取り組む必要性を感じない	19.0%	13.7%	16.3%	18.4%	17.5%
認知症を早期に発見できるテスト等を受けた（受けてみたい）	16.4%	9.6%	26.5%	2.6%	27.5%
自宅でできる活動に取り組んだ（取り組みたい）	17.5%	6.8%	18.4%	10.5%	15.0%
予防教室等の活動に参加している（参加してみたい）	5.3%	5.5%	6.1%	0.0%	7.5%
近々の健康センター等で行う予防活動に参加した（参加してみたい）	4.8%	2.7%	6.1%	0.0%	5.0%
わからない	40.7%	53.4%	34.7%	57.9%	32.5%
無回答	9.0%	15.1%	10.2%	13.2%	10.0%

●障害者差別解消について

問5 あなたは障害があることで、差別されたり、嫌な思いをする（した）ことがありますか。

差別の有無については、知的・精神・複合の障害種別では「少しある」の割合が高くなっています。難病の障害種別では「ない」が大多数を占めていますが、難病以外の障害種別では「よくある」「少しある」の割合を合計すると過半数を超えています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
よくある	18.0%	13.7%	24.5%	31.6%	0.0%
少しある	35.4%	45.2%	40.8%	50.0%	17.5%
ない	46.6%	38.4%	32.7%	15.8%	82.5%
無回答	0.0%	2.7%	2.0%	2.6%	0.0%

問6 【問5で「1 よくある」、「2 少しある」と回答した方のみ】  
それは、どのような時に感じましたか。 <3つまで○をつける>

差別を感じた時については、「その他」「無回答」を除くと、知的以外の障害種別では「障害があることを理由に対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった」の割合が高く、知的の障害種別では「難しい言葉や聞き取りづらい言葉で応対された」の割合が最も高くなっています

	身体(N=101)	知的(N=43)	精神(N=32)	複合(N=31)	難病(N=7)
障害があることを理由に対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった	27.7%	27.9%	46.9%	25.8%	14.3%
難しい言葉や聞き取りづらい言葉で応対された	17.8%	34.9%	25.0%	22.6%	0.0%
通路や各種割引などのわかりやすい案内表示がなかった	26.7%	14.0%	3.1%	25.8%	0.0%
理由もなく対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった	15.8%	14.0%	28.1%	22.6%	14.3%
官公庁や商業施設などに自分の障害に対応する設備等がなかった	22.8%	4.7%	3.1%	25.8%	14.3%
その他	34.7%	27.9%	43.8%	19.4%	71.4%
無回答	3.0%	9.3%	3.1%	6.5%	0.0%

問7 【問5で「1 よくある」、「2 少しある」と回答した方のみ】  
その時、誰かに相談しましたか。

差別に関する相談先については、全ての障害種別で「誰にも相談していない」、「家族に相談した」の割合が高くなっています。

	身体(N=101)	知的(N=43)	精神(N=32)	複合(N=31)	難病(N=7)
誰にも相談していない	56.4%	53.5%	37.5%	45.2%	42.9%
家族に相談した	30.7%	20.9%	37.5%	19.4%	28.6%
相談支援専門員や福祉施設の職員に相談した	4.0%	7.0%	3.1%	6.5%	14.3%
医療機関の職員に相談した	1.0%	4.7%	6.3%	9.7%	0.0%
差別を受けた相手方に伝えた	3.0%	0.0%	9.4%	0.0%	14.3%
栃木県や市町の障害者差別に関する相談窓口相談した	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.0%	14.0%	6.3%	19.4%	0.0%

問8 【問7で「6 誰にも相談していない」と回答した方のみ】  
それは、なぜですか。

差別に関する相談をしない理由については、精神以外の障害種別では「相談するほどのことではないと思った」の割合が高くなっています。精神の障害種別では「誰にも知られたいくなかった」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=57)	知的(N=23)	精神(N=12)	複合(N=14)	難病(N=3)
相談するほどのことではないと思った	54.4%	56.5%	16.7%	64.3%	33.3%
誰にも知られたいくなかった	15.8%	8.7%	41.7%	0.0%	33.3%
障害者差別に関する相談窓口があることを知らなかった	14.0%	17.4%	16.7%	7.1%	0.0%
その他	14.0%	13.0%	25.0%	28.6%	33.3%
無回答	1.8%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%

問9 今から3年前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。(障害のある人への理解は進んだと思いますか。)

今から3年前と比べた差別や偏見の改善については、知的・難病の障害種別では「ある程度改善されたと思う」の割合が最も高くなっています。一方、身体・複合の障害種別では「あまり改善されていないと思う」の割合が最も高く、精神の障害種別では「ほとんど改善されていないと思う」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
かなり改善されたと思う	4.2%	11.0%	6.1%	5.3%	7.5%
ある程度改善されたと思う	35.4%	42.5%	28.6%	31.6%	52.5%
あまり改善されていないと思う	38.6%	28.8%	24.5%	39.5%	35.0%
ほとんど改善されていないと思う	18.5%	9.6%	34.7%	18.4%	2.5%
無回答	3.2%	8.2%	6.1%	5.3%	2.5%

問10 障害のある人とない人が同じように生活するためには、さまざまな配慮や工夫が必要になることがあります。特に力を入れるべき事は何かと思いますか。

障害のある人とない人が同じように生活するために必要なことについては、全ての障害種別で「障害に関する理解の促進」の割合が最も高くなっており、次いで「幼い頃からの障害のある人とない人との交流の促進」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
障害に関する理解の促進	49.2%	42.5%	61.2%	55.3%	50.0%
幼い頃からの障害のある人とない人との交流の促進	21.7%	20.5%	12.2%	15.8%	27.5%
障害に関する教育機会の充実	13.2%	11.0%	4.1%	15.8%	15.0%
障害者作品展や障害者スポーツなどにおける障害のある人とない人との交流するイベントの開催	4.2%	6.8%	6.1%	5.3%	2.5%
その他	1.6%	6.8%	12.2%	2.6%	2.5%
無回答	10.1%	12.3%	4.1%	5.3%	2.5%

問11 あなたは、ヘルプマーク、ヘルプカードを利用していますか。

ヘルプマーク、ヘルプカードの利用については、全ての障害種別で「利用していない」が過半数を占めています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
利用している	15.9%	13.7%	20.4%	15.8%	12.5%
利用していない	81.0%	82.2%	79.6%	84.2%	87.5%
無回答	3.2%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%

●情報アクセシビリティについて

問12 あなたは日常的にどのような方法により情報を入手していますか。

< 3つまで○をつける >

日常的な情報収集先については、複合以外の障害種別では「テレビ」の割合が最も高くなっており、次いで、身体・精神・難病の障害種別では「インターネット」、知的の障害種別では「家族・知人」の割合が高くなっています。複合の障害種別では「家族・知人」の割合が最も高くなっており、次いで「テレビ」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
テレビ	82.5%	60.3%	69.4%	44.7%	70.0%
インターネット	61.4%	35.6%	59.2%	28.9%	57.5%
家族・知人	33.3%	39.7%	36.7%	50.0%	32.5%
SNS(ライン、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど)	34.4%	13.7%	38.8%	21.1%	27.5%
新聞	23.8%	16.4%	18.4%	15.8%	30.0%
支援者(ヘルパーや事業所)	4.8%	24.7%	16.3%	36.8%	2.5%
ラジオ	11.1%	9.6%	12.2%	10.5%	12.5%
広報誌	7.9%	6.8%	14.3%	2.6%	10.0%
地元の回覧板	6.3%	2.7%	4.1%	0.0%	5.0%
メール	3.7%	1.4%	4.1%	5.3%	2.5%
民生委員・児童委員	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	1.1%	5.5%	2.0%	7.9%	7.5%
無回答	0.0%	5.5%	0.0%	2.6%	0.0%

●コミュニケーションについて

問13 あなたはどのような方法で、他者とコミュニケーションしていますか。

〈あてはまるものすべてに○をつける〉

他者とのコミュニケーションの手段については、複合以外の障害種別では「会話」の割合が最も高くなっています。次いで、身体・精神・難病の障害種別では「情報通信機器（スマートフォン、音声認識アプリなど）」、知的の障害種別では「家族や介護者の支援」の割合が高くなっています。複合の障害種別では「家族や介護者の支援」の割合が最も高くなっており、次いで「会話」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
会話	90.5%	76.7%	89.8%	60.5%	92.5%
家族や介護者の支援	12.2%	42.5%	10.2%	65.8%	10.0%
情報通信機器(スマートフォン、音声認識アプリなど)	25.4%	6.8%	20.4%	13.2%	15.0%
身振り・手振り	9.5%	17.8%	16.3%	26.3%	5.0%
筆談	6.9%	1.4%	12.2%	5.3%	5.0%
手話	3.2%	1.4%	2.0%	5.3%	5.0%
絵・カード	2.1%	5.5%	4.1%	0.0%	0.0%
要約筆記	1.1%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%
点字	1.1%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%
コミュニケーションボード(意思伝達装置を含む)	0.5%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
指点字	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%
触手話	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	2.1%	1.4%	6.1%	7.9%	0.0%
無回答	2.6%	5.5%	6.1%	2.6%	0.0%

問14 あなたは、他者とコミュニケーションする際、困ったことはありますか。

他者とのコミュニケーション時に困ったことがあるかについては、複合以外の障害種別では「ない」の割合が高くなっています。一方、複合の障害種別では「ある」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
ある	26.5%	41.1%	36.7%	60.5%	2.5%
ない	72.0%	46.6%	63.3%	26.3%	97.5%
無回答	1.6%	12.3%	0.0%	13.2%	0.0%

●暮らしについて

問 16 現在、あなたはどのように暮らしていますか。

どのように暮らしているかについては、全ての障害種別で「家族と暮らしている」の割合が最も高くなっています。次いで、身体・精神・難病の障害種別では「一人で暮らしている」、知的の障害種別では「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」「グループホームで暮らしている」、複合の障害種別では「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
家族と暮らしている	84.7%	74.0%	69.4%	68.4%	82.5%
一人で暮らしている	11.6%	6.8%	18.4%	7.9%	15.0%
福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしている	0.5%	8.2%	0.0%	10.5%	2.5%
グループホームで暮らしている	0.0%	8.2%	6.1%	5.3%	0.0%
病院に入院している	1.1%	1.4%	2.0%	7.9%	0.0%
その他	1.1%	1.4%	4.1%	0.0%	0.0%
無回答	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問 17 あなたは今後どのように暮らしたいですか。

今後どのように暮らしたいかについては、全ての障害種別で「家族と一緒に暮らしたい」の割合が最も高くなっています。次いで、身体・精神の障害種別では「一般住宅で一人暮らしをしたい」、知的の障害種別では「グループホームで暮らしたい」、複合の障害種別では「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」、難病の障害種別では「一般住宅で一人暮らしをしたい」「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
家族と一緒に暮らしたい	73.0%	46.6%	49.0%	57.9%	80.0%
一般住宅で一人暮らしをしたい	19.0%	15.1%	36.7%	5.3%	10.0%
福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしたい	1.1%	15.1%	2.0%	18.4%	10.0%
グループホームで暮らしたい	0.5%	19.2%	6.1%	7.9%	0.0%
その他	3.2%	2.7%	6.1%	5.3%	0.0%
無回答	3.2%	1.4%	0.0%	5.3%	0.0%



問18 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。〈あてはまるものすべてに○をつける〉

希望する暮らしを送るために必要な支援については、知的以外の障害種別では「経済的負担の軽減」、知的の障害種別では「障害者に適した住居の確保」の割合が最も高くなっています。次いで、身体・難病の障害種別では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」、知的の障害種別では「経済的負担の軽減」、精神の障害種別では「地域住民等の理解」、複合の障害種別では「障害者に適した住居の確保」「必要な在宅サービスが適切に利用できること」「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
経済的負担の軽減	66.7%	41.1%	73.5%	47.4%	65.0%
障害者に適した住居の確保	25.9%	49.3%	28.6%	42.1%	12.5%
必要な在宅サービスが適切に利用できること	31.7%	27.4%	18.4%	42.1%	35.0%
移動サービスの充実	27.5%	23.3%	14.3%	39.5%	25.0%
相談対応等の充実	21.2%	32.9%	30.6%	26.3%	20.0%
在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	24.3%	12.3%	24.5%	42.1%	32.5%
地域住民等の理解	14.3%	24.7%	36.7%	13.2%	10.0%
生活訓練等の充実	10.6%	20.5%	16.3%	18.4%	5.0%
コミュニケーションについての支援	7.9%	24.7%	16.3%	21.1%	5.0%
その他	2.1%	5.5%	4.1%	5.3%	2.5%
無回答	3.7%	5.5%	0.0%	5.3%	7.5%

●療育について

問19 障害のある子どもの保育・療育・教育環境について、今後希望することは何ですか。 <3つまで○をつける>

障害のある子どもの保育・療育・教育環境について今後希望することについては、全ての障害種別で「障害の内容・程度に合った保育・療育・教育の充実」「日常的な相談支援体制の充実」が高い割合を占めています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
障害の内容・程度に合った保育・療育・教育の充実	39.7%	30.1%	36.7%	26.3%	42.5%
日常的な相談支援体制の充実	32.3%	34.2%	24.5%	34.2%	42.5%
保育や療育、教育の職員の障害についての理解	20.6%	24.7%	22.4%	21.1%	25.0%
他の保護者の障害に対する理解	24.9%	17.8%	24.5%	10.5%	20.0%
入学前・卒業後の進路相談	22.8%	17.8%	22.4%	13.2%	10.0%
保育所・幼稚園、学校での十分な支援(介助)体制	21.2%	8.2%	14.3%	15.8%	35.0%
施設や設備のバリアフリー化	17.5%	11.0%	8.2%	2.6%	10.0%
希望した学校等への進学・進路の確保	14.8%	13.7%	10.2%	5.3%	12.5%
障害のない子どもとの交流	14.3%	13.7%	4.1%	10.5%	10.0%
障害児通所事業(放課後等デイサービス、児童発達支援等)の質の確保	6.3%	20.5%	14.3%	18.4%	7.5%
医療的ケアが受けられる保育園・児童発達支援・放課後等デイサービス	10.6%	2.7%	6.1%	21.1%	25.0%
その他	2.1%	6.8%	12.2%	7.9%	5.0%
無回答	13.2%	20.5%	18.4%	18.4%	5.0%

●就労について

問20 これまでに仕事（福祉的就労を含む）をしたことがありますか。

これまでに仕事をしたことがあるかについては、身体・知的・難病の障害種別では「現在、仕事をしている」の割合が最も高くなっています。精神の障害種別では「仕事をしたことはあるが、現在はしていない」、複合の障害種別では「仕事をしたことがない」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
現在、仕事をしている	54.0%	50.7%	40.8%	28.9%	65.0%
仕事をしたことがない	19.6%	34.2%	10.2%	47.4%	20.0%
仕事をしたことはあるが、現在はしていない	24.9%	15.1%	49.0%	21.1%	15.0%
無回答	1.6%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%































問21 あなたは、仕事をする、または仕事を継続するためには、どのような配慮が必要だと思いますか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

仕事を続けるために必要な配慮については、全ての障害種別で「職場の障害者理解」の割合が最も高くなっています。次いで、身体障害種別では「職場に相談できる人がいてほしい」、知的障害種別では「通勤手段の確保」、精神障害種別では「職場に相談できる人がいてほしい」「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」、難病の障害種別では「短時間勤務や勤務日数等の配慮」の割合が高くなっています。なお、複合の障害種別では「職場の障害者理解」とともに「職場に相談できる人がいてほしい」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
職場の障害者理解	60.3%	57.5%	67.3%	34.2%	47.5%
職場に相談できる人がいてほしい	37.0%	41.1%	46.9%	34.2%	32.5%
通勤手段の確保	34.9%	42.5%	34.7%	28.9%	27.5%
短時間勤務や勤務日数等の配慮	31.7%	19.2%	44.9%	21.1%	45.0%
通院時間の確保	30.2%	9.6%	40.8%	18.4%	42.5%
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	17.5%	32.9%	46.9%	31.6%	15.0%
在宅勤務の拡充	18.0%	4.1%	36.7%	15.8%	25.0%
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	19.0%	4.1%	20.4%	13.2%	15.0%
その他	3.2%	8.2%	6.1%	13.2%	0.0%
無回答	9.5%	13.7%	2.0%	34.2%	7.5%

問22 あなたは働くために、雇用する側にどのような取組や合理的配慮を希望しますか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

雇用する側に求める合理的配慮については、身体・難病の障害種別では「障害者になっても継続して働くことができる体制の整備」、知的・精神の障害種別では「職場での精神的な不安を解消する相談体制等の整備」、複合の障害種別では「障害のある人に配慮した事業所などの改善・整備」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
障害者になっても継続して働くことができる体制の整備	 60.3%	 39.7%	 51.0%	 23.7%	 62.5%
障害のある人の雇用の促進	 53.4%	 39.7%	 40.8%	 34.2%	 32.5%
障害のある人に配慮した事業所などの改善・整備	 45.5%	 46.6%	 42.9%	 39.5%	 37.5%
職場での精神的な不安を解消する相談体制等の整備	 37.6%	 49.3%	 59.2%	 36.8%	 25.0%
その他	 4.8%	 6.8%	 8.2%	 13.2%	 2.5%
無回答	 8.5%	 12.3%	 2.0%	 28.9%	 12.5%

●スポーツについて

問 23 あなたはスポーツや運動を行っていますか。

スポーツや運動を行っているかについては、全ての障害種別で「行っていない」の割合が最も高くなっています。次いで、「週に1～2回」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
週に3回以上	14.8%	11.0%	12.2%	7.9%	7.5%
週に1～2回	16.9%	17.8%	20.4%	13.2%	20.0%
月に1～3回	7.4%	11.0%	6.1%	7.9%	12.5%
年に数回程度	6.9%	4.1%	12.2%	5.3%	7.5%
行っていない	51.3%	56.2%	49.0%	65.8%	52.5%
無回答	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問 24 【問 23 で「行っていない」と回答した方のみ】

スポーツや運動を行っていない理由は何ですか。 <3つまで○をつける>

スポーツや運動を行っていない理由については、身体・複合・難病の障害種別では「身体等の理由からスポーツや運動を行うことができない」、知的・精神の障害種別では「スポーツや運動に興味がない」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=97)	知的(N=41)	精神(N=24)	複合(N=25)	難病(N=21)
身体等の理由からスポーツや運動を行うことができない	44.3%	7.3%	33.3%	60.0%	47.6%
スポーツや運動に興味がない	25.8%	48.8%	45.8%	12.0%	23.8%
スポーツや運動ができる場が近くにない	14.4%	24.4%	12.5%	12.0%	9.5%
どうすればスポーツや運動を始められるかわからない	9.3%	14.6%	8.3%	8.0%	4.8%
スポーツや運動の指導者がいない	2.1%	24.4%	12.5%	8.0%	9.5%
どのようなスポーツや運動があるかわからない	8.2%	7.3%	4.2%	16.0%	0.0%
その他	18.6%	19.5%	20.8%	8.0%	28.6%
無回答	1.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%

問 25 今後行ってみたいスポーツや運動は何ですか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

今後行ってみたいスポーツや運動については、「興味がない」を除くと、全ての障害種別で「ウォーキング・散歩」の割合が最も高くなっています。次いで「体操（ラジオ体操・ストレッチ・ヨガなど）」の割合が高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
ウォーキング・散歩	46.0%	37.0%	44.9%	47.4%	55.0%
体操(ラジオ体操・ストレッチ・ヨガなど)	20.1%	20.5%	30.6%	15.8%	35.0%
水泳	17.5%	11.0%	22.4%	10.5%	22.5%
ボウリング	5.3%	13.7%	20.4%	7.9%	5.0%
卓球	10.1%	5.5%	14.3%	7.9%	5.0%
サッカー	4.2%	5.5%	6.1%	2.6%	0.0%
バスケットボール・車いすバスケットボール	5.8%	1.4%	8.2%	0.0%	0.0%
バレーボール	4.2%	0.0%	12.2%	0.0%	2.5%
アーチェリー	5.8%	1.4%	6.1%	0.0%	0.0%
陸上競技	3.2%	6.8%	2.0%	2.6%	0.0%
ソフトボール・グラウンドソフトボール・フットソフトボール	3.7%	1.4%	4.1%	5.3%	0.0%
ボッチャ	2.6%	4.1%	0.0%	5.3%	0.0%
フライングディスク	1.1%	6.8%	0.0%	5.3%	0.0%
興味がない	19.0%	27.4%	12.2%	7.9%	17.5%
その他	9.5%	2.7%	10.2%	5.3%	15.0%
無回答	5.8%	6.8%	0.0%	21.1%	2.5%

問26 スポーツや運動を行う際に必要な支援は何ですか。＜3つまで○をつける＞

スポーツや運動を行うために必要な支援については、身体・精神・複合の障害種別では「一緒に行く仲間」の割合が最も高くなっており、次いで「適切な指導者」の割合が高くなっています。知的の障害種別では「適切な指導者」の割合が最も高くなっており、次いで「一緒に行く仲間」が高くなっています。難病の障害種別では「適切な指導者」「一緒に行く仲間」の割合が同率で最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
一緒に行く仲間	39.7%	47.9%	46.9%	42.1%	40.0%
適切な指導者	28.0%	49.3%	40.8%	39.5%	40.0%
障害に合わせたプログラムの充実	26.5%	20.5%	26.5%	31.6%	20.0%
障害者が優先的に使える施設の充実	21.2%	20.5%	12.2%	28.9%	10.0%
体育館などの施設や設備のバリアフリー化	23.3%	9.6%	6.1%	10.5%	32.5%
障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	18.5%	12.3%	28.6%	15.8%	20.0%
施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	12.2%	16.4%	18.4%	10.5%	10.0%
介助者や手話通訳などの支援	7.9%	8.2%	2.0%	13.2%	5.0%
その他	1.6%	6.8%	8.2%	2.6%	2.5%
無回答	13.2%	9.6%	10.2%	18.4%	7.5%

●文化芸術活動について

問27 あなたは文化芸術活動を行っていますか。 <3つまで○をつける>

文化芸術活動については、全ての障害種別で「行っていない」が過半数を占めています。行っている活動内容としては、難病以外の障害種別では「音楽」の割合が最も高くなっており、難病の障害種別では「手工芸」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
音楽	9.0%	12.3%	22.4%	13.2%	7.5%
写真・映像	5.8%	5.5%	10.2%	0.0%	5.0%
絵画	3.7%	4.1%	8.2%	5.3%	2.5%
手工芸	3.2%	1.4%	4.1%	2.6%	10.0%
ダンス	1.1%	2.7%	4.1%	0.0%	0.0%
書道	2.1%	0.0%	2.0%	0.0%	2.5%
演劇	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%
陶芸	0.5%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%
版画・彫刻	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	3.2%	2.7%	12.2%	5.3%	2.5%
行っていない	74.6%	78.1%	59.2%	76.3%	72.5%
無回答	2.6%	1.4%	0.0%	7.9%	2.5%



問28 【問27で「行っていない」と回答した方のみ】

文化芸術活動を行っていない理由は何ですか。 <3つまで○をつける>

文化芸術活動を行っていない理由については、複合以外の障害種別では「文化芸術活動に興味がない」、複合の障害種別では「身体等の理由から文化芸術活動を行うことができない」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=141)	知的(N=57)	精神(N=29)	複合(N=29)	難病(N=29)
文化芸術活動に興味がない	44.7%	40.4%	41.4%	17.2%	51.7%
どのような文化芸術活動があるかわからない	27.0%	28.1%	24.1%	34.5%	17.2%
どうすれば文化芸術活動を始められるかわからない	10.6%	26.3%	34.5%	17.2%	20.7%
身体等の理由から文化芸術活動を行うことができない	16.3%	5.3%	17.2%	44.8%	3.4%
文化芸術活動ができる場が近くにない	12.1%	24.6%	27.6%	10.3%	13.8%
文化芸術活動の指導者がいない	4.3%	17.5%	20.7%	6.9%	6.9%
その他	9.2%	7.0%	17.2%	10.3%	17.2%
無回答	4.3%	3.5%	0.0%	3.4%	0.0%

問30 文化芸術活動を行う際の課題や必要としていることがあれば教えてください。

文化芸術活動を行う際の課題や必要な支援については、「無回答」を除くと、身体・難病の障害種別では「活動する場所」、知的・複合の障害種別では「支援者の確保」、精神の障害種別では「活動する資金」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
支援者の確保	16.4%	45.2%	20.4%	28.9%	17.5%
活動する場所	18.0%	11.0%	10.2%	5.3%	30.0%
活動する資金	14.8%	4.1%	30.6%	5.3%	17.5%
発表する場の確保	3.2%	0.0%	6.1%	2.6%	0.0%
その他	5.3%	9.6%	4.1%	0.0%	7.5%
無回答	42.3%	30.1%	28.6%	57.9%	27.5%

●災害対策について

問 31 あなたは、地域の自治会などに入っていますか。

地域の自治会への加入については、身体・複合・難病の障害種別では「入っている」が過半数を占めており、知的・精神の障害種別では「入っていない」が半数近くを占めています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
入っている	63.5%	43.8%	42.9%	52.6%	70.0%
入っていない	29.1%	49.3%	49.0%	31.6%	30.0%
入っていたがやめた	3.7%	0.0%	6.1%	5.3%	0.0%
無回答	3.7%	6.8%	2.0%	10.5%	0.0%

問 32 あなたは、地震や台風などの災害時に、ひとりで避難できますか。

災害時にひとりで避難できるかについては、身体・精神・難病の障害種別は「できる」が過半数を占めており、知的・複合の障害種別では「できない」の割合が最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
できる	54.0%	21.9%	55.1%	2.6%	80.0%
できない	23.8%	49.3%	20.4%	71.1%	15.0%
わからない	20.6%	27.4%	24.5%	18.4%	5.0%
無回答	1.6%	1.4%	0.0%	7.9%	0.0%

問 33 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

災害時に近所に助けてくれる人がいるかについては、知的・精神・複合の障害種別は「いない」の割合が最も高く、身体の障害種別は「いる」の割合が最も高くなっています。難病の障害種別では「いる」「わからない」の割合が同率で高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
いる	38.6%	20.5%	22.4%	15.8%	37.5%
いない	29.1%	42.5%	46.9%	47.4%	25.0%
わからない	30.2%	34.2%	30.6%	23.7%	37.5%
無回答	2.1%	2.7%	0.0%	13.2%	0.0%

問34 地震や台風などの災害時に、どのようなことに心配や不安がありますか。  
 < 3つまで○をつける >

災害時における心配事や不安については、身体・精神・難病の障害種別では「避難場所  
 で必要な医療や介助が受けられるか」、知的の障害種別では「避難場所が障害者に配慮さ  
 れているか」の割合が最も高くなっています。次いで、身体・難病の障害種別では「避難  
 場所が障害者に配慮されているか」、知的・精神の障害種別では「どこに避難してよいか  
 わからない」の割合が高くなっています。複合の障害種別については、「避難場所が障害  
 者に配慮されているか」「避難場所に必要な医療や介助が受けられるか」の割合が同率で  
 最も高くなっています。

	身体(N=189)	知的(N=73)	精神(N=49)	複合(N=38)	難病(N=40)
避難場所が障害者に配慮されているか	46.0%	46.6%	38.8%	55.3%	35.0%
避難場所に必要な医療や介助が受けられるか	47.6%	21.9%	46.9%	55.3%	60.0%
災害に関する情報の入手	34.9%	28.8%	30.6%	15.8%	17.5%
どこに避難してよいかわからない	24.3%	39.7%	40.8%	28.9%	22.5%
避難する時に介助や支援をしてくれる人がいない	13.2%	23.3%	18.4%	34.2%	7.5%
その他	9.0%	12.3%	12.2%	2.6%	10.0%
無回答	10.1%	5.5%	2.0%	7.9%	7.5%

イ) 年齢（区分：17歳以下、18～39歳、40～64歳、65歳以上）

●相談について












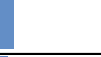










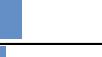









問1 現在、悩み事がありますか。 <3つまで○をつける>

現在の悩み事については、18～39歳、40～64歳、65歳以上では、共通して「自分の老後のこと」「健康や身体のこと」「お金のこと」が第1位から第3位を占めています。17歳以下では「進学や学校のこと」「就職や仕事のこと」「福祉・保健サービスの利用のこと」が第1位から第3位を占めています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
自分の老後のこと	20.5%	32.2%	55.4%	52.4%
健康や身体のこと	12.8%	32.2%	42.1%	52.4%
お金のこと	17.9%	33.1%	41.0%	45.2%
就職や仕事のこと	33.3%	24.0%	18.5%	7.1%
親の老後のこと	17.9%	16.5%	15.4%	7.1%
人間関係のこと	23.1%	14.0%	11.3%	11.9%
医療のこと	12.8%	9.9%	11.8%	33.3%
福祉・保健サービスの利用のこと	25.6%	10.7%	9.7%	16.7%
悩み事はない	15.4%	12.4%	9.2%	9.5%
家庭のこと	2.6%	8.3%	10.8%	9.5%
災害時の安全確保のこと	15.4%	5.8%	7.7%	14.3%
恋愛や結婚のこと	5.1%	9.9%	7.7%	2.4%
住まいの確保のこと	2.6%	8.3%	4.1%	4.8%
進学や学校のこと	48.7%	0.0%	0.0%	2.4%
子育てや子どもの教育のこと	2.6%	4.1%	5.1%	0.0%
その他	0.0%	8.3%	3.6%	0.0%
無回答	2.6%	0.0%	2.1%	0.0%

問2 今後、福祉や生活に関する相談支援体制として、どのようなことを希望しますか。＜3つまで○をつける＞

相談支援体制について希望することについては、全ての年齢で「どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい」の割合が最も高くなっています。次いで17歳以下では「相談員の質（知識・相談技術等）を向上させてほしい」、18～39歳、40～64歳では「身近な地域で相談できるようにしてほしい」、65歳以上では「相談窓口を一本化してほしい」が高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい	 59.0%	 43.0%	 59.0%	 50.0%
身近な地域で相談できるようにしてほしい	 33.3%	 32.2%	 34.9%	 40.5%
相談員の質（知識・相談技術等）を向上させてほしい	 46.2%	 28.1%	 24.6%	 16.7%
休日・夜間の相談ができるようにしてほしい	 25.6%	 28.9%	 25.6%	 14.3%
相談窓口を一本化してほしい	 41.0%	 21.5%	 22.1%	 42.9%
病院・福祉施設等による訪問相談をしてほしい	 20.5%	 9.9%	 14.9%	 23.8%
その他	 2.6%	 9.1%	 6.2%	 2.4%
無回答	 5.1%	 7.4%	 6.7%	 11.9%

●老化・高齢化について

問3 あなたは、老化・高齢化に伴う身体等の機能低下を感じていますか。

<あてはまるものすべてに○をつける>

老化・高齢化に伴う身体等の機能低下を感じることは、「その他」「無回答」を除くと、18～39歳、40～64歳、65歳以上では「体力的低下」の割合が最も高くなっています。次いで18～39歳、40～64歳では「視覚（視力）の低下」、65歳以上では「歩行困難」の割合が高くなっています。17歳以下では「体力的低下」「歩行困難」が同率で最も高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
体力的低下	15.4%	36.4%	75.4%	88.1%
視覚（視力）の低下	10.3%	9.1%	27.7%	26.2%
歩行困難	15.4%	4.1%	17.4%	33.3%
聴力の低下（聞き返すことが増える、テレビの音量が大きいと言われる）	2.6%	5.0%	15.4%	31.0%
言語の低下（言い間違える、言われていることが分からない、言葉が思い出せない）	10.3%	5.0%	12.8%	19.0%
認知能力の低下（新しいことを覚えられない、料理・掃除をすることが難しい）	2.6%	5.8%	13.8%	7.1%
そしゃく、嚥下の低下（うまくかめない、飲み込みにくい、よく咳き込む）	7.7%	8.3%	8.7%	16.7%
身体の麻痺	7.7%	4.1%	11.3%	19.0%
その他	17.9%	13.2%	4.1%	9.5%
無回答	53.8%	33.1%	9.2%	2.4%

問4 あなたは、認知症を予防するための活動に取り組んでいますか、もしくは取り組んでみたいと思いますか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

認知症を予防するための活動については、「わからない」「無回答」を除くと、17歳以下、18～39歳では「予防活動に取り組む必要性を感じない」、40～64歳、65歳以上では「認知症を早期に発見できるテスト等を受けた(受けてみたい)」の割合が最も高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
予防活動に取り組む必要性を感じない	12.8%	20.7%	14.9%	21.4%
認知症を早期に発見できるテスト等を受けた(受けてみたい)	2.6%	8.3%	20.0%	26.2%
自宅でできる活動に取り組んだ(取り組みたい)	5.1%	10.7%	17.4%	21.4%
予防教室等の活動に参加している(参加してみたい)	0.0%	0.8%	6.7%	14.3%
近くの健康センター等で行う予防活動に参加した(参加してみたい)	0.0%	0.0%	5.1%	14.3%
わからない	48.7%	54.5%	39.5%	31.0%
無回答	30.8%	10.7%	8.7%	2.4%

●障害者差別解消について

問5 あなたは障害があることで、差別されたり、嫌な思いをする（した）ことがありますか。

差別の有無については、17歳以下では「少しある」、18～39歳では「少しある」と「ない」、40～64歳、65歳以上では「ない」の割合が最も高くなっています。一方、「よくある」と「少しある」の割合を合計すると、17歳以下、18～39歳、40～64歳で過半数を超えています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
よくある	20.5%	14.9%	19.5%	9.5%
少しある	46.2%	42.1%	36.9%	21.4%
ない	33.3%	42.1%	42.1%	69.0%
無回答	0.0%	0.8%	1.5%	0.0%

問10 障害のある人となない人が同じように生活するためには、さまざまな配慮や工夫が必要になることがあります。特に力を入れるべき事は何だと思いますか。

障害のある人となない人が同じように生活するために必要なことについては、全ての年齢で「障害に関する理解の促進」の割合が最も高くなっており、次いで「幼い頃からの障害のある人となない人との交流の促進」の割合が高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
障害に関する理解の促進	43.6%	45.5%	54.4%	47.6%
幼い頃からの障害のある人となない人との交流の促進	20.5%	20.7%	20.0%	19.0%
障害に関する教育機会の充実	12.8%	14.0%	11.3%	9.5%
障害者作品展や障害者スポーツなどにおける障害のある人となない人との交流するイベントの開催	2.6%	7.4%	3.6%	4.8%
その他	2.6%	5.8%	4.1%	4.8%
無回答	17.9%	6.6%	6.7%	14.3%



●暮らしについて

問16 現在、あなたはどのように暮らしていますか。

どのように暮らしているかについては、全ての年齢で「家族と暮らしている」が過半数を超えています。次いで18～39歳、40～64歳、65歳以上では「一人で暮らしている」、17歳以下では「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」の割合が高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
家族と暮らしている	84.6%	81.8%	80.0%	59.5%
一人で暮らしている	0.0%	6.6%	14.4%	23.8%
福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている	12.8%	1.7%	2.6%	2.4%
グループホームで暮らしている	0.0%	3.3%	2.1%	7.1%
病院に入院している	0.0%	4.1%	0.5%	0.0%
その他	0.0%	2.5%	0.5%	2.4%
無回答	2.6%	0.0%	0.0%	4.8%

問17 あなたは今後どのように暮らしたいですか。

今後どのように暮らしたいかについては、全ての年齢で「家族と一緒に暮らしたい」が過半数を占めており、次いで「一般住宅で一人暮らしをしたい」の割合が高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
家族と一緒に暮らしたい	79.5%	54.5%	66.7%	59.5%
一般住宅で一人暮らしをしたい	7.7%	20.7%	20.0%	14.3%
福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい	5.1%	8.3%	5.1%	11.9%
グループホームで暮らしたい	5.1%	9.1%	3.1%	4.8%
その他	2.6%	5.8%	2.6%	0.0%
無回答	0.0%	1.7%	2.6%	9.5%

問18 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。〈あてはまるものすべてに○をつける〉

希望する暮らしを送るために必要な支援については、全ての年齢で「経済的負担の軽減」の割合が最も高くなっています。次いで17歳以下、18～39歳、40～64歳では「障害者に適した住居の確保」、65歳以上では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の割合が高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
経済的負担の軽減	56.4%	57.9%	64.1%	54.8%
障害者に適した住居の確保	38.5%	38.0%	29.2%	11.9%
必要な在宅サービスが適切に利用できること	33.3%	28.1%	28.7%	45.2%
移動サービスの充実	28.2%	24.8%	27.7%	23.8%
相談対応等の充実	28.2%	27.3%	22.6%	23.8%
在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	12.8%	23.1%	24.1%	40.5%
地域住民等の理解	17.9%	20.7%	20.5%	7.1%
生活訓練等の充実	33.3%	9.1%	11.8%	19.0%
コミュニケーションについての支援	20.5%	15.7%	10.3%	9.5%
その他	5.1%	4.1%	3.1%	0.0%
無回答	7.7%	6.6%	2.1%	7.1%

●療育について

問19 障害のある子どもの保育・療育・教育環境について、今後希望することは何ですか。 <3つまで○をつける>

障害のある子どもの保育・療育・教育環境について今後希望することについては、18～39歳、40～64歳、65歳以上では「障害の内容・程度に合った保育・療育・教育の充実」の割合が最も高くなっており、次いで「日常的な相談支援体制の充実」の割合が高くなっています。17歳以下では「入学前・卒業後の進路相談」の割合が最も高く、次いで「障害の内容・程度にあった保育・療育・教育の充実」「希望した学校等への進学・進路の確保」の割合が高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
障害の内容・程度に合った保育・療育・教育の充実	38.5%	40.5%	32.8%	42.9%
日常的な相談支援体制の充実	33.3%	35.5%	29.7%	35.7%
保育や療育、教育の職員の障害についての理解	28.2%	32.2%	17.4%	11.9%
他の保護者の障害に対する理解	28.2%	14.0%	25.6%	16.7%
入学前・卒業後の進路相談	43.6%	19.8%	14.9%	11.9%
保育所・幼稚園、学校での十分な支援(介助)体制	25.6%	19.0%	16.9%	16.7%
施設や設備のバリアフリー化	17.9%	7.4%	15.4%	16.7%
希望した学校等への進学・進路の確保	38.5%	5.0%	14.9%	2.4%
障害のない子どもとの交流	10.3%	10.7%	12.3%	16.7%
障害児通所事業(放課後等デイサービス、児童発達支援等)の質の確保	28.2%	9.9%	8.2%	19.0%
医療的ケアが受けられる保育園・児童発達支援・放課後等デイサービス	15.4%	7.4%	11.3%	14.3%
その他	5.1%	5.0%	6.2%	2.4%
無回答	2.6%	13.2%	17.4%	21.4%

●スポーツについて

問23 あなたはスポーツや運動を行っていますか。

スポーツや運動を行っているかについては、18～39歳、40～64歳、65歳以上では「行っていない」の割合が最も高くなっています。17歳以下では「週に1～2回」の割合が最も高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
週に3回以上	17.9%	12.4%	9.2%	14.3%
週に1～2回	35.9%	13.2%	16.4%	19.0%
月に1～3回	12.8%	7.4%	9.2%	2.4%
年に数回程度	0.0%	9.9%	7.2%	2.4%
行っていない	30.8%	57.0%	57.4%	52.4%
無回答	2.6%	0.0%	0.5%	9.5%

問24 【問23で「行っていない」と回答した方のみ】









































スポーツや運動を行っていない理由は何ですか。＜3つまで○をつける＞

スポーツや運動を行っていない理由については、40～64歳、65歳以上では「身体等の理由からスポーツや運動を行うことができない」、18～39歳では「スポーツや運動に興味がない」の割合が最も高くなっています。17歳以下では「身体等の理由からスポーツや運動を行うことができない」「スポーツや運動に興味がない」が同率で最も高くなっています。

	17歳以下 (N=12)	18～39歳 (N=69)	40～64歳 (N=112)	65歳以上 (N=22)
身体等の理由からスポーツや運動を行うことができない	41.7%	31.9%	38.4%	54.5%
スポーツや運動に興味がない	41.7%	37.7%	26.8%	22.7%
スポーツや運動ができる場が近くにない	8.3%	8.7%	19.6%	22.7%
どうすればスポーツや運動を始められるかわからない	8.3%	11.6%	9.8%	9.1%
スポーツや運動の指導者がいない	0.0%	10.1%	8.9%	13.6%
どのようなスポーツや運動があるかわからない	8.3%	5.8%	9.8%	9.1%
その他	16.7%	17.4%	20.5%	9.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.9%	4.5%

問26 スポーツや運動を行う際に必要な支援は何ですか。＜3つまで○をつける＞

スポーツや運動を行うために必要な支援については、18～39歳、40～64歳では「一緒に行く仲間」、17歳以下、65歳以上では「適切な指導者」の割合が最も高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
一緒に行く仲間	 43.6%	 47.1%	 41.5%	 33.3%
適切な指導者	 53.8%	 34.7%	 32.3%	 40.5%
障害に合わせたプログラムの充実	 35.9%	 26.4%	 21.5%	 23.8%
障害者が優先的に使える施設の充実	 23.1%	 18.2%	 21.5%	 11.9%
体育館などの施設や設備のバリアフリー化	 28.2%	 16.5%	 17.4%	 21.4%
障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	 20.5%	 12.4%	 21.5%	 16.7%
施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	 12.8%	 19.0%	 11.3%	 11.9%
介助者や手話通訳などの支援	 12.8%	 8.3%	 7.7%	 4.8%
その他	 7.7%	 5.0%	 2.6%	 2.4%
無回答	 7.7%	 11.6%	 11.3%	 23.8%

●文化芸術活動について

問27 あなたは文化芸術活動を行っていますか。 <3つまで○をつける>

文化芸術活動については、全ての年齢で「行っていない」が過半数を占めており、行っている活動内容としては「音楽」の割合が最も高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
音楽	23.1%	10.7%	9.7%	9.5%
写真・映像	5.1%	3.3%	6.7%	7.1%
絵画	10.3%	3.3%	4.1%	0.0%
手工芸	0.0%	1.7%	5.1%	4.8%
ダンス	2.6%	0.8%	1.0%	4.8%
書道	7.7%	0.0%	1.5%	0.0%
演劇	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
陶芸	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
版画・彫刻	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	7.7%	2.5%	4.1%	7.1%
行っていない	64.1%	80.2%	72.3%	69.0%
無回答	2.6%	1.7%	3.1%	7.1%

問28 【問27で「行っていない」と回答した方のみ】























文化芸術活動を行っていない理由は何ですか。 <3つまで○をつける>

問27で行っていないと回答した方の文化芸術活動を行っていない理由については、全ての年齢で「文化芸術活動に興味がない」が最も高くなっています。

	17歳以下 (N=25)	18～39歳 (N=97)	40～64歳 (N=141)	65歳以上 (N=29)
文化芸術活動に興味がない	40.0%	43.3%	38.3%	48.3%
どのような文化芸術活動があるかわからない	20.0%	23.7%	31.9%	17.2%
文化芸術活動ができる場が近くにない	28.0%	15.5%	14.9%	17.2%
身体等の理由から文化芸術活動を行うことができない	20.0%	15.5%	16.3%	17.2%
どうすれば文化芸術活動を始められるかわからない	16.0%	16.5%	19.9%	10.3%
文化芸術活動の指導者がいない	16.0%	4.1%	10.6%	13.8%
その他	4.0%	9.3%	9.9%	20.7%
無回答	4.0%	2.1%	4.3%	3.4%

問30 文化芸術活動を行う際の課題や必要としていることがあれば教えてください。

文化芸術活動を行う際の課題や必要な支援については、「無回答」を除くと、17歳以下、18～39歳、40～64歳では「支援者の確保」の割合が最も高くなっており、65歳以上では「活動する場所」の割合が最も高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
支援者の確保	 30.8%	 25.6%	 21.0%	 16.7%
活動する場所	 7.7%	 12.4%	 17.9%	 21.4%
活動する資金	 5.1%	 15.7%	 15.9%	 9.5%
発表する場の確保	0.0%	 0.8%	 2.6%	 7.1%
その他	 2.6%	 7.4%	 6.7%	0.0%
無回答	 53.8%	 38.0%	 35.9%	 45.2%

●災害対策について

問32 あなたは、地震や台風などの災害時に、ひとりで避難できますか。

災害時にひとりで避難できるかについては、18～39歳、40～64歳、65歳以上では「できる」、17歳以下では「できない」の割合が最も高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
できる	10.3%	38.8%	55.4%	50.0%
できない	66.7%	34.7%	24.6%	31.0%
わからない	23.1%	24.0%	19.5%	11.9%
無回答	0.0%	2.5%	0.5%	7.1%

問34 地震や台風などの災害時に、どのようなことに心配や不安がありますか。

< 3つまで○をつける >

災害時における心配事や不安については、17歳以下、18～39歳では「避難場所が障害者に配慮されているか」、40～64歳、65歳以上では「避難場所が必要な医療や介助が受けられるか」の割合が最も高くなっています。

	17歳以下 (N=39)	18～39歳 (N=121)	40～64歳 (N=195)	65歳以上 (N=42)
避難場所が障害者に配慮されているか	59.0%	42.1%	43.1%	45.2%
避難場所が必要な医療や介助が受けられるか	51.3%	35.5%	47.2%	52.4%
災害に関する情報の入手	20.5%	29.8%	31.3%	35.7%
どこに避難してよいかわからない	41.0%	38.0%	22.6%	21.4%
避難する時に介助や支援をしてくれる人がいない	35.9%	18.2%	14.9%	11.9%
その他	5.1%	9.1%	10.8%	7.1%
無回答	2.6%	9.9%	6.7%	14.3%



ウ) 障害保健福祉圏域（区分：居住市町により6つの圏域別）

●相談について

問1 現在、悩み事はありますか。 <3つまで○をつける>

現在の悩み事については、県東・県南・両毛圏域において「自分の老後のこと」、県西圏域では「お金のこと」の割合が最も高くなっています。宇都宮圏域では「自分の老後のこと」「健康や身体のこと」、県北圏域では「自分の老後のこと」「お金のこと」の割合が同率で最も高くなっています。

次いで、宇都宮圏域では「お金のこと」、県西圏域では「自分の老後のこと」、県東圏域では「就職や仕事のこと」、県南・県北・両毛圏域では「健康や身体のこと」の割合が高くなっています。

	宇都宮圏域 (N=104)	県西圏域 (N=31)	県東圏域 (N=35)	県南圏域 (N=93)	県北圏域 (N=73)	両毛圏域 (N=61)
自分の老後のこと	38.5%	38.7%	45.7%	48.4%	50.7%	44.3%
健康や身体のこと	38.5%	32.3%	28.6%	35.5%	41.1%	39.3%
お金のこと	32.7%	45.2%	37.1%	28.0%	50.7%	34.4%
就職や仕事のこと	17.3%	16.1%	40.0%	25.8%	13.7%	16.4%
親の老後のこと	21.2%	19.4%	11.4%	10.8%	11.0%	16.4%
人間関係のこと	7.7%	19.4%	14.3%	11.8%	20.5%	11.5%
医療のこと	11.5%	6.5%	2.9%	18.3%	11.0%	21.3%
福祉・保健サービスの利用のこと	11.5%	6.5%	14.3%	14.0%	11.0%	14.8%
悩み事はない	12.5%	12.9%	8.6%	14.0%	6.8%	9.8%
家庭のこと	6.7%	6.5%	14.3%	6.5%	11.0%	13.1%
災害時の安全確保のこと	5.8%	6.5%	8.6%	9.7%	6.8%	14.8%
恋愛や結婚のこと	10.6%	6.5%	11.4%	5.4%	5.5%	6.6%
お住まいの確保のこと	3.8%	0.0%	0.0%	4.3%	6.8%	13.1%
進学や学校のこと	9.6%	6.5%	2.9%	3.2%	4.1%	1.6%
子育てや子どもの教育のこと	7.7%	6.5%	0.0%	3.2%	2.7%	3.3%
その他	4.8%	3.2%	8.6%	2.2%	2.7%	6.6%
無回答	1.9%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	1.6%

問2 今後、福祉や生活に関する相談支援体制として、どのようなことを希望しますか。＜3つまで○をつける＞

相談支援体制について希望することについては、全ての圏域で「どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい」の割合が最も高くなっています。次いで両毛圏域以外のすべての圏域では「身近な地域で相談できるようにしてほしい」、両毛圏域では「休日・夜間の相談ができるようにしてほしい」の割合が高くなっています。

	宇都宮圏域 (N=104)	県西圏域 (N=31)	県東圏域 (N=35)	県南圏域 (N=93)	県北圏域 (N=73)	両毛圏域 (N=61)
どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい	56.7%	51.6%	54.3%	52.7%	47.9%	50.8%
身近な地域で相談できるようにしてほしい	32.7%	45.2%	37.1%	36.6%	32.9%	27.9%
相談員の質(知識・相談技術等)を向上させてほしい	26.0%	41.9%	25.7%	24.7%	30.1%	19.7%
休日・夜間の相談ができるようにしてほしい	30.8%	29.0%	20.0%	24.7%	13.7%	31.1%
相談窓口を一本化してほしい	27.9%	25.8%	28.6%	18.3%	31.5%	26.2%
病院・福祉施設等による訪問相談をしてほしい	10.6%	19.4%	5.7%	21.5%	13.7%	16.4%
その他	5.8%	3.2%	5.7%	5.4%	11.0%	4.9%
無回答	5.8%	6.5%	8.6%	7.5%	5.5%	13.1%

●暮らしについて

問18 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。〈あてはまるものすべてに○をつける〉

希望する暮らしを送るために必要な支援については、全ての圏域で「経済的負担の軽減」の割合が最も高くなっています。次いで、宇都宮・県南圏域では「障害者に適した住居の確保」、県西圏域では「障害者に適した住居の確保」「移動サービスの充実」、県東圏域では「相談対応等の充実」「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること」、県北・両毛圏域では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の割合が高くなっています。

	宇都宮圏域 (N=104)	県西圏域 (N=31)	県東圏域 (N=35)	県南圏域 (N=93)	県北圏域 (N=73)	両毛圏域 (N=61)
経済的負担の軽減	60.6%	58.1%	62.9%	64.5%	57.5%	52.5%
障害者に適した住居の確保	32.7%	41.9%	22.9%	30.1%	21.9%	34.4%
必要な在宅サービスが適切に利用できること	30.8%	35.5%	22.9%	24.7%	27.4%	39.3%
移動サービスの充実	30.8%	41.9%	17.1%	24.7%	19.2%	23.0%
相談対応等の充実	27.9%	35.5%	28.6%	23.7%	13.7%	21.3%
在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	26.0%	25.8%	28.6%	26.9%	11.0%	23.0%
地域住民等の理解	22.1%	16.1%	20.0%	19.4%	15.1%	16.4%
生活訓練等の充実	12.5%	16.1%	8.6%	15.1%	12.3%	18.0%
コミュニケーションについての支援	13.5%	9.7%	20.0%	11.8%	11.0%	11.5%
その他	2.9%	3.2%	5.7%	1.1%	4.1%	4.9%
無回答	3.8%	3.2%	8.6%	1.1%	6.8%	6.6%

### 3 その他（自由記述欄）の内容のまとめ

※原文を基本としつつ、一部編集、抜粋の上掲載しています。

#### 問1 現在悩み事がありますか。

- ・会話と買い物が難しい。
- ・一人で移動（外出）できない。
- ・点字ブロックがない。
- ・交通手段が不便
- ・グループホームの入居時期
- ・親がいなくなったときの住まいや生活支援
- ・子供の将来

#### 問2 今後、福祉や生活に関する相談支援体制として、どのようなことを希望しますか。

- ・病院・福祉施設で相談する機会がほしい。
- ・学校で相談できる環境を整えてほしい。
- ・支援する親が安心して老後を暮らせるようにしてほしい。
- ・いろいろな物事にもっと柔軟に対応してほしい。
- ・家族の知識向上をしてほしい。
- ・今のままで良い。

#### 問3 あなたは、老化・高齢化に伴う身体等の機能低下を感じていますか。

- ・若い時よりも健康不安がある。
- ・関節の痛み
- ・腰が痛い。
- ・自転車の乗り降りのバランスが崩れる。
- ・睡眠の質が悪い。

#### 問6 【問5「あなたは障害があることで、差別されたり、嫌な思いをする（した）ことがありますか。」で「1 よくある」、「2 少しある」と回答した方のみ】それは、どのような時に感じましたか。

- ・変わった人がいるという感じの視線を感じる。
- ・ジロジロ見られる。特に夏は薄着になるので障害の部分がわかってしまう。
- ・見下すような態度を取られた。
- ・ヒソヒソ話をされた。
- ・好奇の目で見られ、攻撃的な態度をとられた。
- ・高次脳機能障害は見た目が普通なので、話し始めるとわかりづらいのか、明らかにイライラされたことがあった。
- ・見た目は健康そうに見えるので、何でもできると思われた。
- ・自分でできることでも、障害のためにできないと決めつけられてしまった。
- ・酸素を吸入しながらエレベータに乗った時、一緒に乗った子供の母親が「かわいそうな人だから見ちゃだめ」と言っていた。
- ・思いやりで言っているとは思いますが、しつこく聞かれた。
- ・下肢に麻痺があることに対して「日中から酒を飲んでいるのか」と言われた。
- ・物を落とした時に見付けることができなかった。
- ・タクシー乗車時に拒否された。
- ・バスの運転手さんの対応が冷たかった。
- ・あと少しで聞きとれそうなのに、面倒であるためか再度話してくれなかった。
- ・やりたいことを我慢しなければいけないことが多々ある。
- ・トイレを探すのが大変なことがあった。
- ・手術跡の傷をからかわれた。
- ・障害者用の駐車スペースに車椅子マークを提示して車を止めておいたが、館内放送で呼び出しをされて「車を移動して下さい」と言われた。

- ・思いやり証を車に提示していたが「お前みたいなのがそこを使うからダメなんだ。もっと遠くに駐めろ。」と怒鳴られた。
- ・障害者用駐車場に健常者が駐車していて、自分は駐車できなかった。
- ・駐車スペースが狭い。
- ・視力障害があるので、最近の様々な会計の仕方に戸惑うことがある。
- ・耳が聞こえないことを伝えて筆談をお願いするが、口だけで話しをされることがある。
- ・コミュニケーションをうまくとれないことがある。
- ・障害のことを否定された。
- ・職場で難病の話題を出され、いたたまれなかったので退職した。
- ・障害者だからとバカにされた。
- ・勤務先に障害のことを伝えていたが、パニックを起こしたことで勤務を減らされた。
- ・支援者が障害をしっかりと理解していないことがあった。

**問8 【問7「その時、誰かに相談しましたか」で「6 誰にも相談していない」と回答した方のみ】それは、なぜですか。**

- ・自分さえ我慢さえすれば良いと思った。
- ・我慢することが習慣になってしまった。
- ・個別の事情なので自分が我慢するしかないと思った。
- ・あまり深刻には認識していない。
- ・たいしたことではない。
- ・仕方がないから。
- ・いつものこと、キリがない。
- ・言っても無理とあきらめた。
- ・どうせ変わらないと思うから。
- ・それが世間だと思うから。
- ・近所の人なので強く言えなかった。
- ・理解してくれる人はいない。
- ・相談しても解決できない。
- ・社会が追いついていないと思ったから。

**問10 障害のある人となない人が同じように生活するためには、さまざまな配慮や工夫が必要になることがあります。特に力を入れるべき事は何だと思いますか。**

- ・知ってもらう。理解までは難しいと思う。
- ・障害者の親が安心して暮らせる、将来に希望を持てる社会を作ること。
- ・ヘルプカードの認知度を上げる。
- ・障害者の雇用
- ・障害年金をもらえる人を更に増やす。
- ・親睦会を開く。
- ・完治以外に道がひらけることはない。
- ・ケースバイケースだと思う。

**問12 あなたは日常的にどのような方法により情報を入手していますか。**

- ・司法書士（後見人）
- ・就労支援事業所の職員
- ・主治医
- ・病院のスタッフ
- ・会社の同僚
- ・学校
- ・ピアサークル
- ・育成会
- ・電子メモパッド
- ・スマートスピーカー

問 13 あなたはどのような方法で、他者とコミュニケーションしていますか。

- ・ LINE 通話
- ・ ビデオ通話
- ・ 電子メモパッド
- ・ 友達とおして
- ・ 自分の言葉がはっきりしない為コミュニケーションが取りにくい。
- ・ 病院介護者の声かけに対してのアーアーウーウーなどの返事。

問 15 【 問 14「あなたは、他者とコミュニケーションする際、困ったことはありますか。」  
で「 1 ある 」と回答した方のみ 】 それは、どのような場面でしたか。

- ・ 目、耳が不自由のためにコミュニケーションがとりづらい。
- ・ 離れた場所から相手がジェスチャーで伝えようとしたが、見えないので結局は近くまで行って話した。
- ・ 相手を見て話していたが、にらみつけていると思われて文句を言われた。
- ・ 電車で何番線かがわからない時に、見えないので誰が駅員さんかもわからない。
- ・ 公共交通機関で、行き先、トイレをたずねても、きちんと回答してもらえない。回答してくれたとしても、健常者にする説明の仕方の場合、ロービジョンの人には理解しづらい。
- ・ グループホームで、他の利用者と思疎通ができなくなりトラブルになった。
- ・ 事業所で利用者同士のトラブルがあった際に、状況がうまく伝えられなかったことで自分が悪者になったように扱われた。
- ・ 伝えたいことが上手く伝えられない。
- ・ その人の言っていることが理解できない。
- ・ ちゃんとした会話でなく、独特な表現法だったりするのでなかなか伝わらない事もある。
- ・ 言葉による人とのコミュニケーションがとれない。
- ・ 字が読めない。
- ・ 手話が分からない。
- ・ 文章が長くなると全てが理解不能になる。
- ・ 会話についていけない。スピードが早い。内容が難しい。
- ・ お店の中で、マスクやBGMによってよく聞こえないことが多い。
- ・ 特にコロナ禍になってマスクが増えてから相手の口元が見えず、コミュニケーションが取りづらくなった。
- ・ 適切な言葉が出にくくなっており、発音も不明瞭なので言いたいことが伝わりにくい。
- ・ 慣れない人には言葉が聞きとりづらい。
- ・ 顔に少し麻痺があり呂律がまわらない。
- ・ 周囲が騒がしい場所では、相手の話し声がなかなか聞えない。
- ・ 話し声が聞き取りにくかった時に、聞き返すのが嫌でそのまま聞こえるふりを通していたら、会話がかみ合わなくなってしまった。
- ・ 1対1での会話は成り立つが、複数人になると音声認識アプリでは会話が追いつかない。また、オフライン（電波が悪いところ等）でも音声認識の精度が低下してしまう。
- ・ 見た目では、普通の仕事を健常者と同様に行っているのに、聴覚障害があることを伝えても信じてもらえないことがある。聞こえない（聞きとれない）ことは努力してもどうにもならないということを理解してもらえない。
- ・ 健常者に見えない障害を伝えることに気が引ける。出来ないことについての助けを求められない。
- ・ 統合失調症のため、頭の中がまとまりにくい。伝えても相手に理解してもらるのが難しい。
- ・ 理解してもらえないと思えば障害を隠してしまう。
- ・ 内部障害は他人には見えないので、重い物や階段などが大変である。
- ・ 病院で医師に筆談をお願いしても、詳しい説明は家族に話すことが多いので、自分はその場では何も分からずに不安になることがある。
- ・ 発語があまりなく本人の意志を伝達することが困難である。
- ・ 特定の家族や支援者とのコミュニケーションのみであり、興奮してしまうこともあるので他者とのコミュニケーションが取りにくい。

- ・言葉が分かりにくいいため会話が困難。親は理解ができる。
- ・どもってしまう。相手に悪い印象を持たれないか、とても不安になる。
- ・言葉がずっと出て来ない。
- ・言葉が不明瞭で聞き取ってもらえないことや、間違っって伝わってしまうことがある。
- ・言いたいことを文章にして伝えられない。また説明もできない。頭に浮かぶことと話すことが異なるために誤解が生じる。
- ・思っていることが十分に伝えられないこと。相手がどの程度理解しているか分からないときに、家族や介護者がいてくれたらと思う。
- ・持病のために息苦しくてうまく話せない時。
- ・失語症で言葉が出ないので、細かいことをうまく伝えられない。
- ・表現力が乏しいため、相手に伝わらない。
- ・病気になってから声が小さくなってしまい、聞き返されることがたまにある。

**問 17 あなたは今後どのように暮らしたいですか。**

- ・今のままで暮らしたい。
- ・一人暮らしもしてみたいがまだ分からない。
- ・30～40代までは家族と一緒に、その後は福祉施設。
- ・既に家を持っているので継続して暮らし、最期まで自宅で暮らせることを目標としている。
- ・現在入院中の病院で暮らしていく。
- ・希望を言える立場ではない。

**問 18 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。**

- ・受け入れ可能な施設の確保が難しいのが現状。受け入れがスムーズになると安心できる。
- ・通院先が遠方なので自力で通えなくなった時が不安。
- ・配偶者が障害者ならガス代・電気代を安くする。
- ・障害者の在宅勤務や、送迎のある職場の確保。
- ・特に不便は感じていない。現状の支援で何とかできている。

**問 19 障害のある子どもの保育・療育・教育環境について、今後希望することは何ですか。**

- ・障害者・児をもった親同士が本音で話せる場所を作ってほしい。
- ・障害のある子どもを持つ親へのフォロー
- ・教員の理解
- ・学校での支援員の確保
- ・高齢の障害者の雇用
- ・障害児通所事業所職員に対する賃金改善
- ・障害者が安心して暮らせる福祉施設を増設し、希望時にすぐに利用できるようにする。
- ・人間性の向上ある教育
- ・早期発見の機会

**問 21 あなたは、仕事をする、または仕事を継続するためには、どのような配慮が必要だと思いませんか。**

- ・仕事を指導する人の質の向上
- ・丁寧に教えてほしい。
- ・パートタイマーにも差別なく、賞与や福利厚生など充実する。
- ・時間休や有給休暇などの柔軟な対応
- ・在宅で仕事ができるように通信機器（パソコンなど）の費用補助
- ・工賃向上
- ・雇用の確保

問 22 あなたは働くために、雇用する側にどのような取組や合理的配慮を希望しますか。

- ・障害への理解と対応
- ・まわりの人の理解、配慮
- ・社内全体での障害理解
- ・年月が過ぎると職場の理解が薄くなるため、定期的に相談員やスタッフが職場と面談する場を設けてほしい。
- ・一般就労でも働ける環境の整備
- ・事業所のハード面の整備をしてほしい。
- ・パートへのボーナスやインフルワクチン代の補助
- ・丁寧に教えてほしい。
- ・道徳的な指導
- ・なし、うまくいっている。

問 24 【問 23「あなたはスポーツや運動を行っていますか。」で「5 行っていない」と回答した方のみ】スポーツや運動を行っていない理由は何ですか。

- ・移動手段とお金が足りない。
- ・家事で時間がない。
- ・金銭的に余裕がない。
- ・やりたいと思わない。
- ・動きたくない。
- ・続かない。
- ・仕事が忙しい。
- ・体力的に無理を感じる。
- ・外が暑くて、スポーツができない。
- ・積極的に自分から行えない。
- ・人と接することが苦手。
- ・ひきこもり
- ・リハビリ程度の運動のみ行っている。
- ・仕事の動きで運動になっている。
- ・紫外線厳禁なので家の中で出来るストレッチ等を行っている。
- ・以前は行っていたが体を壊してしまった。
- ・以前行っていたスポーツが今はできないから。

問 25 今後行ってみたいスポーツや運動は何ですか。

- ・ゴルフ
- ・自転車
- ・ロードバイク
- ・スキー
- ・アイスホッケー
- ・モルック
- ・野球
- ・テニス
- ・バドミントン
- ・剣道
- ・弓道
- ・山登り
- ・ハイキング
- ・乗馬
- ・屋内スポーツ観戦
- ・一人で出来ること、勝負のないことをやりたい。



問 26 スポーツや運動を行う際に必要な支援は何ですか。

- ・障害者を受け入れてくれるスポーツチーム
- ・駅から遠い競技場などでは施設に行くための手段がない。
- ・障害があっても試合に出させてもらえるようにしてほしい。
- ・スポーツ用品

問 27 あなたは文化芸術活動を行っていますか。

- ・合唱
- ・カラオケ
- ・太鼓
- ・将棋
- ・茶道
- ・俳句
- ・イラスト
- ・お絵かき
- ・ぬり絵
- ・ペン字
- ・日中活動での創作
- ・ジグソーパズル
- ・プラモデル
- ・パソコン、点字教室
- ・DVD鑑賞

問 28 【問 27「あなたは文化芸術活動を行っていますか。」で「11 行っていない」と回答した方のみ】文化芸術活動を行っていない理由は何ですか。

- ・やってみるといふ気持ちが今のところない。
- ・体調の都合などで意欲がわからない。
- ・仕事上、時間がとれない。
- ・興味がないわけではないが行う必要がない。
- ・興味はあるがなかなか始められない。
- ・金銭的に余裕がない。
- ・あまり目立ちたくない。
- ・コロナで活動ができていない。
- ・スポーツの方が好き。
- ・ひきこもりでコミュニケーションが取れないので活動はできない。
- ・もっぱら鑑賞のみ。
- ・写真や映像に興味はあるが、今は時間がない。

問 29 今後行ってみたい文化芸術活動はありますか。

- ・音楽
- ・合唱
- ・ピアノ
- ・楽器を習う
- ・ギターを練習して少し弾けるようになってきたので、スタジオを借りて大きい音で演奏してみたい。
- ・ストリートピアノの演奏をしてみたい。
- ・楽器演奏をやってみたいが、できるだけ簡単に演奏できる楽器からやってみて、慣れてきたらもっと挑戦できるようになれたらいいなと思う。
- ・琴を弾いてみたい。
- ・聴覚障害でも音楽を楽しみたい。
- ・演劇
- ・宝塚鑑賞

- ・コンサートに行きたい。
- ・障害者の演奏会（コンサート）
- ・まずは観ることからしてみたい。
- ・どんどん人と触れて活動的になり明るくなってほしい。
- ・絵画
- ・イラスト
- ・自分の興味のあることを無理なく楽しみたい。日本の古展芸術や美術館やコンサートに行く。自分ひとりで行けなくなったら、障害者のサークルに入り楽しみたい。
- ・手工芸
- ・刺し子・切り絵
- ・ドライフラワーアレンジメント
- ・裁縫とかの洋服など作ってみたい。
- ・個人的に気の合う者何名かで月に1度くらい自宅を解放して、ものづくりをしている。
- ・カメラ
- ・写真
- ・写真のモデルなど（障害者モデル）
- ・ホームページを作る。
- ・書道
- ・茶道
- ・華道
- ・囲碁
- ・日本舞踊
- ・ダンス
- ・花を育てる。

**問 30 文化芸術活動を行う際の課題や必要としていることがあれば教えてください。**

- ・在学中は教育のプログラムを通して参加することができた。卒業してからは、家族に仕事があり、能動的に活動するのは困難。
- ・活動する時間の確保。
- ・少しでも良いので手の動きが出てほしい。

**問 34 地震や台風などの災害時に、どのようなことに心配や不安がありますか。**

- ・避難所へ行きにくい。
- ・常に体調が悪いため避難所での生活には不安がある。
- ・避難場所で体調を崩してしまった場合、医療従事者でない一般の人の目が気になる。（仮病と思われていないかなど）
- ・避難場所の環境、衛生、感染症に対する心配。
- ・避難先にスロープや手すりが設置されていない。
- ・大勢の人が集まる場所が苦手であり、パニックを引き起こす。
- ・トイレが多めにあるか、きれいか。
- ・家族と避難したとしても無事に避難できるか不安。一人での避難は不可能。
- ・一人の時が心配
- ・電話が使えない。
- ・家が壊れたり燃えたりしないかどうか。
- ・ペットを残して行けない。
- ・今は家族がいるので不安はない。
- ・心配も不安もない。
- ・医療的ケアが必要な障害者（児）だけの避難訓練を地域で実施してほしい。
- ・透析が受けられるか。
- ・災害時の薬の確保

問 35 御意見・御要望がありましたら御記入ください。

【日常生活の中で困っていること】

(暮らしについて)

- ・一人暮らしは大変なため、高所の物を取る、重い物の買物などの手助けを月に2回位やってほしい。
- ・両親が高齢なので将来1人になった時にどうしたら良いか分からない。
- ・お金がない。
- ・収入が少ない中での物価高騰
- ・公共料金、生活食料品の高騰(年金だけでは苦しい)
- ・生活費の保障や、住まい、その他すべてのことが不安。
- ・身体をこわしてしまったので生活ができない。
- ・医療費、年3回の診断書代
- ・障害のある子供の通院のため高速道路を使用している。障害者本人が運転する場合はETC障害者割引を受けられるが、なぜ障害者本人以外が運転する場合は、重度障害の方のみが対象なのか。子供の障害のため働けず自宅保育しており高速代も大変。
- ・将来への不安。復職への不安。
- ・障害があるために働きにくかったり、収入が少なく生活が厳しかったりするの困っている。
- ・通院に費用がかかる。
- ・物が高い。ガソリンが高い。
- ・お金の管理が難しい。
- ・衣・食・住、すべてに困っている。
- ・買い物等
- ・結婚相談
- ・保証人がいない。
- ・退院したら仕事がしたい。
- ・移動支援を行う事業所が増えて、もっと気軽に利用したい。
- ・移動手段がない。
- ・公共交通機関が不足している。
- ・自宅から勤務先まで通勤手段が自転車しかないためバスがあれば良い。
- ・田舎で駅までの交通手段がない。
- ・オンデマンドやもう少し負担の少ない移動ができるようになってほしい。
- ・子どもの保育園の送迎が困難な時がある。(無料で送迎してもらえるサービスがあると良い)
- ・移動サービスはもう少し安い値段で利用できれば良いと思う。
- ・心臓疾患がある子供ですが、市役所、保健センターに問い合わせたところ、難病ではないのでサポートはないとの答えであった。寝ている子供を一人にして仕事に行くのは心配。
- ・買い物のときに駐車場(障害者スペース)が空いていない。
- ・重症心身障害で日中はデイサービスに通っているが、重症者のデイサービス施設は少なく定員が一杯でこれ以上の利用ができない。週5日利用や土曜日も利用できたら良い。
- ・同行援護を通学や通所、通勤などで、日常的に使用できるようにしてほしい。(一部自己負担があってもよいので)
- ・整理、整頓が苦手、できない。
- ・声のトーンによって話し声がわかりにくいことがある。騒音の中での会話。
- ・透析時間により生活や仕事の時間がとられる。
- ・1人暮らしの視覚障害者が、冬の寒波の際に水道が凍結し困っていた。民生委員の方でも、夏季、冬季には電話のみでもよいので連絡をいれてあげてほしい。
- ・親の介護
- ・趣味がない。

(障害及び障害者理解について)

- ・障害は外見からは分からないので、理解してもらうのが難しいことがある。

- ・高次脳機能障害のために、言いたいことを文章にして伝えられない、説明ができない、一度に2つのことができない、言われたことが覚えられない等。これらのことで困ることをどのようにしたらよいのかも分からないし、どこに相談したら良いのかも分からない。両親がいなくなったら、どのようにしたらいいのかわからず不安。
- ・まだまだ障害者に対する偏見・差別があるように感じます。障害がある人に交代制勤務などを望むのはいかなものか？と私は思います。
- ・言語、目の不自由
- ・私の勤めている職場は、差別がまだまだある。精神と聞いただけで頭がおかしいとか、バカ呼ばわりしている人もいる。
- ・持病の悪化で熱（38～40℃）が続いていた時、感染する病気ではなかったが外出することができなかつたため、買い物などが困った。
- ・ゴミやネット等が触れないことでゴミ当番が出来ず、自治会をやめることになった。
- ・「医療機関ではマスクをしましょう」のポスターをよく見かけるが、障害のために着用が困難な人への理解を促進する掲示物も同時に貼っておくべきではないか。
- ・身体的な障害ではないので自分から言わないと知ってもらえないのがつらい。精神障害と言うと周囲の人にひかれることが多いので言えないし、普通の人を装うのが疲れる。
- ・人と同じ行動ができないと思われている。
- ・発達障害に対する理解が進んでいない。冷たい視線。
- ・必要な情報を得るのに健常者と比較して制限がある。もっと社会参加を促す取組みに期待する。
- ・視覚障害のために信号が見えない。音の出る信号機がもっと普及すれば良いと思う。
- ・バスの運賃表示が見えにくい。バスの行き先表示が見えにくい。行き先案内のアナウンスの音量が小さい。
- ・病状が今後どうなるのか心配。誰に聞いたらいいのか。
- ・目が進行性の難病の為、見づらくて不安。
- ・ボタンをはめるのに時間がかかる。
- ・過敏なので生活がしんどい。（音、におい、味、感触）
- ・文字が上手に書けなくなった。

（その他）

- ・今のところ普通に生活できているので特になし。
- ・今の生活には満足している。
- ・今はまだ体が動くので大丈夫であるが、もう少し年を取ると利き手に負担がかかり動かなくなるのではないかと不安。
- ・入院しているためサポート体制がしっかりしているので日常生活に困ることはない。
- ・コロナ感染すると重症化しやすいと思われるが、5類になり世間は変わってきてしまい不安。

#### 【行政・相談機関等への御意見・要望】

（行政に求めること等について）

- ・施設での虐待のニュースなどがあるが、虐待が起きないように、厳しく監督してほしい。
- ・公共施設の優先駐車場などで、健常者が使用しているために使えないことが多々ある。
- ・行政窓口で割引を受けられるもののことを聞こうとしたら、この書類をよく読んで下さいと言われて終わりにされた。
- ・どの窓口で用が足せるかわからない。
- ・行政に相談したら「適切なマスクの着用をして下さい」と返されたが、障害者の窓口に再度相談したら「マスクをつけられません」のカードを市で導入してもらうことになった。
- ・障害者が受けられるサービス、免除などの情報は国や県からハガキ等で知らせてほしい。自分から申請しないとサービス等が受けられないのは、知らない人が損をする。
- ・食事制限が必要だが制限された食品（例えばタンパク質等）が割高であったりするため、治療の一環として一部負担や何か軽減されるような制度があったら嬉しい。

- ・透析（腹膜、血液共に）患者の旅行がしやすい制度。施設や機械の利用料の軽減など、アクティブに行動できるような支援が欲しい。
- ・療育手帳が小学生の写真のままなので再交付してほしいが、どこに行けば良いのかわからない。
- ・身体障害者手帳の紙が劣化してボロボロになりやすいので、長く使えるように対策して欲しい。
- ・各種申請に提出する書類が多く手間もかかるので簡略化してほしい。
- ・特定医療費（指定難病）受給者証の更新手続きに提出する必要書類が多くて大変。簡略化できると良い。市役所、病院に行き、提出先は県（保健所）なので手間がかかる。
- ・特定医療費（指定難病）受給者証の更新が毎年度であることが大変。難病であり症状も変わらず治らないので隔年ごと等にしてほしい。
- ・事前に電話で確認するも、役場に手続きに行くと「〇〇が足りない」と言われ、二度三度手間になることが多い。
- ・公民館等の身近な場所で福祉サービスの申請ができると助かる。
- ・ストマの更新等、自治センターで出来る手続きを増やしてほしい。成長するにつれて生きにくさを感じる。
- ・ストマ日常生活用具給付の助成額を増やしてほしい。
- ・免許返納者だけでなく、障害者にも公共交通機関等の各種特典・サービス提供を要望する。障害者は免許取得さえも難しい場合があるため、免許返納者と同等のサービスが必要。
- ・福祉タクシー券だけでなく、ガソリン券も選択できるようにしてほしい。地域の特性上、ガソリン券の方が有意義。
- ・心臓4級の人でも自動車税減免対象にしてほしい。軽度障害といっても、生活が苦しいので、せめて半額だけでも助かります。
- ・難病の人に対する補助金を増やしてほしい。もしくは自己負担上限額を引き下げてほしい。
- ・行政の担当者にはお世話になっており感謝している。

（相談機関に求めること等について）

- ・半年に一度程度で良いので、相談会みたいな会があっても良いと思う。そこに行けば、市の担当課では答えられないような専門家がそろっていて、1日で大きく進めるし、解決出来る。私は必要無いが、困っていてどうして良いか分からない人をたまに目にしている。
- ・利用出来る制度等の情報をわかりやすく発信して欲しい。さまざまな窓口を1本化して欲しい。
- ・障害の1級、2級とか関係なく年に1回位は訪問をしてほしい。なかなか相談する事が出来ないで聞いてもらえるだけで気持ちが楽になる。
- ・モニタリングや申請等、決まったことだけしか対応してくれない。
- ・支援員によって気軽に声をかけられない。
- ・相談するところをもっといっぱいほしい。現状、生活に困っている。
- ・相談に行った時にいろいろ話をして「それは大変ですね」とまとめられた。親身になって相談にのってくれない。
- ・自分が1人になった時、相談してくれる人がほしい。
- ・困っていることがよくわからないので、どこに何をどのように相談したら良いか。不安がなくなるためにはどのようにしたら良いか、少しでも分かるとありがたい。

（教育機関に求めること等について）

- ・市町によって支援学級の体制が異なる。
- ・支援の程度に合わせたクラスを作ってほしい。
- ・支援学校は手厚いが支援学級は手厚くないので、子供が学校で何をしているか分からない。
- ・支援が必要となる子供が増えている中で、先生の確保もできず障害の理解もしていない先生を支援担任にするのはどうかと思う。
- ・支援学級の先生の数は足りていないし先生の質も悪い。

- ・学校などへの送迎等へ手厚く介助や支援があると、親の仕事や家族の負担が少なくなる。そういうことも助けてもらえるとても助かる。
- ・学校卒業から卒業後の生活への移行は、本人にとってかなり大きなことなので、もう少し本人に寄り添った対応ができないものかを感じる。
- ・校外学習時に移動支援が利用できないと、学校の学習なのに参加ができない。
- ・特別支援学校に通っているが、一人で移動が出来ない、自分で座位をとれないためにバスの利用ができない。バギーにでも乗ることができればみんなと一緒に登校や遠足などへ行けるのに。遠足では親が現地に連れていったり迎えに行ったり、そのためにわざわざ仕事を休まなくてはならない。
- ・卒業後、現在の環境や制度も変わっていると思うので、面談などで個々へのサービスなどを提案してもらえると助かる。(働きかたやグループホームの利用のために最低限身に付けておくことなど)

#### (障害及び障害者理解について)

- ・障害(精神)は見た目では理解してもらえないことがほとんどで、保障もほぼ無く、仕事はしているが必要以上の物は確保出来ず今後の生活が不安。
- ・一人で頑張りたいのに、スーパーや施設の対応が冷たい。
- ・失業や再就職時に当事者の境遇や気持ちを理解し、また配慮出来る支援者が増えてほしい。
- ・相談員や行政の質の向上も大切だが、同じ人間なのでそれよりも周囲の一般の人々の理解などが必要。
- ・聴覚障害者の中には、いろいろなタイプの人があり、外見だけで健常者と変わらない人がいるのできちんと見て対応してほしい。中には大声で話せばわかると勘違いする人もいる。
- ・潰瘍性大腸炎を患っており、トイレの心配が常にある。町中などすぐに入れてきれいなトイレがあると良い。病気についての認識度はあがってきているので、もう少しかなと考えている。
- ・親が差別的であったため、精神科に通わせてもらえない時期があった。精神科への偏見を少なくしたり、家庭に介入して家族に理解を促したりするような制度が作れば良いと思う。
- ・優先席への配慮や若者の障害者に対する認識が無知すぎる。

#### (暮らしについて)

- ・強度行動障害など、手のかかる人を受け入れる施設やグループホームを各地域に増やしてほしい。
- ・障害があっても安心して一人暮らしが出来る、隣などの音が気にならなくて静かに住める所を作ってほしい。
- ・福祉作業所では送迎があり相談機関等も気にかけてくれるので感謝している。
- ・高齢者の施設は増えているが、障害者の施設は少ない。将来親子で入所できるような場所を作ってほしい。
- ・成人の障害者をもつ親として、親は子の学校時代が終わると個々の考えにより孤独を感じる場面が多くなる。苦しい、辛い、悲しい親の気持ちを聞いてもらえる場所や環境を作ってほしい。
- ・どんなサービスが受けられるのか定期的に知らせてほしい。
- ・オムツをつけて入ることができるプールや1年中入れるプールがないので、あれば良いと思う。
- ・どこに(ホームページなど)どんな情報があるのか?どんな配慮があるのかわからない。
- ・交流の場を増やしてほしい。
- ・病気に関する朗報(例えば、薬が認可される)があればすぐに知らせたい。
- ・将来、高齢になった時に一人で生活する事が出来ないので、障害者施設や高齢者施設に優先的に入居出来るようにしてほしい。

- ・小児がんによる後遺症があるが、年齢が上がるにつれて過去に受けた治療の影響が出て来て不安。
- ・新しい治療法や制度など利用できるものがあれば知らせてほしい。
- ・電車やバスなどの公共交通機関を割引で乗れるようにしてほしい。
- ・栃木県は車社会なので公共機関が不便。
- ・通院のタクシー代は出してもらえるが、その他の病院へ行くためのタクシー代は対象外と言われた。要支援者にも多少で良いから出してもらえると助かる。
- ・病院で一生を終えるので、やりたいことのサポートができないか。(現在コロナ感染対策のため、本来できる(サポート) ことができない状況になっている)

(災害時の心配事等について)

- ・災害時における、避難行動要支援者の避難支援制度で個別プランシートを作り登録はしているが、避難した時のことがとても心配。重度障害者はどうなるのか文書では読んでいるが、実際には不安なことばかりであるため災害時についてのあらゆる情報提供をしてほしい。
- ・土砂災害危険区域と言われているがどうすることもできず困っている。
- ・独言や多動があるので災害時にどうしたら良いかわからない。とても不安になるが誰に相談すれば良いかわからない。

(就労について)

- ・パートタイマーの労働条件はまだまだ改善されていない。同一労働同一賃金、もっと法整備をしないと障害者でフルタイム勤務ができない人の人権が守られないことになってしまう。
- ・障害者向けの雇用の拡充
- ・心疾患があっても受け入れてくれる職場が多くなると良い。将来的に必ず検査入院があるので、医療費がかからないような制度を成人になっても継続してほしい。
- ・職場では精神障害への理解がないので障害を隠して働かなければならないため、障害者控除の申請がしにくい。
- ・就労継続支援A型事業所で働こうとしたが、利用料が高く手元に残らないのであきらめた。
- ・働き口が見つからない。

## 【その他】

(障害及び障害者理解に関すること)

- ・障害がある、ないで学生の時は分けられ、苦い思いだけだった。大人として働く今は、障害福祉のお陰で障害がない人と変わらない生活を送れている。今は親も子もおだやかで幸せな気持ちで暮らせることに感謝している。
- ・聴覚障害者の老後に一人で生活できるか不安なので、相談機関などをわかりやすくアピールして欲しい。
- ・隠すため、無理して働き、体調を悪くして退職を繰り返してきた。一生クローズで生きなければならずつらい。周りの理解、偏見をなくしてほしい。
- ・自分の障害は強迫性障害であるが、同じような障害をもっている人が自分の周りにはいないので、強迫性障害のある人と悩みを話し合うような場が分からない。なかなか世間との繋がりを持ってないことに不安と不満がある。
- ・家庭内での差別、偏見がある。本人の病気を家族が受け入れようとしない。
- ・出先で具合が悪くなったので席を確保して休んでいたら、同世代の人に大声で悪口を言われたことがある。助けてくれなくて良いので、悪口は言わないことくらいは理解してくれれば生きやすいと思う。
- ・病院等でのカウンセリングを受けたことがあるが、理解しているカウンセラーはどれだけの理解しがたい。薬だけの処方なので内面的には理解してもらえないことが現実だと思う。
- ・障害者への偏見・差別がある支援者に出会ったことがある。

(暮らしについて)

- ・趣味、スポーツにもっと参加した方が良い。
- ・障害のある人に対して犯罪等が少しでも減ると良い。
- ・このままだと持ち家に一人で生活しなければならない。交流の場が欲しい。
- ・今後、親が関わられなくなってしまったらと思うと夜も眠れなくなる。特に入居施設などでの虐待などのニュースを聞くたびに心が折れそうになる。
- ・将来一人になった時にどうしたら良いか分からない。
- ・親の面倒
- ・専門スタッフの充実
- ・サービス従事者の確保
- ・訪問診察を受ける程の状態ではなくても、通院は本人や家族の負担になっていると思う。電話診察や薬の配達などのサービスが充実してくることを期待する。
- ・病院が遠い。
- ・麻痺は軽度でも視覚障害があると使えるサービスがほとんどない。視覚障害があると、そもそも相談に行くことができないので、移動手段をどうにかしてほしい。
- ・スマホ代・電気代・エアコンの価格が高すぎる。障害者がいる世帯は、一律に半額免除にしてほしい。ガソリン代も高い。
- ・精神障害の障害年金をもっと受給できるようにしてほしい。
- ・服薬を続ければ普通の生活ができるが薬代は高額。現在はこども医療や小慢の助成があるが、将来的には医療費の負担が必要となるのが親としては気がかりである。
- ・今後、コロナワクチンが有料になると打てない。マスクを付けられないことからワクチンだけはきちんと打ちたいが、お金が大変なので無理だと思う。
- ・目が悪いことで働きたくても働けなくなるので、家のローンが心配。
- ・重度な子ども達の通所施設を作してほしい。
- ・親の勤務時間にも対応できる施設。
- ・日中帯の支援事業所は、ある程度増えてきているが、夜間帯の入所施設は不足している。どこも空き待ち状態希望があっても入れない。
- ・日曜日でも受入可能なデイサービスがほしい。短期入所などの入所施設が少なすぎる。
- ・障害を持ちながら仕事をしていても収入が少ないと生活するのも大変な方がたくさんいると思う。収入状況に応じた手当などがあれば安心して生活を送ることができると思う。親家族と同居していても、一人で自立するために経済的な手当を検討してもらえれば、親としては安心できる。
- ・本人と母親の2人暮らし。本人は意志疎通が困難で身体も虚弱であり、歩行はできるがやや不安定である。短期入所ができる事業所が少なく何ヶ所かに断わられたことがある。安心して受け入れてもらえる事業所ができればと思う。
- ・強度行動障害の人の親が高齢になったときに、本人が入所できる施設があるのか不安。
- ・国は今後入所施設を作らずにグループホームへ移行する方針だが、強度行動障害の人に対応してくれるのかが不安。
- ・現在通所している施設で将来入所できるとは限らない。本人の育った地域で受け入れてくれる施設があるのかが不安。
- ・福祉施設の利用料が高い。
- ・肢体不自由児+医療的ケア児が通学できる学校がほしい。
- ・起立性調節障害を難病指定として学校へ行けない場合のサポートができるようにしてほしい。現在、親との同居で生活しているので生活費等の面倒をみているが、親が高齢になって年金のみの収入になると親としてどこまで補助ができるかが不安。
- ・発達障害で高校受験をすることになるが、高校にも支援学級を増やしてほしい。

(就労について)

- ・まだ仕事がしたい。仕事はできるが働く会社がない。障害を持つ若い方々には、私の様な思いをさせる事のないよう、未来のある差別のない世の中に変わってほしい。
- ・会社に1人相談員を置くような制度があれば良いと思う。



- ・今、県の仕事で障害者として勤務しているが採用が5年までである。年齢的には次の仕事が見つかりにくいので長期採用をお願いしたい。

(調査について)

- ・本人が答えることは難しく、意向を組むということも難しかった。
- ・障害といってもいろいろあるので障害別のアンケートの方が内容は濃くなると思う。障害というくくりの中で該当する答えが見つからない物もある。
- ・調査期間が短い。届いてから2週間しかなかった。
- ・精神障害をもつ私には、この長いアンケートは厳しい。
- ・返信用封筒が小さすぎる。
- ・この調査は誰を対象にしているのか。この調査の質問をしても何を聞かれているか、何を答えるのか、理解のできない子には無意味である。
- ・こうしたヒアリングをしていただけるのはありがたい。
- ・このアンケートによって障害者に対しての理解が深まってほしい。

(その他の御意見)

- ・特定疾患の受給者証の更新について、1日だけでも良いので土曜日もしくは日曜日にも受付をしてほしい。
- ・マイナンバーカードの障害者情報のひも付けの誤りがあったようで気がかりである。誤課税にならないように総点検をしっかりやってほしい。
- ・マイナンバーカード制度をなくしてほしい。
- ・臓器提供、臓器移植に対する県民の理解を向上させたい。賛否はあっても当然だが、議論できる環境が作れたら良い。
- ・聴覚障害の障害者手帳の基準に「70デシベル以上」とあるが、聴力検査や発音の聞きとりテストなどを受けた時、機械で発する声と生身の声とでは聞こえ方が違うと思う。人にもよるが機械音は割と聞きとりやすく、人の声は聞き返さないとわかりにくいと思う。検査方法を考え直してほしい。
- ・精神障害者の交通費助成の制度はとても助かっている。これからも続けてほしい。
- ・AIや新しいアプリなどを活用できるようにしてほしい。
- ・明るい未来にがんばる栃木県を実現したい。
- ・現在の体制、システムは良くできていると思う。これからのために、より充実されることを希望する。

とちぎけんしょうがい かた せいかつじつたいちょうさ ごきょうりよく ねが  
栃木県障害のある方の生活実態調査への御協力をお願い

けんみん みなさま ひ けんせいぜんぱん ごりかい ごきょうりよく  
県民の皆様には、日ごろから県政全般にわたり、御理解と御協力をいただき、  
こころ かんしゃもう あ  
心から感謝申し上げます。

とちぎけん れいわ ねんど しょねんど じきしょうがいしゃけいかく さくてい こんご  
さて、栃木県では、令和6年度を初年度とする次期障害者計画の策定や、今後  
しょうがいほけんふくししさく すいしん やくだ しょうがい かた せいかつじつたいちょうさ  
の障害保健福祉施策の推進に役立てるため、障害のある方の生活実態調査を  
じっし  
実施することといたしました。

ちょうさひょう しんたいしょうがいしゃてちょう りょういくてちょう せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょうおよ とくてい  
調査票は、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び特定  
いりょうひ していなんびょう じゅきゅうしゃしょう も かた なか むさくい ちゅうしゅつ おく  
医療費（指定難病）受給者証をお持ちの方の中から無作為に抽出し、お送  
りしています。

ちょうさ むきめい ごかいとう かいとう かた とくてい  
この調査は、無記名で御回答いただきますので、回答された方が特定され  
こじん かいとうないよう あき ごかいとう  
り、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。また、御回答  
ないよう ちょうさもくてきいがい いっさいしょう  
いただいた内容は、調査目的以外には一切使用いたしません。

ちょうさ しゅし ごりかい ごきょうりよく ねが  
つきましては、調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い  
もう あ  
申し上げます。

れいわ ねん がつ  
令和5年7月

とちぎけん ち じ ふくだ とみかず  
栃木県知事 福田 富一

ちょうさ ごかいとう さい ねが  
●調査に御回答いただく際のお願い

ちょうさ なまえ か ひつよう  
・この調査は、お名前を書く必要はありません。

あてな ごほんにん ちやくせつかいとう むすか ばあい ごかそく かいごしゃ かた  
・宛名の御本人が直接回答いただくことが難しい場合には、御家族や介護者の方など  
ごほんにん いこう そんちょう きにゅう しょうがいじ りょういく かん  
が、御本人の意向を尊重して記入してください。また、「障害児の療育」に関する  
しつもん ほごしゃ かた かいとう  
質問については、保護者の方が回答してください。

かいとう れいわ ねん がつ にちげんざい じょうきょう きにゅう  
・回答は、令和5年7月1日現在の状況を記入してください。

ごきにゅう ちょうさひょう どうふう へんしんようふうとう い れいわ ねん がつ にち きん  
・御記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、令和5年7月21日（金）  
きって は ゆうびん とうかん なまえ じゅうしょ きにゅう ふよう  
までに、切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。（お名前や住所の記入は不要  
です。）

●<sup>しかくしょうがい</sup>視<sup>かた</sup>覚<sup>かた</sup>障<sup>かた</sup>害<sup>かた</sup>のある方へ

<sup>てんじ</sup>点<sup>かいとう</sup>字<sup>きぼう</sup>での回<sup>ばあい</sup>答<sup>てんじばん</sup>を希<sup>ちょうさひょう</sup>望<sup>ごようい</sup>する場<sup>ごようい</sup>合<sup>ごようい</sup>には、点<sup>ごようい</sup>字<sup>ごようい</sup>版<sup>ごようい</sup>の調<sup>ごようい</sup>査<sup>ごようい</sup>票<sup>ごようい</sup>を御<sup>ごようい</sup>用<sup>ごようい</sup>意<sup>ごようい</sup>してお<sup>ごようい</sup>り<sup>ごようい</sup>ま<sup>ごようい</sup>す<sup>ごようい</sup>ので、  
<sup>てすう</sup>お<sup>かき</sup>手<sup>と</sup>数<sup>あ</sup>です<sup>さき</sup>が、下<sup>これんらくねが</sup>記<sup>これんらくねが</sup>の問<sup>これんらくねが</sup>い<sup>これんらくねが</sup>合<sup>これんらくねが</sup>わ<sup>これんらくねが</sup>せ<sup>これんらくねが</sup>先<sup>これんらくねが</sup>に御<sup>これんらくねが</sup>連<sup>これんらくねが</sup>絡<sup>これんらくねが</sup>願<sup>これんらくねが</sup>い<sup>これんらくねが</sup>ま<sup>これんらくねが</sup>す。

●<sup>ちょうさ</sup>調<sup>かん</sup>査<sup>と</sup>に<sup>あ</sup>関<sup>さき</sup>する<sup>さき</sup>問<sup>さき</sup>い<sup>さき</sup>合<sup>さき</sup>わ<sup>さき</sup>せ<sup>さき</sup>先<sup>さき</sup>

<sup>とちぎけん</sup>栃<sup>ほけんふくしふ</sup>木<sup>しょうがいふくしか</sup>県<sup>きかくすいしんたんとう</sup> 保<sup>きかくすいしんたんとう</sup>健<sup>きかくすいしんたんとう</sup>福<sup>きかくすいしんたんとう</sup>祉<sup>きかくすいしんたんとう</sup>部<sup>きかくすいしんたんとう</sup> 障<sup>きかくすいしんたんとう</sup>害<sup>きかくすいしんたんとう</sup>福<sup>きかくすいしんたんとう</sup>祉<sup>きかくすいしんたんとう</sup>課<sup>きかくすいしんたんとう</sup> 企<sup>きかくすいしんたんとう</sup>画<sup>きかくすいしんたんとう</sup>推<sup>きかくすいしんたんとう</sup>進<sup>きかくすいしんたんとう</sup>担<sup>きかくすいしんたんとう</sup>当<sup>きかくすいしんたんとう</sup>

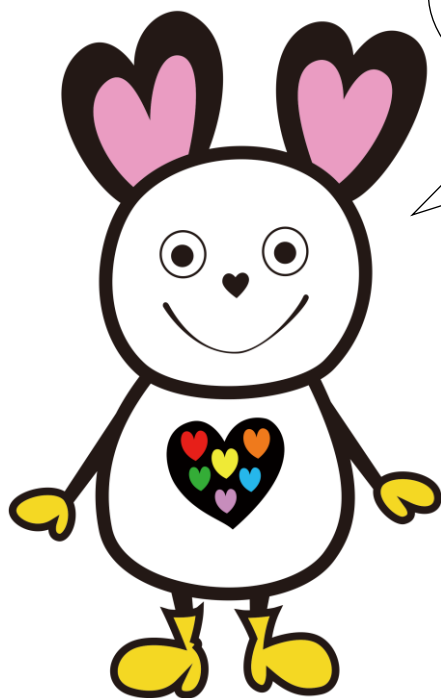
〒320-8501 <sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>栃<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>木<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>県<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>宇<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>都<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>宮<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>市<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>塙<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup>田<sup>とちぎけんうつのみやしはなわだ</sup> 1-1-20

<sup>でんわばんごう</sup>電<sup>でんわばんごう</sup>話<sup>でんわばんごう</sup>番<sup>でんわばんごう</sup>号<sup>でんわばんごう</sup> 028-623-3490

<sup>はんごう</sup>フ<sup>はんごう</sup>ァ<sup>はんごう</sup>ク<sup>はんごう</sup>ス<sup>はんごう</sup>番<sup>はんごう</sup>号<sup>はんごう</sup> 028-623-3052

メ<sup>syougai-fukushi@pref.tochigi.lg.jp</sup>ール<sup>syougai-fukushi@pref.tochigi.lg.jp</sup>アド<sup>syougai-fukushi@pref.tochigi.lg.jp</sup>以<sup>syougai-fukushi@pref.tochigi.lg.jp</sup> [syougai-fukushi@pref.tochigi.lg.jp](mailto:syougai-fukushi@pref.tochigi.lg.jp)

○<sup>すいしん</sup>と<sup>すいしん</sup>ち<sup>すいしん</sup>ぎ<sup>すいしん</sup>ナ<sup>すいしん</sup>イ<sup>すいしん</sup>ス<sup>すいしん</sup>ハ<sup>すいしん</sup>ー<sup>すいしん</sup>ト<sup>すいしん</sup>推<sup>すいしん</sup>進<sup>すいしん</sup>マ<sup>すいしん</sup>ス<sup>すいしん</sup>コ<sup>すいしん</sup>ッ<sup>すいしん</sup>ト<sup>すいしん</sup>キ<sup>すいしん</sup>ャ<sup>すいしん</sup>ラ<sup>すいしん</sup>ク<sup>すいしん</sup>タ<sup>すいしん</sup>ー<sup>すいしん</sup>「<sup>すいしん</sup>ナ<sup>すいしん</sup>イ<sup>すいしん</sup>チ<sup>すいしん</sup>ユ<sup>すいしん</sup>ウ<sup>すいしん</sup>」



<sup>しょうがい</sup>障<sup>ひと</sup>害<sup>かつやく</sup>のある<sup>かつやく</sup>人<sup>かつやく</sup>た<sup>かつやく</sup>ち<sup>かつやく</sup>の<sup>かつやく</sup>活<sup>かつやく</sup>躍<sup>かつやく</sup>ぶ<sup>かつやく</sup>り<sup>かつやく</sup>を  
<sup>しょうかい</sup>紹<sup>しょうかい</sup>介<sup>しょうかい</sup>し<sup>しょうかい</sup>た<sup>しょうかい</sup>り<sup>しょうかい</sup>、イ<sup>しょうかい</sup>ベ<sup>しょうかい</sup>ン<sup>しょうかい</sup>ト<sup>しょうかい</sup>で<sup>しょうかい</sup>た<sup>しょうかい</sup>く<sup>しょうかい</sup>さ<sup>しょうかい</sup>ん<sup>しょうかい</sup>の  
<sup>とも</sup>お<sup>とも</sup>友<sup>とも</sup>だ<sup>とも</sup>ち<sup>とも</sup>と<sup>とも</sup>ふ<sup>とも</sup>れ<sup>とも</sup>あ<sup>とも</sup>っ<sup>とも</sup>て<sup>とも</sup>ま<sup>とも</sup>チ<sup>とも</sup>ユ<sup>とも</sup>ウ<sup>とも</sup>。

とちぎけん しょうがい かた せいかつじったいちょうさ  
栃木県 障害のある方の生活実態調査

以下の設問に対し、あてはまる番号に○をつけてください。

また、記述式の設問には内容を具体的に御記入ください。

記入年月日：令和5年 月 日

(1) この調査の回答方法について、教えてください。＜1つだけ○をつける＞

1. 本人が記入
2. 本人の意思を代筆で記入
3. 家族や支援者が本人の意向をくみ取り、代わりに記入

(2) 御本人の現在の状況について、教えてください。

① 年齢：  歳 <年齢を記入する＞

② 性別： 1. 男性 2. 女性 3. 回答しない <1つだけ○をつける＞

③ お住まいの市町： [  市・町 ] <市・町を記入する＞

④ あなたの障害について <あてはまるものすべてに○をつける＞

1. 身体障害
  - a. 視覚障害
  - b. 聴覚障害
  - c. 平衡機能障害
  - d. 音声・言語・そしゃく機能障害
  - e. 肢体不自由（手足の欠損や麻痺など）
  - f. 内部障害（内臓などの障害）
2. 知的障害
3. 精神障害
4. 発達障害
5. 高次脳機能障害
6. 難病（特定疾病）
7. その他（  ）

⑤ 手帳等の所持について <あてはまるものすべてに○をつける>

1. 身体障害者手帳（種類：  
（ 1級 2級 3級 4級 5級 6級 ）
2. 療育手帳（ A1 A2 B1 B2 ）
3. 精神障害者保健福祉手帳（ 1級 2級 3級 ）
4. 特定医療費（指定難病）受給者証（ 有り 無し ）

問1 現在、悩み事がありますか。 <3つまで○をつける>

1. 進学や学校のこと
2. 人間関係のこと
3. 恋愛や結婚のこと
4. 就職や仕事のこと
5. 子育てや子どもの教育のこと
6. 家庭のこと
7. 自分の老後のこと
8. 親の老後のこと
9. 健康や身体のこと
10. 医療のこと
11. 福祉・保健サービスの利用のこと
12. お金のこと
13. お住まいの確保のこと
14. 災害時の安全確保のこと
15. その他（ ）
16. 悩み事はない

問2 今後、福祉や生活に関する相談支援体制として、どのようなことを希望しますか。

<3つまで○をつける>

1. どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい
2. 休日・夜間の相談ができるようにしてほしい
3. 身近な地域で相談できるようにしてほしい
4. 相談員の質（知識・相談技術等）を向上させてほしい
5. 相談窓口を一本化してほしい
6. 病院・福祉施設等による訪問相談をしてほしい
7. その他（ ）

問3 あなたは、老化・高齢化に伴う身体等の機能低下を感じていますか。

<あてはまるものすべてに○をつける>

1. 体力的低下
2. 歩行困難
3. 認知能力の低下（新しいことを覚えられない、料理・掃除をすることが難しい）
4. 身体の麻痺
5. 言語の低下（言い間違える、言われていることが分からない、言葉が思い出せない）
6. 視覚（視力）の低下
7. 聴力の低下（聞き返すことが増える、テレビの音量が大きいとされる）
8. そしゃく、嚥下の低下（うまくかめない、飲み込みにくい、よく咳き込む）
9. その他（ ）

問4 あなたは、認知症を予防するための活動に取り組んでいますか、もしくは取り組んでみたいとおもいますか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

1. 認知症を早期に発見できるテスト等を受けた（受けてみたい）
2. 自宅でできる活動に取り組んだ（取り組みたい）
3. 近くの健康センター等で行う予防活動に参加した（参加してみたい）
4. 予防教室等の活動に参加している（参加してみたい）
5. 予防活動に取り組む必要性を感じない
6. わからない

問5 あなたは障害があることで、差別されたり、嫌な思いをする（した）ことがありますか。 <1つだけ○をつける>

1. よくある
2. 少しある
3. ない

問6 【問5で「1. よくある」、「2. 少しある」と回答した方のみ】

それは、どのような時に感じましたか。 <3つまで○をつける>

1. 難しい言葉や聞き取りづらい言葉で対応された
2. 障害があることを理由に対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった
3. 理由もなく対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった
4. 通路や各種割引などのわかりやすい案内表示がなかった
5. 官公庁や商業施設などに自分の障害に対応する設備等がなかった  
(例) 入り口にスロープがなかった、自分の障害に対応するトイレ等がなかった
6. その他 ( )

問7 【問5で「1. よくある」、「2. 少しある」と回答した方のみ】

その時、誰かに相談しましたか。 <1つだけ○をつける>

1. 家族に相談した
2. 相談支援専門員や福祉施設の職員に相談した
3. 栃木県や市町の障害者差別に関する相談窓口で相談した
4. 医療機関の職員に相談した
5. 差別を受けた相手方に伝えた
6. 誰にも相談していない

問8 【問7で「6. 誰にも相談していない」と回答した方のみ】

それは、なぜですか。 <1つだけ○をつける>

1. 障害者差別に関する相談窓口があることを知らなかった
2. 相談するほどのことではないと思った
3. 誰にも知られたくなかった
4. その他 ( )

問9 今から3年前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思います

か。(障害のある人への理解は進んだと思いますか。) <1つだけ○をつける>

1. かなり改善されたと思う
2. ある程度改善されたと思う
3. あまり改善されていないと思う
4. ほとんど改善されていないと思う



問10 障害のある人となない人が同じように生活するためには、さまざまな配慮や工夫が必要になることがあります。特に力を入れるべき事は何だと思いませんか。

<1つだけ○をつける>

1. 障害に関する理解の促進
2. 障害に関する教育機会の充実
3. 幼い頃からの障害のある人となない人との交流の促進
4. 障害者作品展や障害者スポーツなどにおける障害のある人となない人との交流するイベントの開催
5. その他 ( )

問11 あなたは、ヘルプマーク、ヘルプカードを利用していますか。 <1つだけ○をつける>

1. 利用している
2. 利用していない

問12 あなたは日常的にどのような方法により情報入手していますか。

<3つまで○をつける>

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 広報誌
5. 地元の回覧板
6. メール
7. インターネット
8. SNS (ライン、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど)
9. 家族・知人
10. 支援者 (ヘルパーや事業所)
11. 民生委員・児童委員
12. その他 ( )

問13 あなたはどのような方法で、他者とコミュニケーションしていますか。

<あてはまるものすべてに○をつける>

1. 会話
2. 手話
3. 点字
4. 要約筆記
5. 触手話
6. 指点字
7. 筆談
8. 身振り・手振り
9. 絵・カード
10. 情報通信機器（スマートフォン、音声認識アプリなど）
11. コミュニケーションボード（意思伝達装置を含む）
12. 家族や介護者の支援
13. その他（ ）

問14 あなたは、他者とコミュニケーションする際、困ったことはありますか。

<1つだけ○をつける>

1. ある
2. ない

問15 【問14で「1. ある」と回答した方のみ】

それは、どのような場面でしたか。

(自由記述)

問16 現在、あなたはどのように暮らしていますか。 <1つだけ○をつける>

1. 一人で暮らしている
2. 家族と暮らしている
3. グループホームで暮らしている
4. 福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている
5. 病院に入院している
6. その他（ )

問17 あなたは今後どのように暮らしたいですか。 <1つだけ○をつける>

1. 一般住宅で一人暮らしをしたい
2. 家族と一緒に暮らしたい
3. グループホームで暮らしたい
4. 福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい
5. その他（ )

問18 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。

<あてはまるものすべてに○をつける>

1. 在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること
2. 障害者に適した住居の確保
3. 必要な在宅サービスが適切に利用できること
4. 生活訓練等の充実
5. 移動サービスの充実
6. 経済的負担の軽減
7. 相談対応等の充実
8. 地域住民等の理解
9. コミュニケーションについての支援
10. その他（ )



問21 あなたは、仕事を<sup>しごと</sup>する、または仕事を<sup>しごと</sup>を<sup>けいぞく</sup>継続するためには、どのような<sup>はいりよ</sup>配慮が<sup>ひつよう</sup>必要だと思<sup>おも</sup>いますか。 <あてはまるものすべてに○をつける>

1. 通勤手段<sup>つうきんしゆだん</sup>の確保<sup>かくほ</sup>
2. 通院時間<sup>つういんじかん</sup>の確保<sup>かくほ</sup>
3. 勤務場所<sup>きんむばしよ</sup>におけるバリアフリー等<sup>とう</sup>の配慮<sup>はいりよ</sup>
4. 短時間勤務<sup>たんじかんきんむ</sup>や勤務日数等<sup>きんむにつうとう</sup>の配慮<sup>はいりよ</sup>
5. 職場<sup>しょくば</sup>に相談<sup>そうだん</sup>できる人<sup>ひと</sup>がいてほしい
6. 在宅勤務<sup>ざいたくきんむ</sup>の拡充<sup>かくじゆう</sup>
7. 職場<sup>しょくば</sup>の障害者<sup>しょうがいしゃりかい</sup>理解
8. 就労後<sup>しゅうろうご</sup>のフォローなど職場<sup>しょくば</sup>と支援機関<sup>しえんきかん</sup>の連携<sup>れんけい</sup>
9. その他<sup>た</sup> ( )

問22 あなたは働<sup>はたら</sup>くために、雇用する側<sup>こよう</sup>にどのよう<sup>がわ</sup>な取組<sup>とりくみ</sup>や合理的<sup>ごうりてき</sup>配慮<sup>はいりよ</sup>を希望<sup>きぼう</sup>しますか。  
<あてはまるものすべてに○をつける>

1. 障害<sup>しょうがい</sup>のある人<sup>ひと</sup>の雇用<sup>こよう</sup>の促進<sup>そくしん</sup>
2. 障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>になっても継続<sup>けいぞく</sup>して働<sup>はたら</sup>くことができる体制<sup>たいせい</sup>の整備<sup>せいび</sup>
3. 障害<sup>しょうがい</sup>のある人<sup>ひと</sup>に配慮<sup>はいりよ</sup>した事業所<sup>じぎょうしょ</sup>などの改善<sup>かいぜん</sup>・整備<sup>せいび</sup>
4. 職場<sup>しょくば</sup>での精神的<sup>せいしんてき</sup>不安<sup>ふあん</sup>を解消<sup>かいしょう</sup>する相談<sup>そうだん</sup>体制<sup>たいせい</sup>等<sup>とう</sup>の整備<sup>せいび</sup>
5. その他<sup>た</sup> ( )

問23 あなたはスポーツや運動うんどうをおこなっていますか。 <1つだけまる○をつける>

1. 週しゅうに3回かいじょう以上
2. 週しゅうに1～2回かい
3. 月つきに1～3回かい
4. 年ねんに数回すうかい程度ていど
5. 行おこなっていない

問24 【問23で「5. 行おこなっていない」と回答かいとうした方かたのみ】

スポーツや運動うんどうをおこなっていない理由りゆうは何なんですか。 <3つまでまる○をつける>

1. どのようなスポーツや運動うんどうがあるかわからない
2. どうすればスポーツや運動うんどうを始はじめられるかわからない
3. スポーツや運動うんどうの指し導どう者がいない
4. スポーツや運動うんどうができる場ばが近ちかくにない
5. スポーツや運動うんどうに興き味ょうみがない
6. 身体等しんたいとうの理由りゆうからスポーツや運動うんどうをおこなうことができない
7. その他た ( )

問25 今後行ってみたいスポーツや運動は何ですか。〈あてはまるものすべてに○をつける〉

1. ウォーキング・散歩
2. 体操（ラジオ体操・ストレッチ・ヨガなど）
3. 陸上競技
4. 水泳
5. アーチERY
6. ボッチャ
7. 卓球
8. フライングディスク
9. ボウリング
10. バスケットボール・車いすバスケットボール
11. ソフトボール・グラウンドソフトボール・フットソフトボール
12. バレーボール
13. サッカー
14. 興味がない
15. その他（ ）

問26 スポーツや運動を行う際に必要な支援は何ですか。〈3つまで○をつける〉

1. 体育館などの施設や設備のバリアフリー化
2. 障害者が優先的に使える施設の充実
3. 障害に合わせたプログラムの充実
4. 介助者や手話通訳などの支援
5. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
6. 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援
7. 適切な指導者
8. 一緒に行く仲間
9. その他（ ）

とい 問27 あなたは文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうを行っていますか。 <3つまで○をつける>

1. 絵画かいが
2. 版画・彫刻はんが ちょうこく
3. 書道しょどう
4. 手工芸しゅこうげい
5. 陶芸とうげい
6. 写真・映像しゃしん えいぞう
7. 音楽おんがく
8. ダンス
9. 演劇えんげき
10. その他 ( )
11. 行っていないおこな

とい 問28 【問27で「11. 行っていない」と回答した方のみ】

文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうを行っていない理由りゆうは何ですか。 <3つまで○をつける>

1. どのような文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうがあるかわからない
2. どうすれば文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうを始められるかわからない
3. 文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうの指導者しどうしゃがいない
4. 文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうができる場ばが近くちかにない
5. 文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうに興味きょうみがない
6. 身体等しんたいとうの理由りゆうから文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうを行おこなうことができない
7. その他 ( )



とい こんごおこな 問29 今後行ってみ<sup>たい</sup>文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうはありますか。

じゆうきじゆつ  
(自由記述)

とい ぶんかげいじゆつかつどう おこな 問30 文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうを行う際さいの課題かだいや必要ひつようとしてい<sup>る</sup>ことがあ<sup>れ</sup>ば教<sup>え</sup>てく<sup>だ</sup>さい。おし

< 1つだけ<sup>まる</sup>○をつける >

1. しえんしゃ 支援者かくほの確保
2. かつどう 活動する場所ぼしよ
3. かつどう 活動する資金しきん
4. はっぴよう 発表する場ばの確保かくほ
5. その他 ( た )

問31 あなたは、ちいき 地域じちかいの自治会はいなどに入<sup>っ</sup>ていますか。 < 1つだけ<sup>まる</sup>○をつける >

1. はい 入<sup>っ</sup>ている
2. はい 入<sup>っ</sup>っていない
3. はい 入<sup>っ</sup>っていたがやめた

問32 あなたは、地震や台風などの災害時に、ひとりで避難できますか。

<1つだけ○をつける>

1. できる
2. できない
3. わからない

問33 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

<1つだけ○をつける>

1. いる
2. いない
3. わからない

問34 地震や台風などの災害時に、どのようなことに心配や不安がありますか。

<3つまで○をつける>

1. どこに避難してよいかわからない
2. 避難する時に介助や支援をしてくれる人がいない
3. 災害に関する情報の入手
4. 避難場所が障害者に配慮されているか
5. 避難場所で必要な医療や介助が受けられるか
6. その他 ( )

とい 問35 御意見・御要望がありましたら御記入ください。

<p>にちじょうせいかつ なか 日常生活の中で こま 困っていること</p>	
<p>ぎょうせい そうだんきかんとう 行政・相談機関等 への御意見・要望</p>	
<p>その他</p>	

ちょうさ ごきょうりょく  
調査に御協力いただきありがとうございました。

